秋田県文化財調査報告書第342集

遺跡詳細分布調査報告書

2002.3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

2002.3

秋田県教育委員会

秋田県には約4,500箇所を超える遺跡が知られており、先人の足跡として多くの埋蔵文化財が受け継がれています。これらは大地に刻まれた歴史であり、損なうことなく未来へと受け継がれるべきものであります。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は、平成13年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などの遺跡分布調査と、大館西道路建設事業・琴丘能代道路建設事業などの遺跡確認調査の結果をまとめたものです。

報告書をまとめるにあたり、調査に御協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましては御理解くださいますよう、お願い申し上げます。

平成14年3月

秋田県教育委員会 教育長 小野寺 清

例 言

- 1 本報告書は平成13年度に秋田県教育委員会が国庫補助金を得て実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお本書収録の報告は平成13年4月から同12月までの実施分であり、平成14年1月以降については、来年度に報告する予定である。また、平成13年1月から3月までに実施した遺跡分布調査の結果報告を平成12年度補足分として掲載した。
- 2 本報告書に収録の遺跡分布調査・遺跡確認調査は主に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室・ 秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報告は、遺跡分布調査については秋田県教育庁生 涯学習課文化財保護室が、遺跡確認調査については各調査担当者がそれぞれ作成したものを秋田 県埋蔵文化財センターが編集した。
- 3 本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の1および25,000分の1地形図と、日本道路公団・国土交通省・県建設交通部・県農政部・県林務部・県生活環境文化部・県教育庁が作製した平面図である。

なお、第2図は25,000分の1地形図を60%、第10図および第57図は25,000分の1地形図を50%、それぞれ縮小して作製した。

目 次

序			(35) 県営ほ場整備事業 合地地区 32
例 言			(36) 県営ほ場整備事業 三ノ渡地区 ・・・・・・・・・ 33
目 次			(37) 県営ほ場整備事業 松沢地区 … 33
			(38) 県営ほ場整備事業 中渡地区 ・・・・・・ 34
第1章	はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	(39) 県営ほ場整備事業 - 苅橋堰地区 34
第2章	実施要項 ·····	1	(40) 県営ほ場整備事業 金岡地区 ・・・・・・・・・・ 35
第1節	遺跡分布調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1	(41) 県営ほ場整備事業 若美北部地区 35
第2節	遺跡確認調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5	(42) 県営ほ場整備事業 蓬内台地区 ・・・・・・・・・・ 36
第3章	調査の記録		(43) 県営ほ場整備事業 木在地区 ・・・・・・・・・・ 36
第1節	遺跡分布調査 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(44) 県営ほ場整備事業 矢島地区 … 37
1	平成12年度補足分 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(45) 県営ほ場整備事業 土渕地区 ・・・・・・・・・・・ 37
(1	日本海沿岸東北自動車道建設事業		(46) 県営ほ場整備事業 小種地区 ・・・・・・・・・・ 38
	本莊岩城間工事用道路 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	8	(47) 県営ほ場整備事業 八幡地区 ・・・・・・・・・・・ 39
(2)	琴丘能代道路建設事業		(48) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区 ・・・・・・・・・・ 39
	能代南能代東間 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9	(49) 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区 ・・・・・・・・ 40
(3)	県営ほ場整備事業 井川東部地区		(50) 県営ほ場整備事業 上深井地区 ・・・・・・・・・・・ 41
(4)	県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区 ・・・・・・・・	10	(51) 県営ほ場整備事業 金西東部地区 ・・・・・・・・・・ 41
(5)	県営ほ場整備事業 花園地区	11	(52) 県営ほ場整備事業 東山本地区 ・・・・・・・42
(6)	県営ほ場整備事業 田根森地区	11	(53) 県営ほ場整備事業 又兵衛地区 ・・・・・・・ 42
(7)	県営ほ場整備事業 福地地区		(54) 県営ほ場整備事業 館合地区42
(8)	県営地域用水環境整備事業 昭和地区 · · · · · · ·	12	(55) 県営ほ場整備事業 里見地区 ・・・・・・・・・・・ 43
	平成13年度分		(56) 県営土地改良総合整備事業 寄延地区 · · · · · 44
(1)	日本海沿岸東北自動車道建設事業		(57) 県営土地改良総合整備事業 落合地区 · · · · · · 44
	本荘岩城間工事用道路 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	13	(58) 県営土地改良総合整備事業 宇留院内地区 ・・・・ 45
(2)	日本海沿岸東北自動車道建設事業		(59) 県営地域用水環境整備事業 釈迦池地区 · · · · 45
	本荘岩城間 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	13	(60) 県営広域農道整備事業 秋田中央地区 · · · · · 46
(3)	日本海沿岸東北自動車道建設事業		(61) 県営広域営農団地農道整備事業
	大館小坂間 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	13	仙北北部第2地区 · · · · · · 46
(4)	大館西道路建設事業 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	16	(62) 県営農免農道整備事業 金岡西部地区 48
	琴丘能代道路建設事業		(63) 県営山村基幹農道整備事業 北沢 4 期地区 ・・・・ 49
	能代南能代東間 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17	(64) 県営ふるさと農道整備事業 茂内地区 ・・・・・・・ 49
(6)	琴丘能代道路建設事業		(65) 森林空間総合整備事業
	能代東二ツ井間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17	大森公園・リゾート村地区 ・・・・・・・・ 50
(7)	角館バイパス建設工事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18	(66) 秋田県環境保全センター
	石沢川築堤工事 万願寺地区 · · · · · · · · · · ·		D区処分場造成事業 ····· 51
	国道105号国道道路改築工事 · · · · · · · · · · · · · · · · ·		(67) 秋田県中央地区備蓄倉庫建築工事 · · · · · 51
	一般地方道富根能代線		(68) 秋田県立聾学校産業技術科棟建築事業 · · · · 52
	緊急地方道路整備事業 · · · · · · · · · ·	20	第2節 遺跡確認調査 · · · · · · 53
(11)	主要地方道秋田岩見船岡線		(1) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 ······ 53
	緊急地方道路整備事業 · · · · · · · · · ·	20	①大坪遺跡 · · · · · · 53
(12)	主要地方道秋田昭和線		②新谷地遺跡 · · · · · · 61
	地方道道路改築工事 · · · · · · · · · · · · ·	21	(2) 一般国道7号大館西道路建設事業 ······68
(13)	主要地方道秋田御所野雄和線		①二ツ森Ⅱ遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
	秋田空港アクセス道路整備事業 ・・・・・・・・・・・	21	②狼穴Ⅱ遺跡 ······ 76
(14)	主要地方道秋田八郎潟線		③狼穴Ⅲ遺跡 · · · · · · · · 83
	高速交通関連道路整備事業 · · · · · · · ·	22	④狼穴Ⅳ遺跡 · · · · · · · 90
(15)	主要地方道本荘岩城線		⑤坂下遺跡 · · · · · · 97
	ふるさとづくり推進事業 ・・・・・・・・・・	22	⑥釈迦內中台Ⅱ遺跡 ····· 99
(16)	主要地方道本莊大內線		(3) 一般国道7号琴丘能代道路建設事業 ······ 102
	地方特定道路整備事業 · · · · · · · · · ·	23	①柏子所Ⅱ遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · 102
(17)	主要地方道本荘西仙北角館線		②ムサ岱遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
	地方道道路改築事業	23	③上の山Ⅱ遺跡 ・・・・・・・・・・・・ 117
	秋田中央道路建設事業 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		④塞ノ神Ⅱ遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
	砂子沢ダム建設事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		⑤横長根A遺跡 · · · · · · 127
(20)	芋川災害復旧等関連緊急事業 · · · · · · · · · · · · · · · ·	25	(4) 国道105号国道道路改築工事 ····· 129
	県単河川改良事業 楢岡川	26	①長野 I 遺跡 · · · · · · · · 129
	県単河川改良事業 大納川	26	②長野 Ⅱ 遺跡 ・・・・・・・・・・ 133
	県単河川改良事業 狙半内川		(5) 主要地方道本莊岩城線ふるさとづくり推進事業 ・・ 140
(24)	通常砂防事業 大石沢川		龍門寺茶畑遺跡・向山遺跡 ・・・・・・・・ 140
	通常砂防事業 夏虫沢		(6)主要地方道本荘西仙北角館線
	通常砂防事業 岩ノ目沢		地方道道路改築事業 · · · · · · · 148
	通常砂防事業 大場沢		常野遺跡 · · · · · · 148
	通常砂防事業 小松沢		(7) 芋川災害復旧等関連緊急事業 · · · · · 156
	通常砂防事業 小目倉沢		菖蒲崎貝塚
	県単砂防事業 知恵ヶ沢川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(8)担い手育成基盤整備事業
	県単砂防事業 桑の木沢川 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(土崎小荒川地区) · · · · · · · · 172
	県単急傾斜地崩壊対策事業 熊ノ渕地区・・・・・		中屋敷Ⅱ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・172
(33)	地すべり対策事業 吉谷地地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31	(9)担い手育成基盤整備事業(館合地区)・・・・・・ 180
(34)	県営ほ場整備事業 野口地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3Z	大見內遺跡 180

第1章 はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成12年度の補足分は、日本海沿岸東北自動車 道建設事業、琴丘能代道路建設事業、県営ほ場整備事業等の遺跡分布調査8件である。平成13年度は、 日本海沿岸東北自動車道建設事業、大館西道路建設事業、秋田中央道路建設事業、国道105号国道道 路改築工事、芋川災害復旧等関連緊急事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡分布調査68件と、日本海 沿岸東北自動車道建設事業、琴丘能代道路建設事業、大館西道路建設事業、芋川災害復旧等関連緊急 事業、県営ほ場整備事業等に係る遺跡確認調査20件である。これらの調査はすでに策定してある調査 要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が地元 教育委員会職員の協力を得て、平成13年1月から平成13年12月にかけて実施したものである。

第2章 実施要項

第1節 遺跡分布調査

1 調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

- 2 調査の方法
 - (1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。
 - (2) 確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。
 - (3)遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。
- 3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調查担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室 藤澤昌 谷地薫 武藤祐浩 泉田健 秋田県埋蔵文化財センター 山形博康 (千畑町派遣)、島田祐悦 (雄物川町派遣)

5 市町村教育委員会担当者

安田忠市・神田和彦 (秋田市)、山崎和夫・播摩芳紀 (能代市)、須田高・長谷川潤一・土田房貴 (本荘市)、金野寛子 (湯沢市)、亀沢修 (小坂町)、佐野一絵 (鷹巣町)、木村正彦・細田昌史 (森吉町)、田村征孝・佐藤潤一 (山本町)、進藤日出男・福司和明 (峰浜村)、山田広美 (五城目町)、瀬下三男 (昭和町)、伊藤健一 (井川町)、船橋強太 (若美町)、三浦芳春・小塚裕姫子 (矢島町)、藤原千佳子 (角館町)、阿部利美・高橋強 (中仙町)、茂木正道・黒沢文喜・伊藤聡 (田沢湖町)、佐川浩資・柳原法子・佐々木達也 (協和町)、煙山光成・高橋絹子 (千畑町)、飯田洋・中田裕克 (仙南村)、佐藤豊 (増田町)、皆川順子・高橋宜之 (雄物川町)、佐々木紀三郎・佐々木正樹・成田徹 (大森町)、阿野広美 (山内村)、小松田文夫・戸田勝巳 (大雄村)、今野隆 (羽後町)

6 調査対象地域および事業名者

平成12年度補足分(平成13年1月~3月)

No	事業者	事 業 名	事 業 地	調査期間	調査内容	調査結果等	担当者
1	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間工事用道路	本荘市·岩城町	3月16日	踏査	事業地の踏査を行い、試掘地 点を選定。	藤澤・武藤
2	国土交通省	琴丘能代道路建設事業 能代南能代東問	能代市	1月23日 1月24日	試捌	事業地内で遺跡は確認されな かった。	泉田
3	県農政部	県営ほ場整備事業 井川東部地区	井川町	3 月22日	試棚	事業地内で新発見の遺跡 1 簡 所を確認。	武藤
4	県農政部	県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区	于州町	1月16日	試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	武藤
5	県農政部	県営は場整備事業 花園地区	角館町・中仙町	3月23日	試捆	事業地内で遺跡は確認されな かった。	武藤
6	県農政部	県営は場整備事業 田根森地区	大雄村	3月19日	扒捆	事業地内で遺跡は確認されな かった。	武藤
7	県農政部	県営は場整備事業 福地地区	雄物川町	2 月26日	試掤	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	藤澤・武藤
8	県農政部	県営地域用水環境整備事業 昭和地区	昭和町	1 月24日	試捌	事業地内で周知の遺跡1箇所 を確認。	武勝

平成13年度分(平成13年4月~12月)

No	事 業 者	事 業 名	事 業 地	調査期間	調查内容	調査結果等	担当者
1	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 本莊岩城間工事用道路	本荘市・岩城町	4月13日	試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	藤澤・武藤
2	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間	本荘市・岩城町	5月25日 5月30日 7月31日 9月19日 11月22日	試掘	事業地内で新発見の遺跡 3 箇 所を確認。	藤澤·武藤 泉田
3	日本道路公団	日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間	大館市・小坂町	7月3日 8月24日	踏査・試掘	踏査を行い、試掘地点を選定。 一部試掘。	藤澤・武藤
4	国土交通省	大館西道路建設事業	大館市	4月18日 4月25日	試捌	事業地内で新発見の遺跡 5 箇 所を確認。	藤澤・谷地武藤・泉田
5	国土交通省	琴丘能代道路建設事業 能代南能代東間	能代市	5月16日	試加	事業地内で遺跡は確認されな かった。	泉田
6	国上交通省	琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間	能代市	11月8日 12月5日 12月6日	試掘	事業地内で新発見の遺跡 6 箇 所を確認。	藤澤・谷地武藤・泉田
7	国土交通省	角館バイパス建設工事	角館町・田沢湖町	5月16日 6月6日 6月7日	試掘	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地・泉田
8	国土交通省	石沢川築堤工事 万願寺地区	本莊市·岩城町	10月 5 日	試捌	周知の遺跡内で遺構・遺物は 確認されなかった。	谷地
9	建設交通部	国道105号国道道路改築工事	森吉町	5月24日 7月11日 10月4日 10月5日 11月5日 11月6日	踏査・試掘	事業地内で新発見の遺跡2箇 所を確認。	泉田
10	建設交通部	一般地方道富根能代線 緊急地方道路整備事業	能代市	9月10日	踏查	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	谷地
11	建設交通部	主要地方道秋田岩見船岡線 緊急地方道路整備事業	秋田市	6月5日 10月9日 10月12日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地
12	建設交通部	主要地方道秋田昭和線 地方道道路改築工事	秋田市	6月26日 8月3日	踏査·試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。	谷地
13	建設交通部	主要地方道秋田御所野雄和線 秋田空港アクセス道路整備事業	秋田市	12月4日	踏査	事業地の踏査を行い、試掘地 点を選定。	谷地
14	建設交通部	主要地方道秋田八郎潟線 高速交通関連道路整備事業	八郎潟町	5月29日	試掘	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	泉田
15	建設交通部	主要地方道本荘岩城線 ふるさとづくり推進事業	岩城町	5月9日 5月31日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡 2 箇所 を確認。	谷地・泉田
16	建設交通部	主要地方道本荘大内線 地方特定道路整備事業	大内町	5月9日 5月29日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地

Na	事 業 者	事 業 名	事 業 地	綱 査 期 間	調査内容	測 査 結 果 等	担当者
17	建設交通部	主要地方道本荘西仙北角館線 地方道道路改築事業	西仙北町	9月4日 10月3日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地
18	建設交通部	秋田中央道路建設事業	秋田市	12月11日 12月12日 12月13日 12月14日	1 計加	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地
19	建設交通部	砂子沢ダム建設事業	小坂町	11月30日	踏查	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地
20	建設交通部	芋川災害復旧等関連緊急事業	本荘市・岩城町	4月16日 5月15日 6月29日	踏査・試扱	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	谷地
21	建設交通部	県単河川改良事業 楢岡川	大森町	12月7日	踏査	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
22	建設交通部	県単河川改良事業 大納川	大森町	12月7日	踏查	事業地の踏査を行い、試掘地 点を選定。	谷地
23	建設交通部	県単河川改良事業 狙半内川	j说[[] 附]	12月20日	踏查	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
24	建設交通部	通常砂防事業 大石沢川	增田町	12月20日	踏査	事業地の踏査を行い、試掘地 点を選定。	谷地
25	建設交通部	通常砂防事業 夏虫沢	增田町	12月20日	踏在	事業地の踏査を行い、試掘地 点を選定。	谷地
26	建設交通部	通常砂防事業 岩ノ目沢	増田町	12月20日	踏查	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
27	建設交通部	通常砂防事業 大場沢	山内村	12月7日	踏査	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
28	建設交通部	通常砂防事業 小松沢	山内村	12月7日	踏査	平成14年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	谷地
29	建設交通部	通常砂防事業 小目倉沢	山内村	12月7日	踏査	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
30	建設交通部	県単砂防事業 知恵ヶ沢川	大森町	12月7日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。	谷地
31	建設交通部	県単砂防事業 桑の木沢川	山内村	12月 7 日	踏査	事業地内で遺跡は確認されな かった。	谷地
32		県単急傾斜地崩壊対策事業 熊ノ渕地区	增田町	12月20日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。	谷地
33	建設交通部	地すべり対策事業 吉谷地地区	山内村	12月7日	踏查	事業地内で遺跡は確認されなかった。	谷地
34		県営ほ場整備事業 野口地区	小坂町	12月 4 日	試捆	平成14年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	谷地
35	1	県営ほ場整備事業 合地地区	腐巣町	4月24日	訳掘	平成13年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	武藤
36	i	県営ほ場整備事業 三ノ渡地区	鷹巣町	5月14日	試捌	事業地内で新発見の遺跡 2 箇 所を確認。	武藤
37	i	県営は場整備事業 松沢地区	應果町	5月28日	試掘	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	武藤
38		県営ほ場整備事業 中渡地区	峰浜村	12月 5 日	狀捌	平成14年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	藤澤
39		県営ほ場整備事業 荷橋堰地区	能代市	5月17日	試掘	平成13年度事業地では、遺跡は確認されなかった。	武藤
40		県営は場整備事業 金岡地区	山本町	5月10日 5月17日 6月25日		事業地内で周知の遺跡 1 箇所、 新発見の遺跡 1 箇所を確認。	武藤
41		県営ほ場整備事業 告美北部地区	若美町	7月19日	試掘	平成13・14年度事業地では、 遺跡は確認されなかった。	武藤
42		県営ほ場整備事業 差内台地区	五城目町 1	0月16日		事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	武藤
43	1	長営は場整備事業 大在地区	矢島町 1	2月17日		平成14年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	武藤

Nu	事 業 者	事 業 名	事 業 地	調査期間	調査内容	調査結果等	担当者
44	農政部	県営ほ場整備事業 矢鳥地区	矢島町	11月30日	試掘	事業地内で周知の遺跡1箇所 を確認。	武藤
45	農政部	県営ほ場整備事業 上渕地区	協和町	4月24日	試掘	平成13年度事業地では、遺跡 は確認されなかった。	藤澤
46	農政部	県営は場整備事業 小種地区	協和町	12月26日	試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	藤澤・武藤
47	農政部	県営ほ場整備事業 八幡地区	中制制	11月20日	試網	事業地内で遺跡は確認されな かった。	武藤
48	農政部	県営は場整備事業 中仙南部地区	中仙町	12月4日	武掘	事業地内で周知の遺跡 2 箇所 を確認。	藤澤・武藤
49	農政部	県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区	千畑町	6月26日 7月5日 10月15日	踏查·試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	藤澤・武藤
50	農政部	県営は場整備事業 上深井地区	仙南村	4月27日 5月15日 6月25日 7月6日 10月9日	武福	事業地内で新発見の遺跡 2 箇 所を確認。	藤澤・武藤
51	農政部	県営は場整備事業 金西東部地区	仙南村	11月5日	計補	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	藤澤
52	農政部	県営は場整備事業 東山本地区	仙南村	4月27日 6月6日	武揃	事業地内で新発見の遺跡 2 箇 所を確認。	藤澤・武藤
53	農政部	県営は場整備事業 又兵衛地区	雄物川町	11月16日	武埔	事業地内で遺跡は確認されなかった。	藤澤
54	農政部	県営ほ場整備事業 館合地区	雄物川町	10月11日	踏查·試掘	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	武藤
55	農政部	県営は場整備事業 里見地区	雄物川町	8月2日 8月3日 10月24日 10月25日 11月22日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所、 新発見の遺跡 1 箇所を確認。	藤澤・武藤
56	農政部	県営土地改良総合整備事業 寄延地区	森吉町	11月5日	試擱	事業地内で新発見の遺跡 1 箇 所を確認。	谷地
57	農政部	県営土地改良総合整備事業 落合地区	協和町	5月31日	試膩	事業地内で遺跡は確認されなかった。	藤澤
58	農政部	県営土地改良総合整備事業 宇留院内地区	湯沢市	4月16日	起捕	事業地内で遺跡は確認されな かった。	武藤
59	農政部	県営地域用水環境整備事業 釈迦池地区	大館市	10月5日	踏査	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	武藤
60	農政部	県営広域農道整備事業 秋田中央地区	河辺町	10月4日 10月26日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。	武藤
61	農政部	県営広域営農団地農道整備事業 仙北北部第2地区	河辺町・協和町	10月3日 10月4日 11月29日	踏査	事業地の踏査を行い、試掃地点を選定。 一部で新発見の遺跡 1 箇所を確認。	武藤
62	農政部	県営農免農道整備事業 金岡西部地区	山本町	5月10日	踏查	事業地内で周知の遺跡 2 箇所 を確認。	武藤
63	農政部	県営農免農道整備事業 北沢4期地区	羽後町	6月19日 6月27日	踏査・試掘	事業地内で遺跡は確認されな かった。	武藤
64	農政部	県営ふるさと農道整備事業 茂内地区	大館市	10月5日	踏查	事業地内で周知の遺跡 2 箇所 を確認。	武藤
65	林務部	森林空間総合整備事業 大森公園・リゾート村地区	大森町	11月15日 11月26日 11月28日 11月30日	踏查·試掘	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	藤澤・泉田
66	生活環境文化部	秋田県環境保全センター D区処分場造成事業	協和町	11月30日	踏查	事業地内で遺跡は確認されなかった。	泉田
67	生活環境文化部	秋田県中央地区 備蓄倉庫建築事業	雄和町	11月30日	踏査	事業地内で遺跡は確認されなかった。	泉田
68	教育庁	秋田県立聾学校産業技術科棟 建築事業	秋田市	4月13日	踏査	事業地内で周知の遺跡 1 箇所 を確認。	泉田

第2節 遺跡確認調查

1 調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域での遺物の表面採集および小規模の発掘調査(遺構確認面までの掘り下げ)を行い、当該埋蔵文化財保護と開発事業計画との調整を図る。

2 調査の方法

- (1) 地形を考慮したトレンチおよび試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、できるかぎり面的に調査地域を広げてその確認に努める。
- (2)確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などは実測図により記録する。また、遺跡の全景と発掘調査状況、遺構・遺物の確認状況などは写真撮影をする。
- (3) 使用する地形図は開発部局で作製した最大縮尺の図面とする。

3 事業主体者

秋田県教育委員会

4 調査担当者

副 主 幹 児玉準(班長)

文化財主查 栗澤光男

学 芸 主 事 利部修(班長)、赤上秀人、菊池晋、吉川孝、小林稔幸、齋藤重隆、進藤紀、

鈴木茂、藤澤一史、藤田賢哉

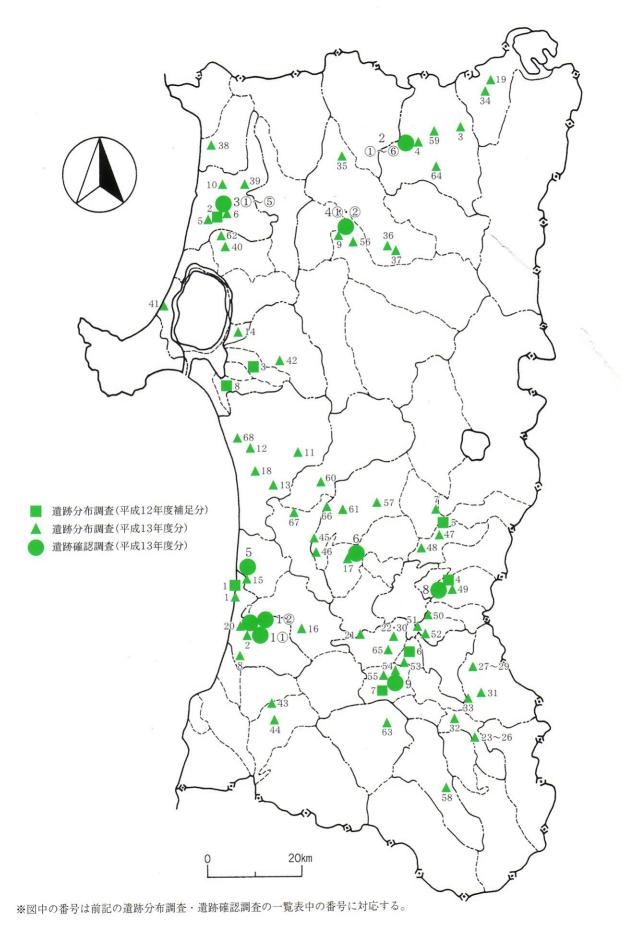
文化財主事 吉川耕太郎、小島朋夏、山形博康(千畑町派遣)

研修員島田祐悦(雄物川町派遣)

非常勤職員 大渕和峰、小野栄一郎、菊池朋宏、小納谷亮、小林あすか、佐藤有、高安直実、

武田洋、西村裕人、藤原泰史、三浦悟、毛利美樹、横山香菜子

Nα	事 業 名	遺跡 名(所在地)	調査期間	調査担当者
1	日本海沿岸東北自動車道建設事業	大坪遺跡(本荘市)	平成13年11月20日~12月7日	菊池(晋)·藤田
	本莊岩城間	新谷地遺跡(本荘市)	平成13年7月23日~7月31日	吉川(孝)
2	大館西道路建設事業	二ツ森Ⅱ遺跡(大館市)	平成13年5月21日~6月20日	吉川(孝)
		狼穴Ⅱ遺跡(大館市)		吉川(孝)
		狼穴Ⅲ遺跡(大館市)		吉川(孝)
		狼穴Ⅳ遺跡(大館市)		吉川(孝)
		坂下遺跡(大館市)		吉川(孝)
		釈迦内中台Ⅱ遺跡(大館市)	平成13年5月28日~6月5日	児玉
3	琴丘能代道路建設事業	柏子所Ⅱ遺跡(能代市)	平成13年10月5日~10月19日	児玉・利部
	能代南能代東間	ムサ岱遺跡(能代市)	平成13年8月22日~9月28日	吉川(孝)
	er en	上の山Ⅱ遺跡(能代市)		吉川(孝)
		塞ノ神Ⅱ遺跡(能代市)		吉川(孝)
		横長根A遺跡(能代市)		吉川(孝)
4	国道105号国道道路改築事業	長野 I 遺跡(森吉町)	平成13年11月5日~11月9日	小林(稔)
		長野Ⅱ遺跡(森吉町)	平成13年11月9日~11月12日	小林(稔)
5	主要地方道本荘岩城線 ふるさとづくり推進事業	龍門寺茶畑遺跡・向山遺跡 (岩城町)	平成13年11月20日~12月7日	吉川(耕)・進藤
6	主要地方道本莊西仙北角館線 地方道道路改築事業	常野遺跡(西仙北町)	平成13年11月7日~11月19日	齋藤·小島
7	芋川災害復旧等関連緊急事業	菖蒲崎貝塚(本荘市)	平成13年8月27日~10月5日	利部
8	県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区	中屋敷Ⅱ遺跡(千畑町)	平成13年10月17日~11月2日	吉川(孝)・鈴木
			平成13年11月26日~12月7日	吉川(孝)・赤上・山形
9	県営ほ場整備事業 館合地区	大見内遺跡(雄物川町)	平成13年11月21日~12月13日	栗澤・藤澤・島田



第1回 遺跡分布調査·遺跡確認調査位置図

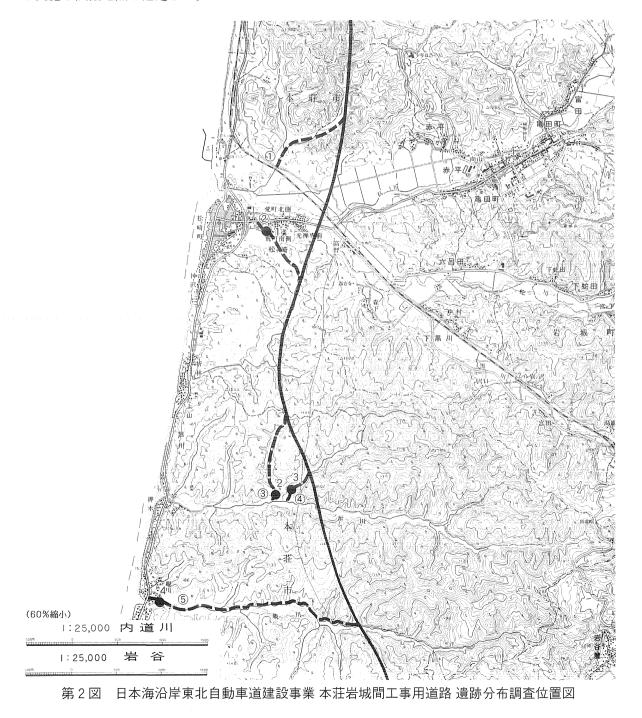
第3章 調査の記録

第1節 遺跡分布調査

1. 平成12年度補足分

(1)日本海沿岸東北自動車道建設事業 本莊岩城間工事用道路

日本海沿岸東北自動車道(本荘岩城間)建設に係る工事用道路部分(①松ヶ崎工事用道路 ②神沢工事用道路 ③芦川16号工事用道路 ④芦川19号工事用道路 ⑤親川工事用道路)について、踏査を実施し試掘地点を選定した。



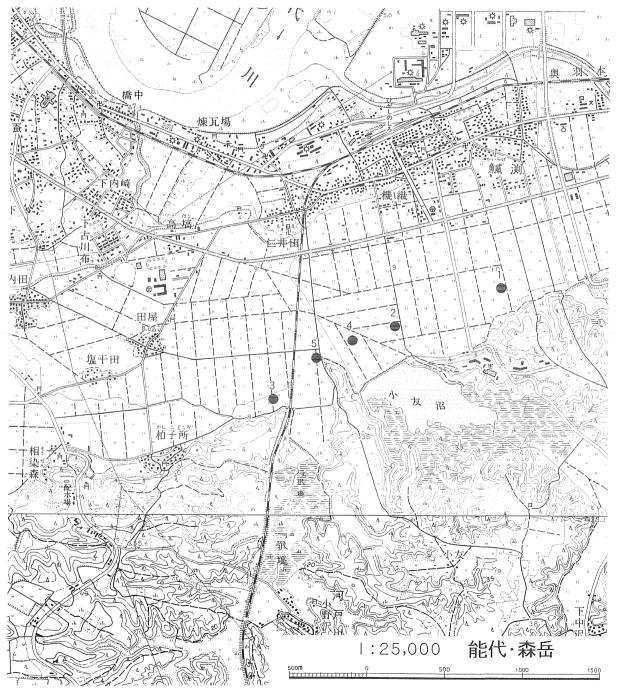
(2) 琴丘能代道路建設事業 能代南能代東間

能代市の能代南 I C から能代東 I C までの $6.7 \, \mathrm{km} \boxtimes \mathbb{B}$ のうち、

鍼渕地区 $1.5 \, \mathrm{km}$ の水田部分について 試掘した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡を確認することはできなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		能代市鰄渕字堤下		水田	なし	
2		能代市鰄渕字大関	• •	水田	なし	,
3		能代市河戸川字受堤		水田	なし	



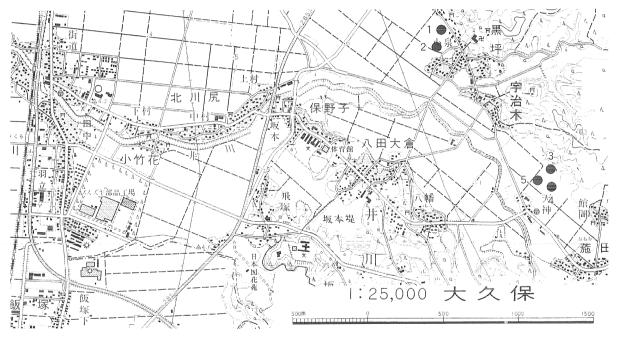
第3回 琴丘能代道路建設事業 能代南能代東間 遺跡分布調査位置図

(3) 県営ほ場整備事業 井川東部地区

井川町井川東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積122ha、平成14年度まで4箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を確認した。越雄Ⅱ遺跡は、耕作土上の土師器細片の散布により確認されたものだが、試掘による遺構、遺物包含層の確認はできなかった。このため、工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	越雄Ⅱ遺跡	井川町黒坪字越雄	古代	水田	土師器細片	新発見の遺跡
2		井川町黒坪字越雄		水田	なし	
3		井川町黒坪字薬師		水田	なし	
4	4 1 1	井川町黒坪字薬師		水田	なし	
5		井川町黒坪字薬師		水田	なし	



第4回 県営は場整備事業 井川東部地区 遺跡分布調査位置図

(4)県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区(位置図は第48図)

千畑町土崎小荒川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積329ha、平成16年度まで7箇年 計画の事業である。平成13年度事業予定地の一部について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡 1 箇所を事業予定地に確認した。厨川谷地 Ⅱ遺跡では、試掘により土坑 1 基を検出した。原因者と協議した結果、遺構は盛土施工によって保護されることを確認し、工事については立会を行う取り扱いとした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

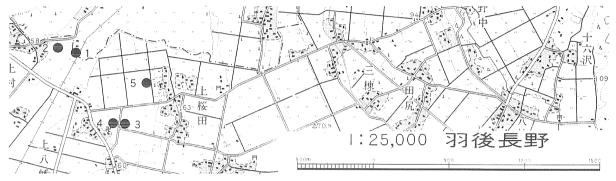
No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	厨川谷地Ⅱ遺跡	千畑町土崎字上厨川	古代	水田	土坑	新発見の遺跡
2		千畑町土崎字上厨川		水田	なし	

(5) 県営ほ場整備事業 花園地区

角館町から中仙町にかかる花園地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積119ha、平成14年度まで5箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について試掘した。

試掘地点は、周知の遺跡である遠藤野城跡内と田川遺跡に隣接した地点であったが、調査の結果、試掘したいずれの地点でも遺構・遺物の確認はできなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	遠藤野城跡	角館町園田上遠藤	中世	水田		周知の遺跡
2		角館町園田字坂井村		水田	なし	
3	田川遺跡	中仙町豊川字田川		水田	• • •	周知の遺跡
4		中仙町豊川字田川		水田	なし	
5		中仙町豊川字上桜田北		水田	なし	



第5図 県営ほ場整備事業 花園地区 遺跡分布調査位置図

(6) 県営ほ場整備事業 田根森地区

応について慎重工事とした。

大雄村田根森地区で実施中のほ場整備事業で、計画面積139ha、平成15年度まで7箇年計画の事業である。当面の事業予定地について試掘した。予定地区内には周知の遺跡である根田谷地遺跡がある。調査の結果、根田谷地遺跡部分を含め試掘したいずれの地点でも遺構・遺物の確認はできなかった。なお、根田谷地遺跡部分では、表土下にいわゆる田村根っこが確認されたこともあり、工事施工の対

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	根田谷地遺跡	大雄村田根森字根田谷地東	古代	水田		周知の遺跡
2		大雄村田根森字根田谷地東		水田	なし	
3		大雄村田根森字根田谷地東	• •	水田	なし	
4		大雄村田根森字根田谷地東		水田	なし	



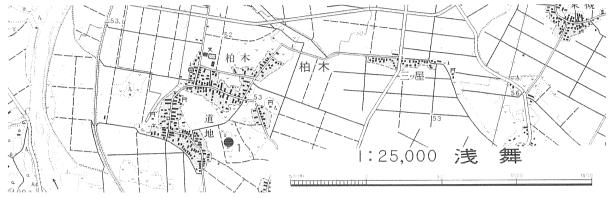
第6図 県営ほ場整備事業 田根森地区 遺跡分布調査位置図

(7) 県営ほ場整備事業 福地地区

雄物川町福地地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積は406ha、平成17年度まで9箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地の一部について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡である常野遺跡で、試掘により縄文時代の土坑を検出した。このため事業 実施にあたり、遺物包含層の状況、遺構確認面の位置を勘案し、遺跡保全策を原因者と協議し、施工 計画の変更により、工事施工の対応について工事立会とした。なお、事業予定地には今後調査の必要 な地区を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
 1	常野遺跡	雄物川町柏木字歌舞妓野	縄文・古代	畑地	上坑、縄文土器片	周知の遺跡
					1 / 200	1 / 54 - 35 1/14



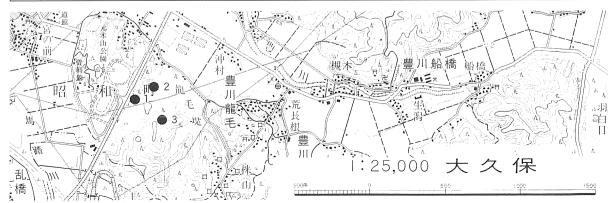
第7回 県営ほ場整備事業 福地地区 遺跡分布調査位置図

(8) 県営地域用水環境整備事業 昭和地区

昭和町昭和地区で実施されている地域用水環境整備事業で、平成16年度まで8箇年計画の事業である。事業予定地について踏査し、試掘した。事業予定地は、周知の遺跡である元木山根Ⅱ遺跡に隣接している。

調査の結果、周知の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。元木山根Ⅱ遺跡での試掘では縄文土器片が出土した。工事施工の対応については、今後の発掘調査が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	元木山根Ⅱ遺跡	昭和町大久保字元木山根	縄文・古代	杉林	縄文土器片	周知の遺跡
2		昭和町豊川龍毛字後山		杉林	なし	
3		昭和町豊川龍毛字後山		杉林	なし	



第8図 県営地域用水環境整備事業 昭和地区 遺跡分布調査位置図

2. 平成13年度分

(1)日本海沿岸東北自動車道建設事業 本荘岩城間工事用道路 (位置図は第2図)

日本海沿岸東北自動車道(本荘岩城間)建設に係る工事用道路部分について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡1箇所を事業予定地内に確認した。親川遺跡は、縄文土器片が出土し、周知の遺跡範囲が広がることを確認した。工事施工区域は借地に盛土であり、工事終了後は現況に復旧されるため工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		本荘市松ヶ崎字松ヶ崎町		畑地	なし	
2		本荘市芦川字下モ山		山林	なし	
3		本莊市芦川字押木		水田	なし	
4	親川遺跡	本莊市親川字冷水	縄文	畑地	縄文土器片	周知の遺跡

(2) 日本海沿岸東北自動車道建設事業 本莊岩城間

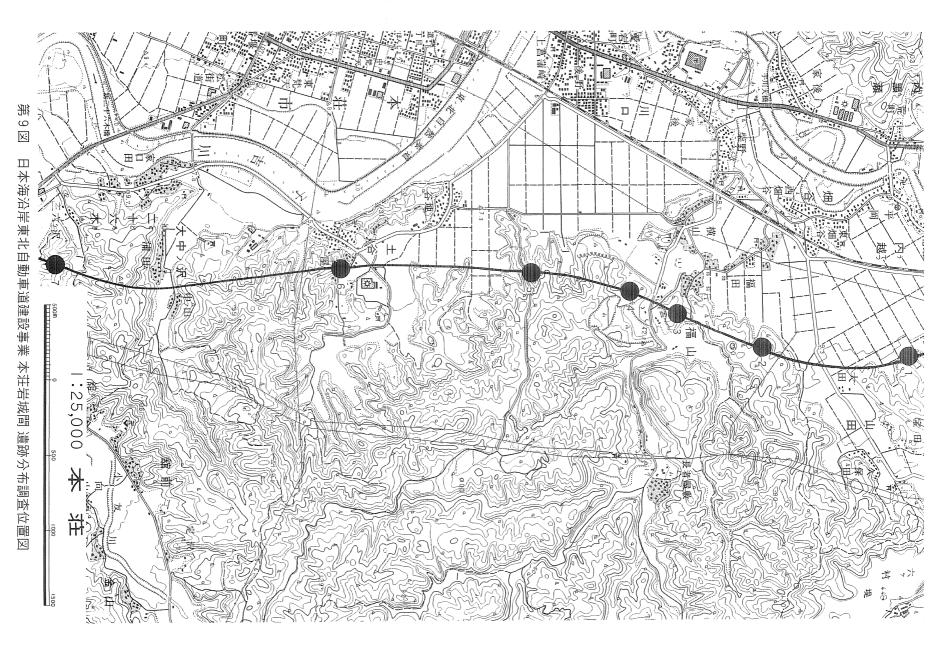
本荘市の本荘ICから岩城町の岩城ICまでの21.3 kmのうち、未対応部分について試掘をした。 調査の結果、事業地内に周知の遺跡1箇所、新発見の遺跡3箇所、造成痕跡2箇所を確認した。周 知の遺跡である三条山遺跡は、遺構・遺物が検出されなかったことから、工事施工の対応については 工事立会とした。大坪遺跡は、柱穴・縄文土器片・土師器片が出土し新発見の遺跡として確認し、平 成13年度に確認調査を実施した。樋ノ口遺跡は、土師器片が出土し新発見の遺跡として確認した。堤 沢山遺跡は、鉄滓が出土し新発見の遺跡として確認した。2遺跡については平成14年度に確認調査を 実施する予定である。地点2・6については今後再調査が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	大坪遺跡	本莊市畑谷字大坪	縄文・古代	水田	柱穴、縄文土器片・土師器片	新発見の遺跡
2		本莊市福山字草種坂		山林	地形造成痕跡	
3	樋ノ口遺跡	本荘市福山字樋ノ口	古代	山林	土師器片	新発見の遺跡
4		本莊市川口字大日沢山		山林	なし	
5	堤沢山遺跡	本莊市字川口字大学堤沢山	中世	山林	鉄滓	新発見の遺跡
6		本莊市土谷字猿田	中世	山林	空堀状遺構	
7	三条山遺跡	本莊市二十六木字山吹		山林		周知の遺跡

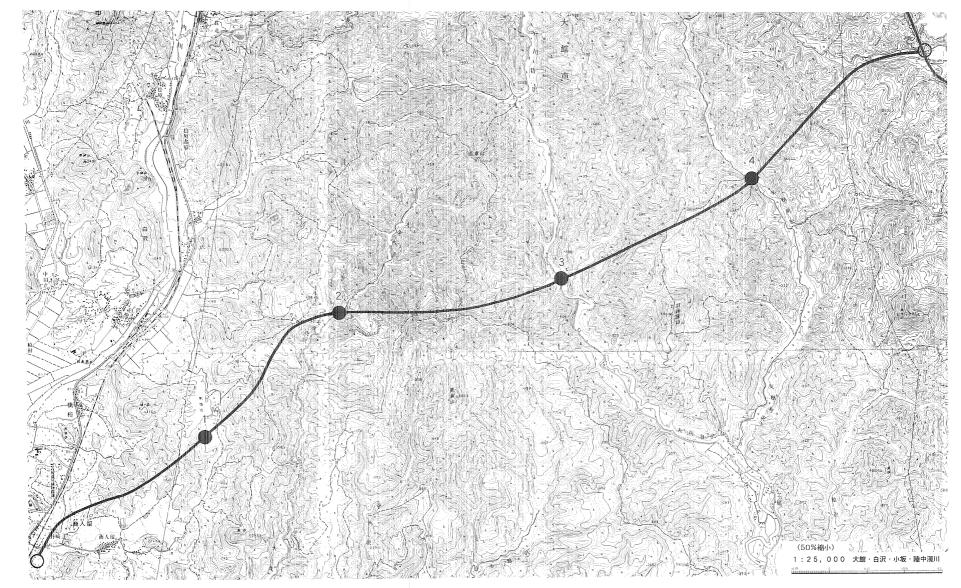
(3)日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間

大館市の大館北IC (仮称)から小坂JCTまでの15.4kmについて踏査し、一部試掘した。 調査の結果、地点1で地形造成痕跡を確認し、今後、再調査が必要である。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考	X F
1		大館市商人留字大沢口		山林	地形造成痕跡		
2		大館市大茂内字大茂内沢		山林	なし		
3		大館市雪沢字長木沢		山林	なし		
4		大館市雪沢字長木沢		山林	なし		



第1節 遺跡分布調査



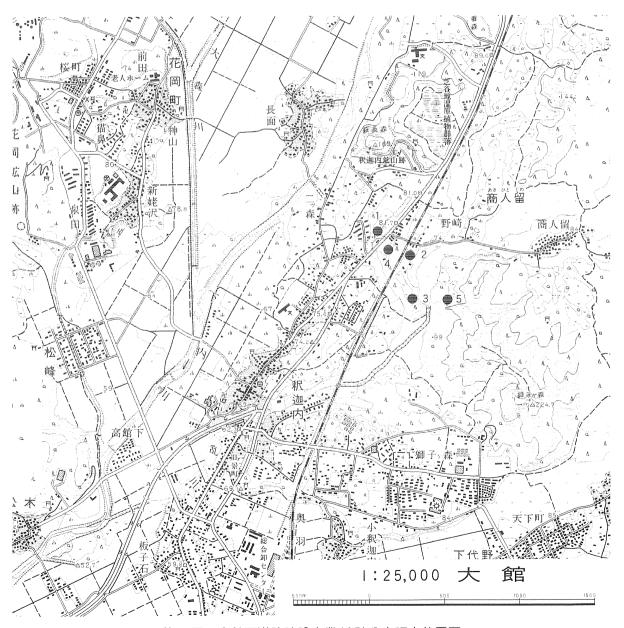
第10図 日本海沿岸東北自動車道建設事業 大館小坂間 遺跡分布調査位置図

(4) 大館西道路建設事業

大館市の大館西道路建設事業予定地のうち、分布調査の残っていた大館北IC(仮称)予定地内について平成12年度末から13年度当初に試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡 5 箇所を事業予定地に確認した。工事施工の対応としては、5 遺跡について平成 13 年度内に確認調査を行った。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	二ッ森Ⅱ遺跡	大館市釈迦内字二ッ森	縄文	山林·原野	縄文土器・石器	新発見の遺跡
2	狼穴Ⅱ遺跡	大館市釈迦内字狼穴	縄文	原野	土坑、縄文土器	新発見の遺跡
3	狼穴Ⅲ遺跡	大館市釈迦内字狼穴	古代	原野	竪穴住居跡、土師器	新発見の遺跡
4	狼穴IV遺跡	大館市釈迦内字狼穴	古代	山林·畑地	竪穴住居跡、土師器	新発見の遺跡
5	坂下遺跡	大館市商人留字坂下		山林·原野	土坑	新発見の遺跡



第11図 大館西道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(5) 琴丘能代道路建設事業 能代南能代東間 (位置図は第3図)

能代市の能代南ICから能代東ICまでの6.7km区間のうち、周知の遺跡である腹鞁ノ沢遺跡周辺部0.5kmの水田部分について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に遺跡を確認することはできなかった。

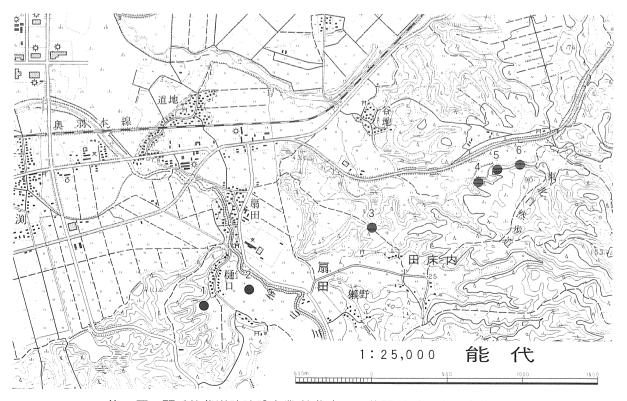
No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
4	• • •	能代市鰄渕字鵜ノ沢		水田	なし	
5		能代市鰄渕字小友下		水田	なし	

(6) 琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間

能代市の能代東ICから二ツ井町の二ツ井ICまでの $10 \, \mathrm{km}$ のうち、能代東ICから林道幟山線に至る $3.2 \, \mathrm{km}$ の区間について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡 6 箇所を事業予定地に確認した。これらの遺跡については、今後確認調査が必要である。また、この区間の水田部分について、一部を除き用地未買収により試掘調査を実施出来なかったため、条件が整い次第試掘調査が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	樋口遺跡	能代市字樋口	古代	水田	土師器・木製品	新発見の遺跡
2	岩ノ目遺跡	能代市字岩ノ目	古代	水田	土師器・須恵器	新発見の遺跡
3	縄手下遺跡	能代市田床内字縄手下	縄文	山林	縄文土器・石器	新発見の遺跡
4	鴨巣館跡	能代市田床内字鴨巣	中世	山林	空堀跡	新発見の遺跡
5	鴨巣I遺跡	能代市字鴨巣	古代	山林	土師器・須恵器	新発見の遺跡
6	鴨巣Ⅱ遺跡	能代市田床内字鴨巣	縄文・古代	山林	縄文土器・土師器	新発見の遺跡

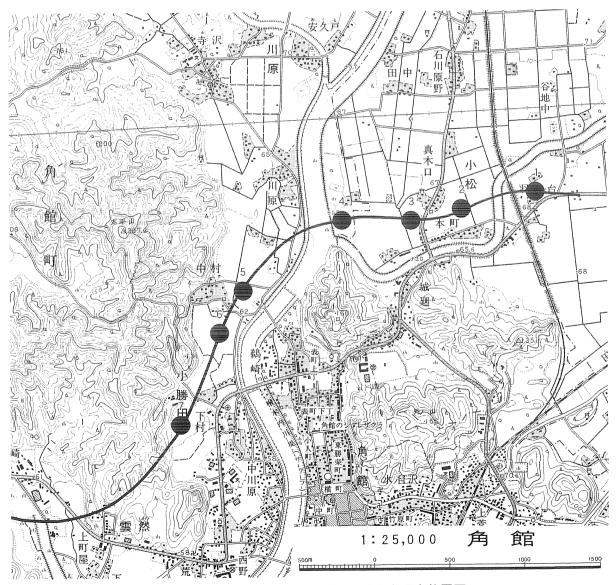


第12図 琴丘能代道路建設事業 能代東二ツ井間 遺跡分布調査位置図

(7) 角館バイパス建設工事

田沢湖町羽根ヶ台を起点に角館町月見堂を終点とする 6.1 kmの事業予定地のうち、田沢湖町羽根ヶ台から角館町小勝田線まで試掘した。調査の結果、試掘による遺構、遺物の発見はなかった。この区間の中には未試掘箇所があり、今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		田沢湖町小松字羽根ヶ台		水田	なし	
2		田沢湖町小松字野中		水田	なし	
3		田沢湖町小松字真木田		水田	なし	
4		角館町川原字鵜ノ崎川原		水田	なし	
5		角館町小勝田字前田		水田	なし	
6		角館町小勝田字鶴巻		水田	なし	
7		角館町小勝田字西ノ沢		水田	なし	



第13図 角館バイパス建設工事 遺跡分布調査位置図

(8) 石沢川築堤工事 万願寺地区

本荘市鳥川から子吉川合流点までの2.6 km区間の築堤等の河川改良事業である。工事用道路予定地に周知の遺跡1箇所があり、試掘を行った。調査の結果、遺構、遺物とも検出されず、工事施工の対応については工事立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	土花遺跡	本荘市万願寺字新小屋		水田・畑地		周知の遺跡



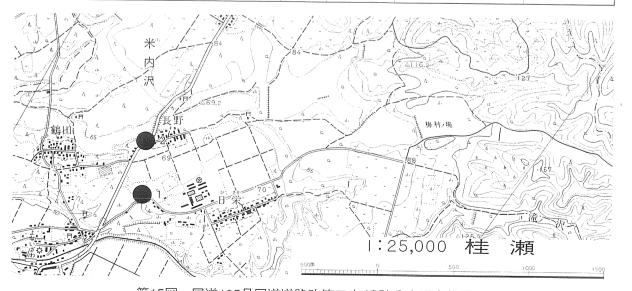
第14図 石沢川築堤工事 万願寺地区 遺跡分布調査位置図

(9) 国道 105 号国道道路改築工事

森吉町内の事業予定地3.55kmのうち、森吉町長野地区の踏査及び試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡 2 箇所を事業予定地に確認した。長野 I 遺跡、長野 II 遺跡については平成 13 年度内に確認調査を行った。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	長野I遺跡	森吉町米内沢字長野	縄文	山林	土坑	新発見の遺跡
2	長野Ⅱ遺跡	森吉町米内沢字長野	平安	水田・畑地	竪穴住居跡、土師器片	新発見の遺跡

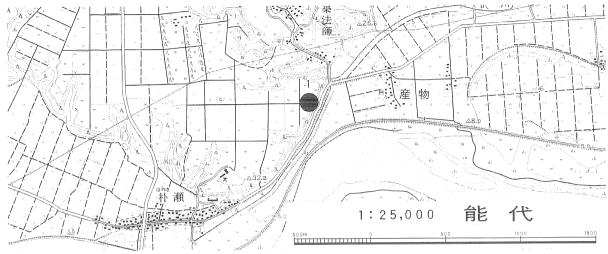


第15図 国道105号国道道路改築工事 遺跡分布調査位置図

(10) 一般地方道富根能代線緊急地方道路整備事業

能代市産物字大曲から朴瀬字中坪までの事業予定地2.6kmのうち、能代市朴瀬地区の踏査を行った。 事業予定地内には周知の遺跡がなく、台地周縁部の一部のみが工事に係ることから工事施工の対応に ついては工事立会とした。工事立会時に遺物包含層の一部が確認されたため、遺物採集及び記録作成 の措置を講じた。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	林台遺跡	能代市朴瀬字林台	縄文	山林	縄文土器片・石器	新発見の遺跡
h)h //			· *** *** *** *** *** *** *** *** *** *	200		



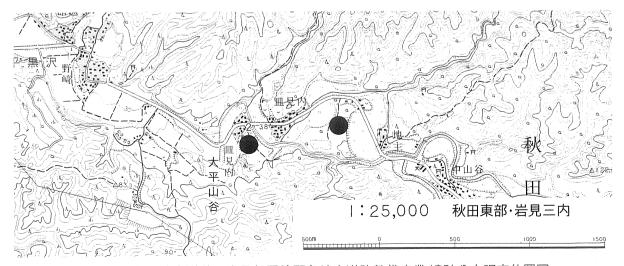
第16図 一般地方道富根能代線緊急地方道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(11) 主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業

秋田市太平山谷字一ノ関を起点に、秋田市太平山谷字中山谷を終点とする工事延長1.7kmの事業予 定地の踏査及び周知の遺跡1箇所の試掘を行った。

調査の結果、遺構、遺物とも検出されず、工事施工の対応については工事立会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		秋田市太平山谷字皿見内		山林	なし	
2	下皿見内遺跡	秋田市太平山谷字下皿見内		水田·畑地		周知の遺跡

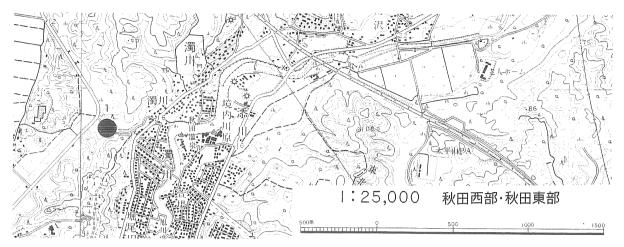


第17回 主要地方道秋田岩見船岡線緊急地方道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(12) 主要地方道秋田昭和線地方道道路改築工事

秋田市外旭川地区と濁川地区を結ぶ通称鬼越の改築工事予定地について、踏査及び試掘を行った。 調査の結果、遺構、遺物とも検出されず、工事施工の対応については工事立会とした。

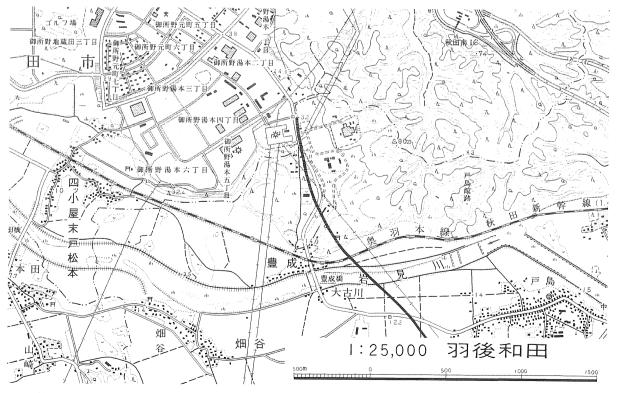
No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		秋田市外旭川字大堤	• •	山林	なし	



第18図 主要地方道秋田昭和線地方道道路改築工事 遺跡分布調査位置図

(13) 主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業

秋田市御所野湯本を起点に、雄和町椿川を終点とする工事延長 6.6 kmの事業予定地のうち、起点から岩見川までの区間について踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘を行う予定である。

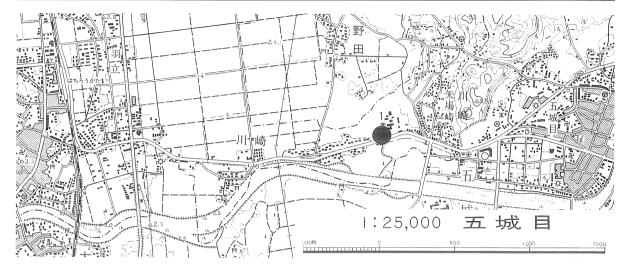


第19図 主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(14) 主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業

日本海沿岸東北自動車道五城目ICと国道7号及び国道285号を結ぶことを目的とし、八郎潟町夜 叉袋を起点に、八郎潟町川崎を終点とする工事延長2.11㎞の県道整備事業である。事業予定地の東端 部の試掘を行い、新発見の遺跡1箇所を確認した。貝保遺跡については平成13年度内に確認調査と一部の発掘調査を行った。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	貝保遺跡	八郎潟町川崎字貝保	古代	宅地	土坑、土師器片	新発見の遺跡

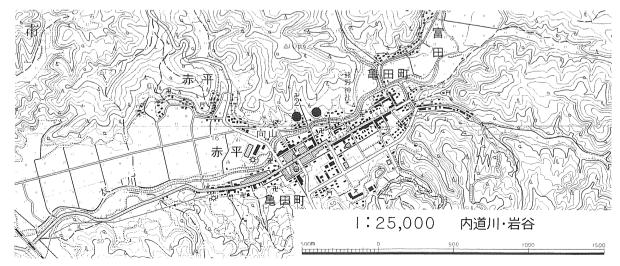


第20回 主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業 遺跡分布調査位置図

(15) 主要地方道本荘岩城線ふるさとづくり推進事業

岩城町亀田地内の工事延長1.6kmの県道整備事業である。事業予定地の踏査及び試掘を行い、周知の遺跡1箇所、新発見の遺跡1箇所を確認した。龍門寺茶畑遺跡、向山遺跡については平成13年度内に確認調査を行った。

I	Vo.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
	1	龍門寺茶畑遺跡	岩城町赤平字向山	縄文	山林	縄文土器片・石器	周知の遺跡
	2	向山遺跡	岩城町赤平字向山	縄文	山林	縄文土器片·石器	新発見の遺跡

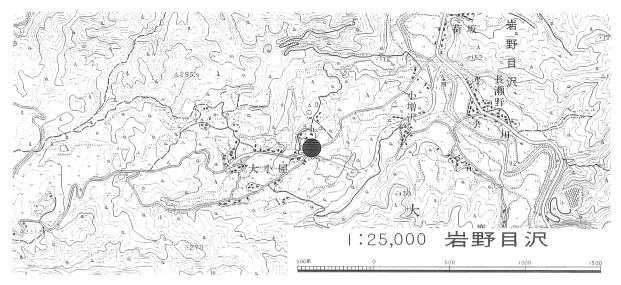


第21図 主要地方道本荘岩城線ふるさとづくり推進事業 遺跡分布調査位置図

(16) 主要地方道本荘大内線地方特定道路整備事業

大内町岩野目沢を起点に、小増沢を終点とする工事延長1.36kmの県道整備事業である。事業予定地の踏査を行い、周知の遺跡1箇所を確認した。試掘の結果、遺構、遺物は検出されず、工事施工の対応については慎重工事とした。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大小屋遺跡	大内町岩野目字大小屋		水田・畑地		周知の遺跡

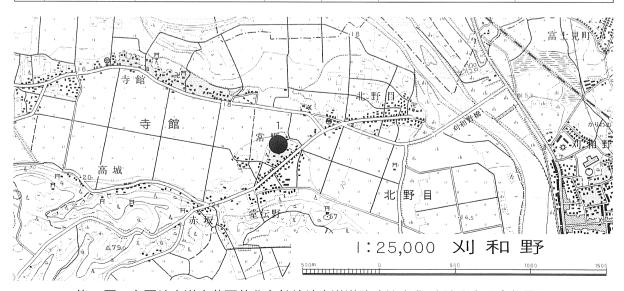


第22図 主要地方道本莊大內線地方特定道路整備事業 遺跡分布調查位置図

(17) 主要地方道本荘西仙北角館線地方道道路改築事業

西仙北町大沢郷寺を起点に、北野目を終点とする工事延長1.58kmの県道整備事業である。事業予定 地の踏査及び試掘を行い、周知の遺跡1箇所を確認した。常野遺跡については、平成13年度内に確認 調査を行った。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	常野遺跡	西仙北町寺館字常野	縄文	畑地	縄文土器片・石器	周知の遺跡



第23図 主要地方道本荘西仙北角館線地方道道路改築事業 遺跡分布調査位置図

(18) 秋田中央道路建設事業

秋田市旭北錦町を起点に、秋田市手形字西谷地を終点とする工事延長2.41kmの事業予定地のうち、 千秋公園の中土橋の管渠工事計画地点について、試掘を行った。

調査の結果、現地表下には近代以降の盛土が厚く堆積しており、工事施工の対応については工事立 会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	久保田城跡	秋田市千秋明徳町	近世	道路	堀、陶磁器片	周知の遺跡

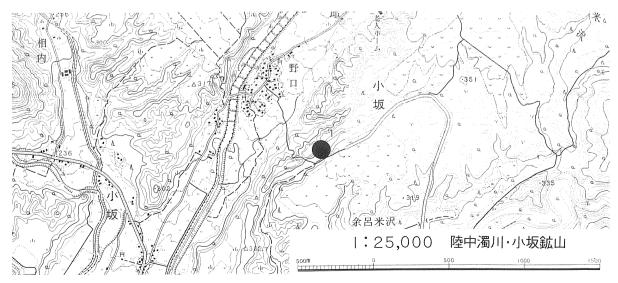


第24図 秋田中央道路建設事業 遺跡分布調査位置図

(19) 砂子沢ダム建設事業

砂子沢ダム建設事業の建設発生土受入地工事の事業予定地を踏査し、周知の遺跡 1 箇所を確認した。 工事計画と遺跡保護について、今後協議する必要がある。

1	Vo.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備 考
	1 台作館跡		小坂町小坂字台作	中世	山林	曲輪跡・空堀	周知の遺跡

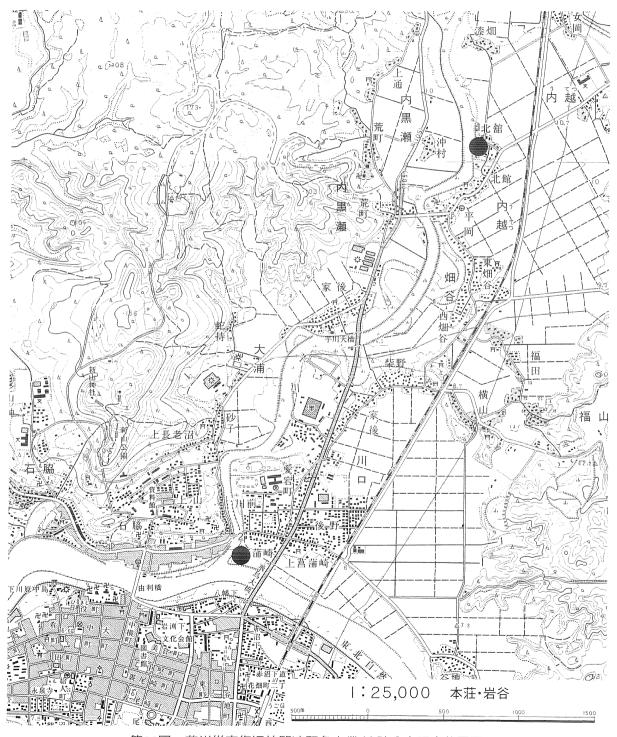


第25図 砂子沢ダム建設事業 遺跡分布調査位置図

(20) 芋川災害復旧等関連緊急事業

本荘市内越字平岡地内と本荘市川口の芋川左岸の事業予定地の一部について踏査及び試掘を行った。 調査の結果、周知の遺跡 1 箇所を確認した。 菖蒲崎貝塚については、平成13年度内に確認調査を行った。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		本荘市内越字平岡		山林	なし	
2	菖蒲崎貝塚	本荘市川口字菖蒲崎	縄文・中世	山林・墓地		周知の遺跡

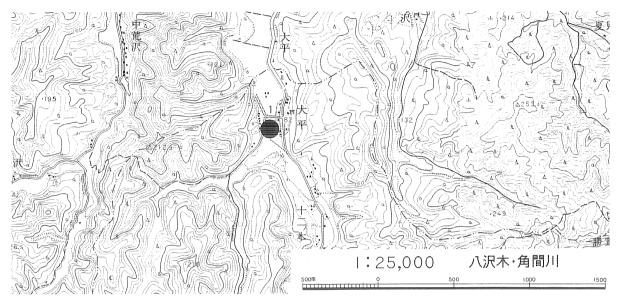


第26図 芋川災害復旧等関連緊急事業 遺跡分布調査位置図

(21) 県単河川改良事業 楢岡川

大森町十二の木地区の楢岡川左岸の護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、 試掘の必要はないと判断した。

N	 所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
]	 大森町十二の木	• •	堤防	なし	

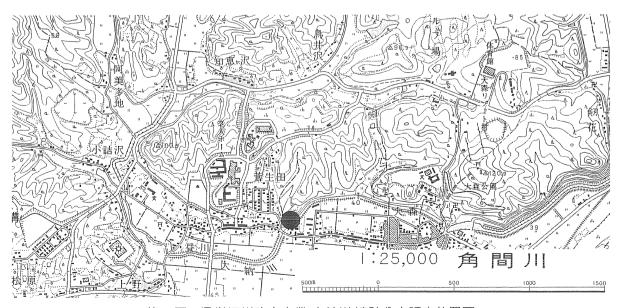


第27回 県単河川改良事業 楢岡川 遺跡分布調査位置図

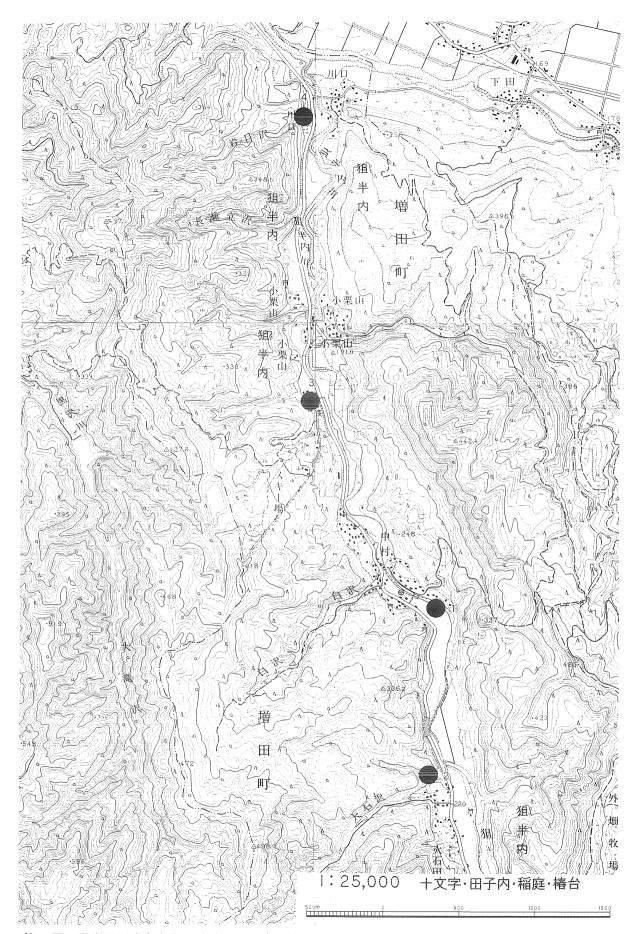
(22) 県単河川改良事業 大納川

大森町菅生田地区の大納川右岸の護岸工事である。踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。当 該箇所については今後試掘を行う予定である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		大森町菅生田		桐植林地		



第28図 県単河川改良事業 大納川 遺跡分布調査位置図



第29図 県単河川改良事業 狙半内川、通常砂防事業 大石沢川・夏虫沢・岩ノ目沢 遺跡分布調査位置図

(23) 県単河川改良事業 狙半内川(位置図は第29図)

増田町中村地区の狙半内川右岸の護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		増田町中村		堤防	なし	

(24) 通常砂防事業 大石沢川(位置図は第29図)

増田町火石田地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査を行い、試掘必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘を行う予定である。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
2		增田町火石田	• •	河川・水田		

(25) 通常砂防事業 夏虫沢(位置図は第29図)

増田町小栗山地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査の結果、周知の遺跡1箇所を確認し、試掘 必要箇所の選定を行った。試掘必要箇所については今後試掘を行う予定である。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
3	天下森遺跡	増田町小栗山		水田		周知の遺跡

(26) 通常砂防事業 岩ノ目沢(位置図は第29図)

増田町岩ノ目沢地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、 試掘の必要はないと判断した。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
4		増田町岩ノ目沢		河川	なし	

(27) 通常砂防事業 大場沢(位置図は第30図)

山内村大畑地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		山内村字大畑		河川	なし	

(28) 通常砂防事業 小松沢(位置図は第30図)

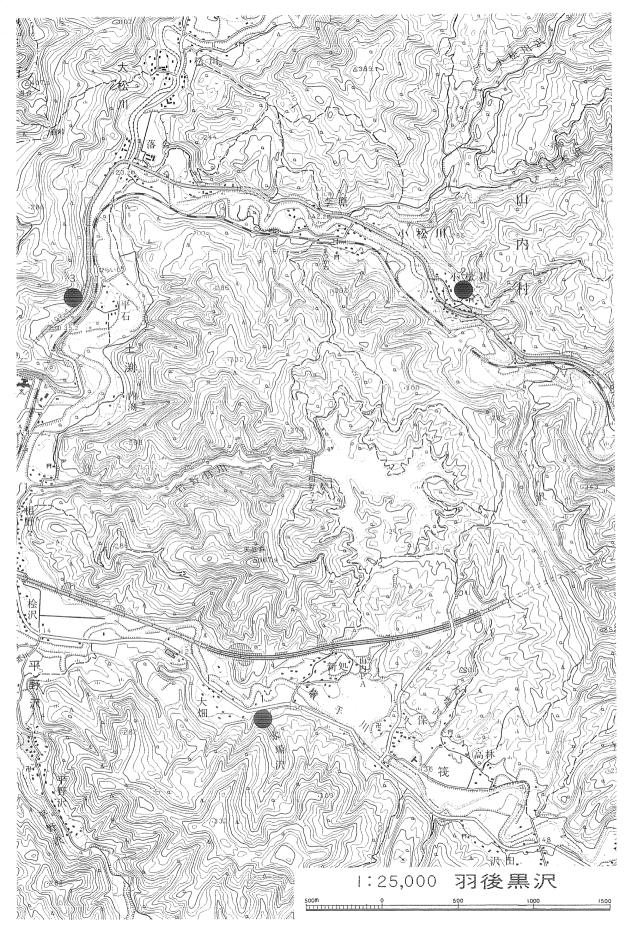
山内村小松川地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、平成14年度工事については試掘の必要はないと判断した。平成15年度以降の事業予定地については、試掘が必要である。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
2		山内村字小松川		河川	なし	

(29) 通常砂防事業 小目倉沢(位置図は第30図)

山内村土淵地区の砂防ダム及び護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備 考
3		山内村字土淵		山林・河川	なし	

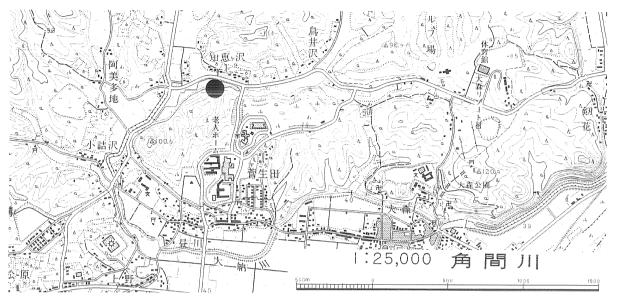


第30図 通常砂防事業 大湯沢・小松沢・小目倉沢 遺跡分布調査位置図

(30) 県単砂防事業 知恵ヶ沢川

大森町知恵ヶ沢地区の護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		大森町知恵ヶ沢		河川・堤防		なし

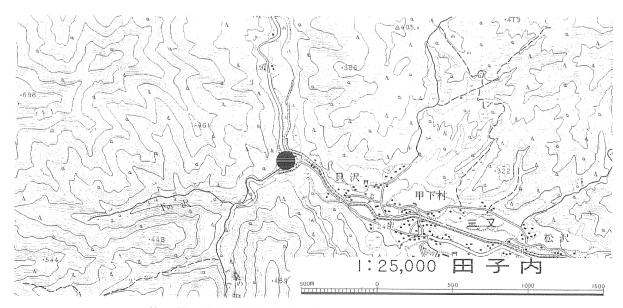


第31図 県単砂防事業 知恵ヶ沢川 遺跡分布調査位置図

(31) 県単砂防事業 桑の木沢川

山内村三又地区の護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考	
1		山内村三又		河川・堤防	なし		

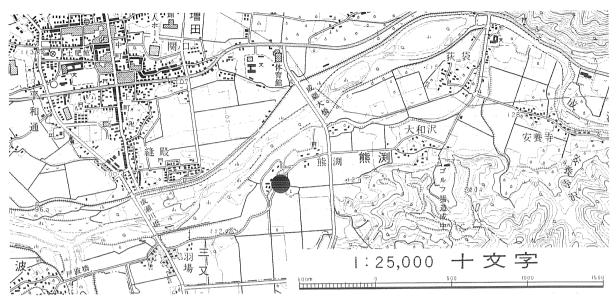


第32図 県単砂防事業 桑の木沢川 遺跡分布調査位置図

(32) 県単急傾斜地崩壊対策事業 熊ノ渕地区

増田町熊ノ渕地区の法面工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		増田町熊ノ渕		河川・堤防	なし	

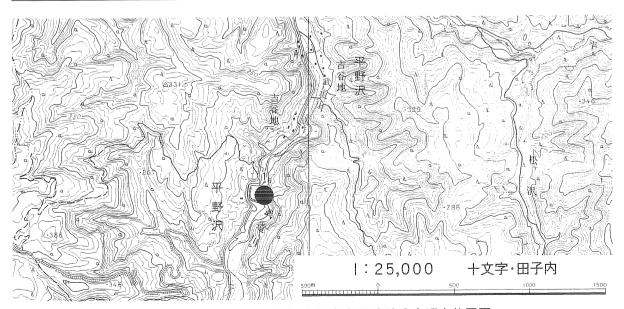


第33図 県単急傾斜地崩壊対策事業 熊ノ渕地区 遺跡分布調査位置図

(33) 地すべり対策事業 吉谷地地区

山内村吉谷地地区の河川付け替え工事及び護岸工事である。踏査を行い、地形と施工計画を照合した結果、試掘の必要はないと判断した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構·遺物	備考
1		山内村吉谷地		河川・水田	なし	



第34図 地すべり対策事業 吉谷地地区 遺跡分布調査位置図

(34) 県営ほ場整備事業 野口地区

小坂町野口地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積28ha、平成15年度まで4箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		小坂町小坂字栃川原		水田	なし	
2		小坂町小坂字夏焼	• •	水田	なし	



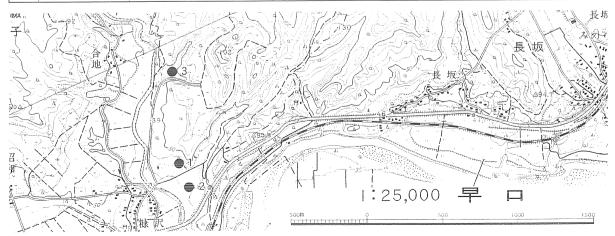
第35図 県営は場整備事業 野口地区 遺跡分布調査位置図

(35) 県営ほ場整備事業 合地地区

鷹巣町合地地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積23ha、平成14年度まで5箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に隣接して周知の遺跡1箇所があることを確認したが、事業予定地には遺跡を確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	柏木遺跡	鷹巣町綴子字糠沢柏木岱	縄文	水田・山林		周知の遺跡
2		鷹巣町綴子字バッコ石		水田	なし	
3		鷹巣町綴子字彦四郎沢		水田	なし	



第36図 県営ほ場整備事業 合地地区 遺跡分布調査位置図

(36) 県営ほ場整備事業 三ノ渡地区(位置図は第37図)

で6箇年計画の ノ渡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積64ha、平成14年度ま 試掘した 平成13年度事業予定地について踏査し、 事業である。 鷹巣町三

をに緊 とから、工事施 ノ渡1遺跡と 試掘により遺物包含層 工事施工計画が遺構検出の可能性のある深さに至らないこ 111 /渡I遺跡、 査及び試掘で縄文土器片、土師器片の出土により確認されたものだが、 111 調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡2箇所を確認した。 工の対応について工事立会とした مَن なかったこ を検出でき

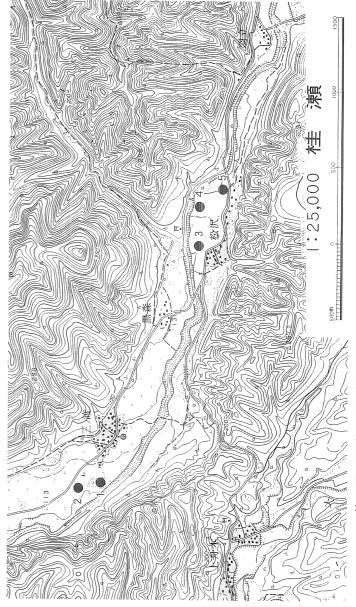
備参	新発見の遺跡	新発見の遺跡
遺構・遺物	縄文土器片·土師器片	縄文土器片·須恵器片
現況	- 平田	水田
世世	縄文・平安	縄文・平安
所在地	鷹巣町七日市字三ノ渡	鷹巣町七日市字三ノ渡
遺跡名	三ノ渡1遺跡	三ノ渡1遺跡
Na		2

(37) 県営ほ場整備事業 松沢地区

鷹巣町松沢地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積23ha、平成14年度まで4箇年計画の事 試掘した。 業である。平成13年度事業予定地について踏査し、

大沢遺跡は縄文土器片、石匙などの出 表上除去の際に 盛土工法~ とから、原因者と取り扱いについて再協議し した。 試掘結果をもとに工事施工については工事立会の対応と 事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。 N 縄文時代の土坑、焼土遺構が検出された の設計変更により遺跡の保全を図った。 上により確認された。 調査の結果、

備考	新発見の遺跡		
遺構・遺物	土坑、縄文土器片(中期・晩期)・石匙 海	7	7.4
現況		水田	水田
時代	縄文		•
所 在 地	鹰巢町七日市字大沢	鹰巢町七日市字大沢	鷹巣町七日市字大沢
遺跡名	大沢遺跡		
No	ಣ	4	5



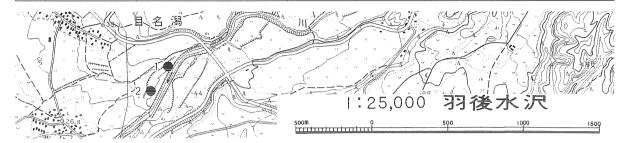
• 松沢地区 遺跡分布調査位置図 ノ渡地区 県営は場整備事業 第37図

(38) 県営ほ場整備事業 中渡地区

峰浜村中渡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積41ha、平成16年度まで4箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備	考
1		峰浜村内渡字上台		水田	なし		
2		峰浜村内渡字上台		水田	なし		



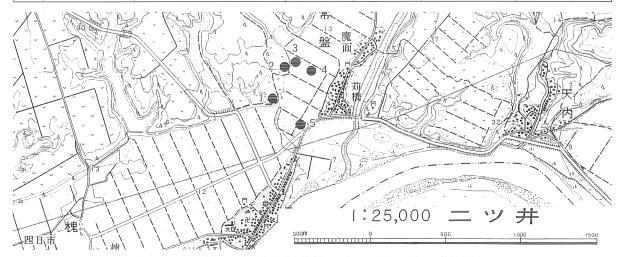
第38図 県営ほ場整備事業 中渡地区 遺跡分布調査位置図

(39) 県営ほ場整備事業 苅橋堰地区

能代市苅橋堰地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積48ha、平成15年度まで4箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について踏査し、試掘した。なお、事業予定地に隣接して周知の遺跡が2箇所ある。

調査の結果、踏査により土師器片を表採し、試掘により耕作土中の土師器片1点を確認したが、遺物包含層や遺構は確認できなかった。このため確認した遺物は周辺からの流入と判断した。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	下響野C遺跡	能代市常盤字下響野	縄文・古代	畑地		周知の遺跡
2	下響野D遺跡	能代市常盤字下響野	縄文・古代	畑地		周知の遺跡
3		能代市常盤字苅田面	• •	水田	なし	
4		能代市常盤字苅田面	• •	水田	なし	
5		能代市常盤字苅田面		水田	なし	



第39図 県営ほ場整備事業 苅橋堰地区 遺跡分布調査位置図

(40) 県営ほ場整備事業 金岡地区(位置図は第58図)

山本町金岡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積490ha、平成15年度まで7箇年計画の 事業である。このうち、平成13年度事業予定地について踏査し試掘地点を選定した。

調査の結果、事業予定地に周知の遺跡1箇所を確認した。保竜館跡では、畑で多くの土師器片が表 採され広範囲に遺跡が広がることが想定された。その後、山本町教育委員会の試掘により、竪穴住居 跡など多くの遺構、遺物が確認された。工事施工の対応については、試掘結果等を踏まえ、原因者と 協議し、盛土による畑団地への設計変更により遺跡の保全を図ることとした。

本事業では、工事着手後に新たに発見された遺跡が1箇所あり、合わせて掲載する。保竜IV遺跡は表土除去後に土師器片の散布により確認されたが、盛土の施工計画となっていたことから工事施工の対応については工事立会とした。なお、事業予定地区内には今後調査の必要な地区を残している。

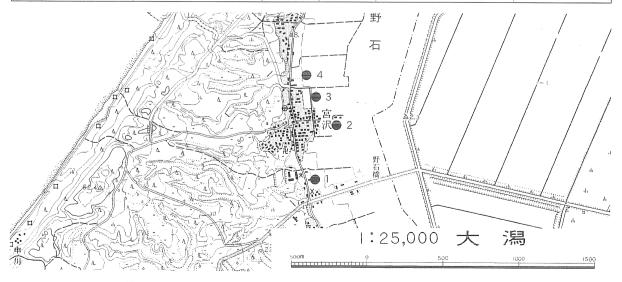
Na	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	保竜館跡	山本町豊岡金田字保竜	平安	畑地	土師器片	周知の遺跡
2	保竜館跡	山本町豊岡金田字保竜	中世	水田	中世陶器片	周知の遺跡
3	保竜Ⅳ遺跡	山本町豊岡金田字保竜	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡

(41) 県営ほ場整備事業 若美北部地区

若美町若美北部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積109ha、平成15年度まで4箇年計画の事業である。平成13年度及び14年度の事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、踏査により須恵器片、土師器片、中世陶器片を表採したが、試掘による遺物包含層や 遺構の確認はできなかった。このため確認した遺物は周辺からの流入と判断した。なお、事業予定地 には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備 考
1		若美町野石字芭蕉		水田	なし	
2		若美町野石字芭蕉		水田	なし	
3	• • •	若美町野石字比潟谷地	•	水田	なし	
4		若美町野石字比潟谷地	• •	水田	なし	



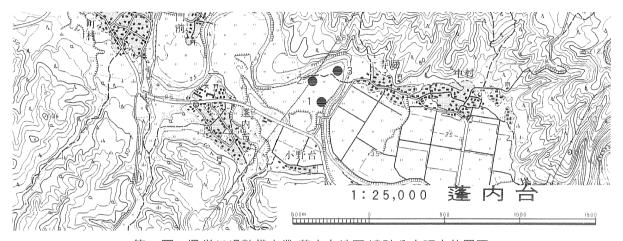
第40図 県営ほ場整備事業 若美北部地区 遺跡分布調査位置図

(42) 県営ほ場整備事業 蓬内台地区

五城目町蓬内台地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積21ha、平成14年度まで5箇年計画の事業である。当面の事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、周知の遺跡である小野台遺跡が、事業予定地にかかることを確認した。ただし、試掘 地点において遺構の検出がなく、遺物の散布も希薄であることから、工事施工の対応については工事 立会とした。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	小野台遺跡	五城目町馬場目字野ノ下	縄文	荒地	縄文土器片・石器片	周知の遺跡
2		五城目町馬場目字野ノ下		水田	なし	
3		五城目町馬場目字野ノ下	-	水田	なし	



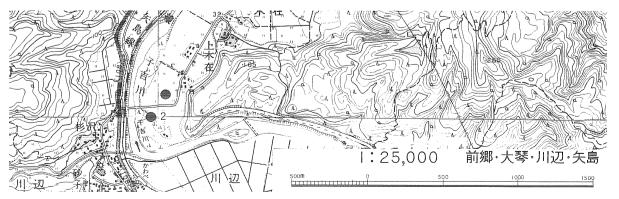
第41図 県営ほ場整備事業 蓬内台地区 遺跡分布調査位置図

(43) 県営ほ場整備事業 木在地区

矢島町木在地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積47ha、平成15年度まで5箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区 を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		矢島町木在字上木在		水田	なし	
2		矢島町木在字上木在	•	水田	なし	



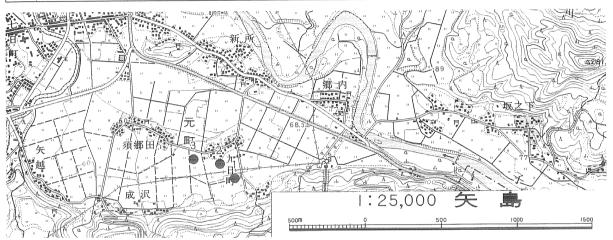
第42図 県営ほ場整備事業 木在地区 遺跡分布調査位置図

(44) 県営ほ場整備事業 矢島地区

矢島町矢島地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積 100ha、平成 15 年度まで 4 箇年計画の 事業である。平成 14 年度事業予定地について踏査し、試掘した。

踏査の結果、事業予定地に周知の遺跡 1 箇所があることを確認した。九日町遺跡では、試掘により 土坑が検出された。工事施工の対応については原因者と協議中である。なお、事業予定地には今後調 査の必要な地区を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	九日町遺跡	矢島町元町字片平ノ下	中世	水田	土坑、中世陶器片	周知の遺跡
2		矢島町元町字九日町		水田	なし	
3		矢島町元町字九日町		水田	なし	



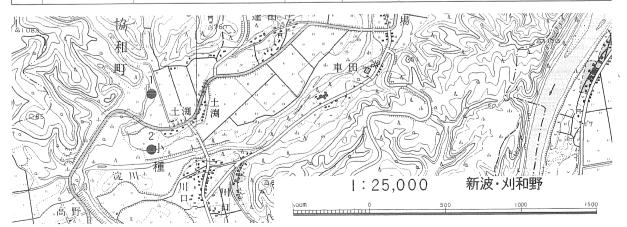
第43図 県営ほ場整備事業 矢島地区 遺跡分布調査位置図

(45) 県営ほ場整備事業 土渕地区

協和町土渕地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積21.5ha、平成14年度まで4箇年計画の 事業である。このうち、平成13年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		協和町小種字笹尾		水田	なし	
2		協和町小種字土渕上段	• •	水田	なし	



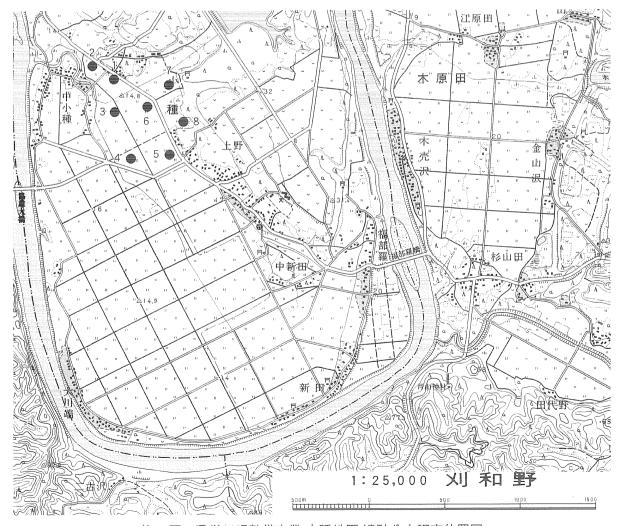
第44図 県営ほ場整備事業 土渕地区 遺跡分布調査位置図

(46) 県営ほ場整備事業 小種地区

協和町小種地区に採択されたほ場整備事業で、計画面積284ha、平成18年度まで6箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡 1 箇所を確認した。柿ノ木遺跡では、試掘により縄文土器 片が出土した。周辺の事業予定地に不確定な部分もあり、今後再試掘が必要である。また工事施工の 対応については、再試掘の結果を踏まえ、原因者と協議する必要がある。なお、事業予定地には今後 調査の必要な地区を残している。

Nα	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	柿ノ木遺跡	協和町小種字割地	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
2		協和町小種字割地		水田	なし	
3		協和町小種字割地		水田	なし	
4		協和町小種字上野		水田	なし	
5		協和町小種字上野		水田	なし	
6		協和町小種字稲荷谷		水田	なし	
7		協和町小種字稲荷谷		水田	なし	
8		協和町小種字稲荷谷		水田	なし	



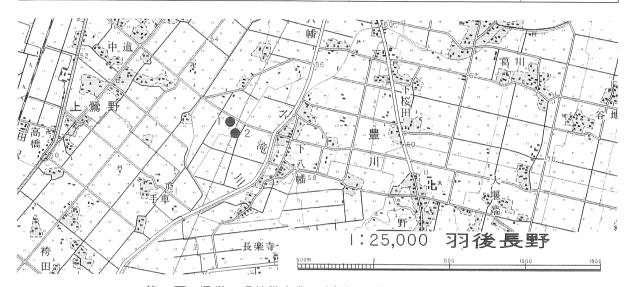
第45図 県営ほ場整備事業 小種地区 遺跡分布調査位置図

(47) 県営ほ場整備事業 八幡地区

中仙町八幡地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積50ha、平成15年度まで4箇年計画の事業である。事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区 を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		中仙町豊川字八幡		水田	なし	
2		中仙町豊川字八幡		水田	なし	



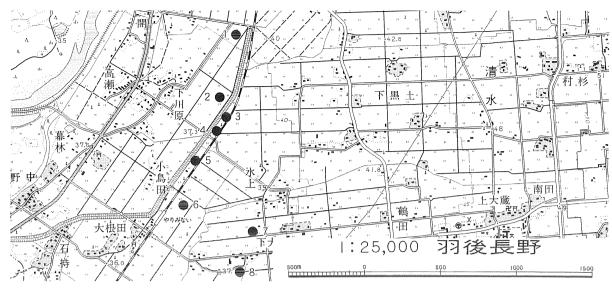
第46図 県営ほ場整備事業 八幡地区 遺跡分布調査位置図

(48) 県営ほ場整備事業 中仙南部地区

中仙町中仙南部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積481ha、平成16年度まで6箇年計画の事業である。事業予定地について踏査し、試掘した。

調査の結果、周知の遺跡 2 箇所を事業予定地に確認した。下道満遺跡、小鳥田 I 遺跡とも遺跡推定 範囲の隣接地で土師器片を確認したことから、遺跡範囲が広がるものと考えられる。工事施行の対応 については、施行方法を含めて原因者と協議中である。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区 を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1		中仙町長野字下川原		水田	なし	
2	下道満遺跡	中仙町長野字下川原	平安	水田	土師器片	周知の遺跡
3	下道満遺跡	中仙町鑓見内字上道満	平安	水田	土師器片	周知の遺跡
4	下道満遺跡	中仙町鑓見内字下道満	平安	水田	土師器細片	周知の遺跡
5	小鳥田I遺跡	中仙町鑓見内字水上	平安	水田	土師器片	周知の遺跡
6		中仙町鑓見内字大根田		水田	なし	
7		中仙町鑓見内字七曲		水田	なし	
8		中仙町鑓見内字下谷地		水田	なし	



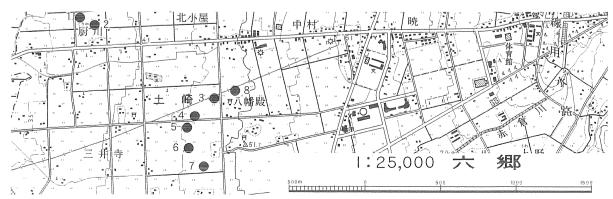
第47図 県営は場整備事業 中仙南部地区 遺跡分布調査位置図

(49) 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区

千畑町土崎小荒川地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積329ha、平成16年度まで7箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地の一部について試掘した。

調査の結果、周知の遺跡 1 箇所を事業予定地に確認した。事業予定地には、寺跡とされる中屋敷 I 遺跡も周知されているが、具体的な遺構、遺物を確認できず、今回確認した遺跡について、現状では中屋敷 II 遺跡の広がりと考えておく。中屋敷 II 遺跡は、昨年度の試掘でも縄文土器片、竪穴住居跡を確認したが、周辺地区を対象にした今年度の試掘でも縄文土器片、土師器片が確認された。この遺跡については、今年度確認調査を実施した。調査結果を踏まえて、工事施工について原因者と協議し、計画変更による盛土施工部分については工事立会、切土施工となる部分については来年度発掘調査を実施することとした。なお、事業予定地には今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
3		千畑町土崎字中谷地		水田	なし	
4	中屋敷Ⅱ遺跡	千畑町土崎字中谷地	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
5	中屋敷Ⅱ遺跡	千畑町土崎字中屋敷	平安	水田	土師器片	周知の遺跡
6	中屋敷Ⅱ遺跡	千畑町土崎字中屋敷	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
7		千畑町土崎字野田	縄文	水田	縄文土器片	周知の遺跡
8		千畑町土崎字元屋敷	•	水田	なし	



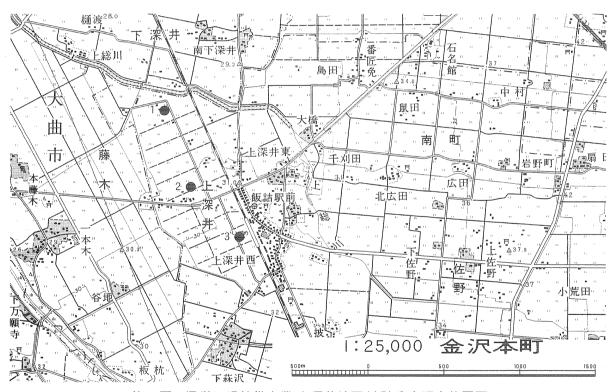
第48図 県営ほ場整備事業 土崎小荒川地区 遺跡分布調査位置図

(50) 県営ほ場整備事業 上深井地区

仙南村上深井地区で実施されているは場整備事業で、計画面積44ha、平成15年度まで4箇年計画の 事業である。このうち平成13・14年度事業予定地について試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡 2 箇所を事業予定地に確認した。矢矧殿遺跡では、土師器・須恵器が多量に出土し、竪穴住居跡・土坑・柱穴を検出した。この遺跡の取扱いについては原因者と協議し施工高を変更し遺跡を保全した。なお暗渠施工の対応については工事立会とした。耳取遺跡では土師器片・須恵器片が出土した。遺物分布が希薄で、過去の耕地整理の際に盛土された層からの出土であることから、工事施工の対応については工事立会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1		仙南村上深井字中谷地		水田	なし	
2	矢矧殿遺跡	仙南村上深井字矢矧殿	古代	水田	竪穴住居跡·土坑、土師器·須恵器片	新発見の遺跡
3	耳取遺跡	仙南村上深井字耳取	古代	水田	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡



第49図 県営ほ場整備事業 上深井地区 遺跡分布調査位置図

(51) 県営ほ場整備事業 金西東部地区(位置図は第50図)

仙南村金西東部地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積233ha、平成17年度まで8箇年計画の事業である。平成14年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。下四ツ谷遺跡では、須恵器片が出土した。再試掘を実施した結果、周辺から遺構、遺物を確認できなかった。このため、下四ツ谷遺跡のごく一部が事業予定地に係るものと判断した。このため、工事施工の対応については工事立会とした。

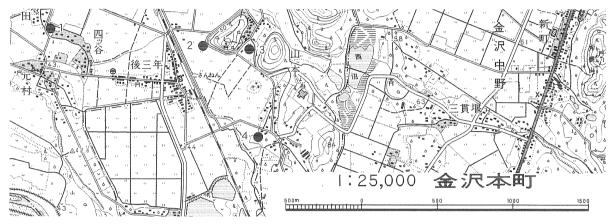
No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	下四ッ谷遺跡	仙南村金沢西根字下四ッ谷	古代	水田	須恵器片	新発見の遺跡

(52) 県営ほ場整備事業 東山本地区

仙南村東山本地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積23ha、平成14年度まで4箇年計画の 事業である。このうち平成13年度事業予定地について試掘を行った。

調査の結果、新発見の遺跡 2 箇所を事業予定地に確認した。南谷地遺跡では、須恵器片及び柱穴の 出土を確認したが、出土遺物・遺構ともに希薄であるため、工事施工の対応については工事立会とし た。南西法寺遺跡では、石器片が出土したが、出土遺物が希薄なこと、遺構を検出できなかったこと から、工事施工の対応については工事立会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備 考
2	南谷地遺跡	仙南村飯詰字南谷地	古代	水田	柱穴、須恵器片	新発見の遺跡
3		仙南村飯詰字東山本		水田	なし	
4	南西法寺遺跡	仙南村飯詰字南西法寺	縄文	畑地	石器片	新発見の遺跡



第50図 県営は場整備事業 金西東部地区・東山本地区 遺跡分布調査位置図

(53) 県営ほ場整備事業 又兵衛地区(位置図は第51図)

雄物川町・大雄村・平鹿町の又兵衛地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積84ha、平成15年度まで5箇年計画の事業である。平成14・15年度事業予定地について試掘した。

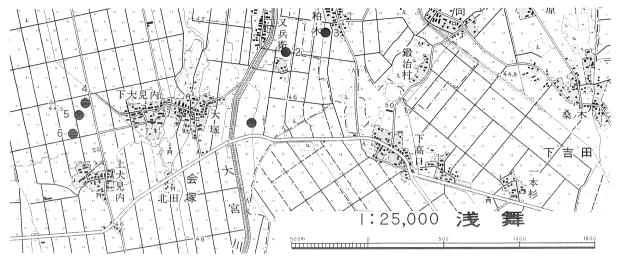
No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		雄物川町会塚字大樋脇		水田	なし	
2		雄物川町会塚字下野		水田	なし	
3		大雄村田根森字柏木		水田	なし	

(54) 県営ほ場整備事業 館合地区

雄物川町館合地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積406ha、平成15年度まで7箇年計画の事業である。平成14年度工事予定地区について踏査し、試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡 1 箇所を事業予定地に確認した。大見内遺跡の試掘では、土師器片、須恵器片、縄文土器片が確認された。この遺跡については、今年度確認調査を実施した。調査結果を踏まえて、工事施工について原因者と協議し、計画変更による盛土施工部分については工事立会、切土施工となる部分については来年度発掘調査を実施することとした。なお、事業予定地区内には、今後の調査の必要な地区を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
4	大見内遺跡	雄物川町薄井字大見内	平安	水田	土師器片	新発見の遺跡
5	大見内遺跡	雄物川町薄井字大見内	縄文	水田	縄文土器片	新発見の遺跡
6	大見内遺跡	雄物川町薄井字大見内	平安	水田	須恵器片	新発見の遺跡



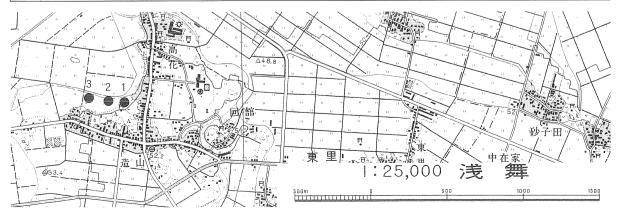
第51図 県営は場整備事業 又兵衛地区・館合地区 遺跡分布調査位置図

(55) 県営ほ場整備事業 里見地区

雄物川町里見地区で実施されているほ場整備事業で、計画面積351ha、平成17年度まで6箇年計画の事業である。平成14年度工事予定地区の一部について踏査し、試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡 1 箇所、周知の遺跡 1 箇所を事業予定地に確認した。造山遺跡では、水田より土師器片を表採したほか、土坑を検出した。また造山 II 遺跡は、造山遺跡と埋没した沢を挟んだ地点で縄文時代後期の土器片と土坑を検出したことから新たな遺跡と確認した。これらの遺跡の工事施工の対応については、水路予定位置で遺構が検出されていないこと、面工事予定箇所でも施工位置が遺構確認面及び遺物包含層に及ばないことから工事立会とした。なお、事業予定地には、今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備 考
1	造山遺跡	雄物川町造山字造山	古代	水田	土師器片·須恵器片	周知の遺跡
2	造山Ⅱ遺跡	雄物川町造山字造山	縄文	水田	土坑、縄文土器片	新発見の遺跡
3		雄物川町造山字造山		水田	なし	



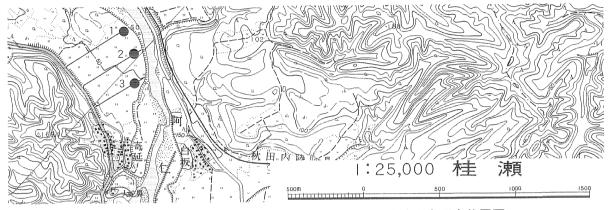
第52図 県営ほ場整備事業 里見地区 遺跡分布調査位置図

(56) 県営土地改良総合整備事業 寄延地区

森吉町寄延地区に採択された土地改良総合整備事業で、平成14年度まで4箇年計画の事業である。 このうち平成13年度事業予定地について試掘した。

調査の結果、新発見の遺跡1箇所を事業予定地に確認した。寄延岱遺跡では、縄文土器片を含む土 坑を検出した。工事施工の対応については、施工計画が水路工事で範囲が狭小であることから、工事 立会とした。なお、事業予定地には、今後調査の必要な地区を残している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1		森吉町浦田字寄延岱	•	水田	なし	
2		森吉町浦田字寄延岱		水田	なし	
3	寄延岱遺跡	森吉町浦田字寄延岱	縄文	水田	土坑、縄文土器片	新発見の遺跡



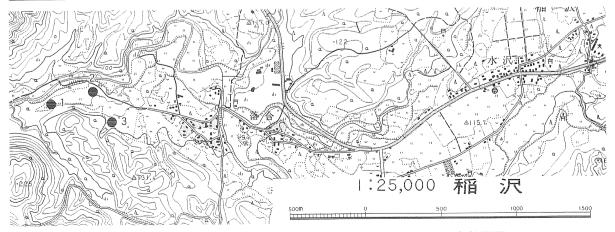
第53図 県営土地改良総合整備事業 寄延地区 遺跡分布調査位置図

(57) 県営土地改良総合整備事業 落合地区

協和町落合地区で実施されている土地改良総合整備事業で、計画面積35ha、平成13年度まで4箇年 計画の事業である。このうち平成13年度事業予定地について試掘を行った。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		協和町稲沢字小山崎		水田	なし	
2		協和町稲沢字小山崎		水田	なし	
3		協和町稲沢字春木場沢		水田	なし	



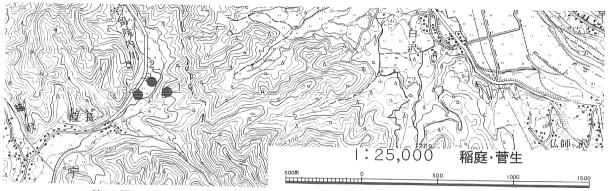
第54図 県営土地改良総合整備事業 落合地区 遺跡分布調査位置図

(58) 県営土地改良総合整備 宇留院内地区

湯沢市宇留院内地区で実施されている土地改良総合整備事業で、計画面積25ha、平成13年度まで4 箇年計画の事業である。このうち平成13年度事業予定地について踏査し試掘した。予定地周辺には、 周知の遺跡である七十刈遺跡がある。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。また、周知の七十刈遺跡については、位置、範囲の修正が必要になる可能性がある。なお、事業予定地には、今後調査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	七十刈遺跡	湯沢市宇留院内字七十刈	• •	畑地·水田		周知の遺跡
2	• • •	湯沢市宇留院内字七十刈		水田	なし	
3	,	湯沢市宇留院内字観音下	• •	水田	なし	



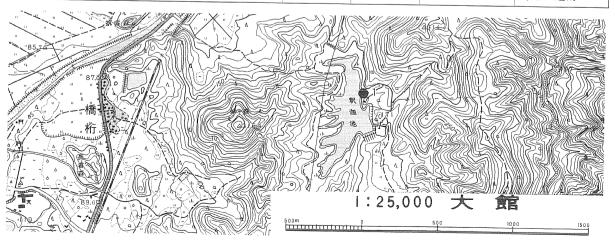
第55回 県営土地改良総合整備事業 宇留院内地区 遺跡分布調査位置図

(59) 県営地域用水環境整備事業 釈迦池地区

大館市釈迦池地区で実施されている地域用水環境整備事業で平成13年度まで3箇年計画の事業である。平成13年度事業予定地について踏査した。事業予定地周辺には、周知の遺跡1箇所がある。

調査の結果、事業予定地に周知の遺跡1箇所があることを確認したが、釈迦池遺跡の遺構確認面等は通常水面下にあること、施工予定地が以前の工事により既に遺構確認面下まで掘削されていることを確認し、工事施工の対応については工事立会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1	釈迦池遺跡	大館市商人留字大沢口	縄文	湖底		周知の遺跡



第56図 県営地域用水環境整備事業 釈迦池地区 遺跡分布調査位置図

(60) 県営広域農道整備事業 秋田中央地区(位置図は第57図)

秋田市外旭川と河辺町神内を結ぶ延長17km、幅員8mの計画路線の内、河辺町神内地区について踏 香し、一部を試掘した。

調査の結果、事業予定地に遺跡は確認できなかった。なお、事業予定地には、今後試掘の必要な地 区を残している。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備	考
1		河辺町神内字堂坂	• •	山林	なし		
2		河辺町神内字妙見	• •	山林	なし		

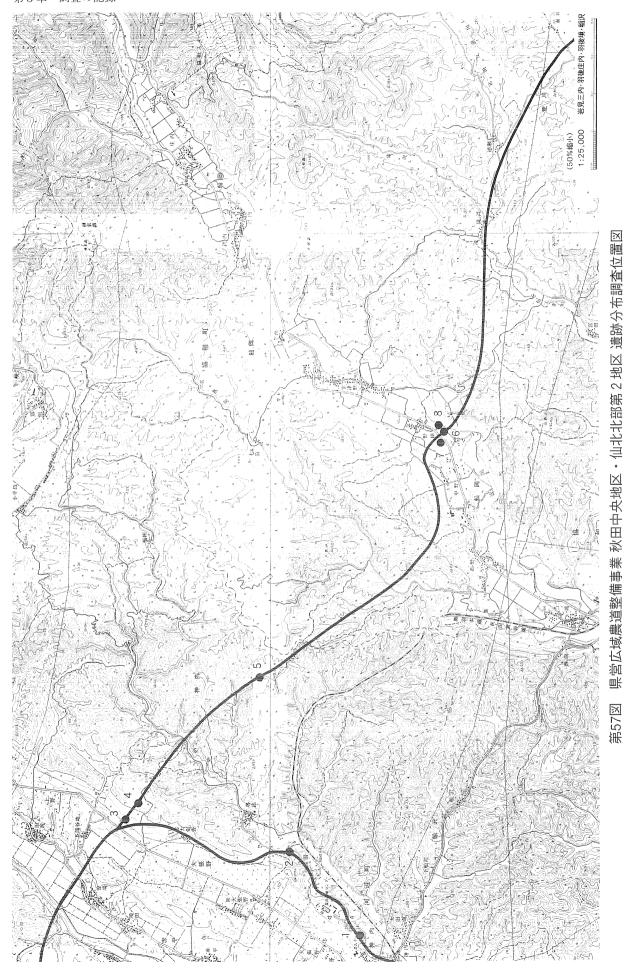
(61) 県営広域営農団地農道整備事業 仙北北部第2地区

河辺町古大張野と協和町面日を結ぶ延長13.8km、幅員8mの計画路線の内、概ね河辺町と協和町の境で、秋田総合農林事務所と仙北総合農林事務所のそれぞれが事業を進めている。

秋田総合農林事務所管内の工事は起点側、終点側に未着工区間があるが、他は概ね舗装工事を残す 形で進められている。平成14年度事業予定地である町境付近と秋田中央地区広域農道に接続する終点 側を踏査し、試掘地点を選定した。試掘地点については、今後試掘する予定である。

仙北総合農林事務所管内については、3工区に分けられ各工事区ともほぼ全線にわたって着工されており、未着工区は協和町船岡字野田付近など僅かな状況である。平成14年度事業予定地を踏査し、協和町船岡字野田付近に試掘地点を選定し、試掘した。なお、この付近には周知の遺跡が2箇所ある。調査の結果、事業予定地に新発見の遺跡1箇所を確認した。野田V遺跡は、縄文土器細片の出土により新たな遺跡として確認したものだが、試掘による遺構を検出できなかったこと、また遺物も極めて少なかったことから、工事施工対応については工事立会とした。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現況	遺構・遺物	備 考
3		河辺町三内字五郎谷地山根		山林		試掘予定
4		河辺町大張野字山根		山林		試掘予定
5		河辺町神内字新山沢		山林		試掘予定
6	野田V遺跡	協和町船岡字野田	縄文	水田	土器細片	新発見の遺跡
7	野田Ⅲ遺跡	協和町船岡字野田	縄文	水田		周知の遺跡
8	野田Ⅳ遺跡	協和町船岡字野田	縄文	水田		周知の遺跡



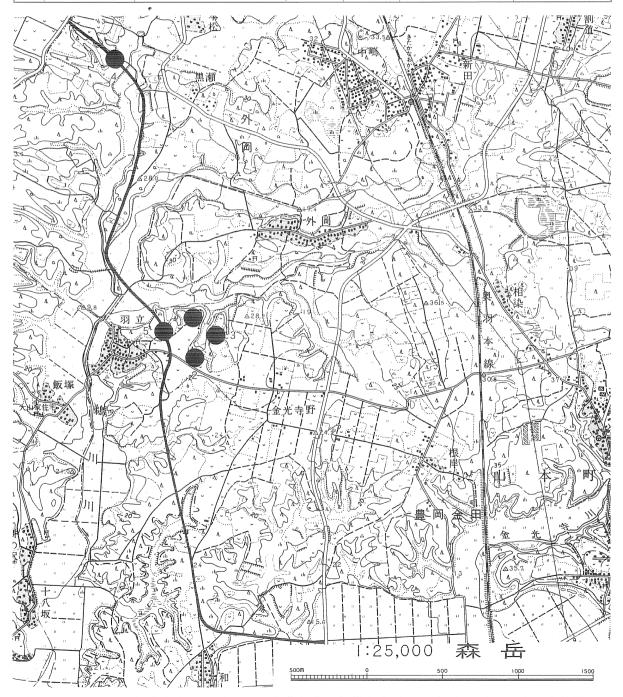
- 47 -

(62) 県営農免農道整備事業 金岡西部地区

山本町金岡西部地区に計画された延長4.7km、幅員7mの計画路線の内、羽立集落以北の計画路線約2.6kmを踏査し、試掘必要地点を選定した。

調査の結果、事業予定地内に周知の遺跡 2 箇所を確認した。事業予定地については今後の調査が必要である。渡道遺跡は、平成13年度に行った遺跡地図作成のための分布調査により、渡道 II 遺跡と名称変更している。

No	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
4	館城遺跡	山本町豊岡金田字保竜	縄文	畑地		周知の遺跡
5	渡道Ⅱ遺跡	山本町外岡字渡道	縄文	水田		周知の遺跡

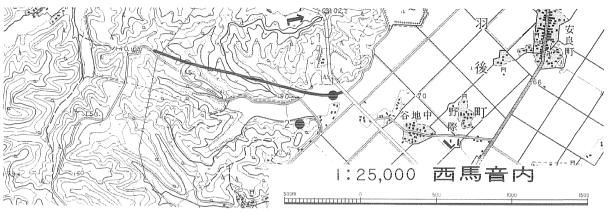


第58図 県営ほ場整備事業 金岡地区、県営農免農道整備事業 金岡西部地区 遺跡分布調査位置図

(63) 県営山村基幹農道整備事業 北沢 4 期地区

羽後町北沢地区に計画された農道で延長1.45km、幅員7mの計画路線について再踏査し、試掘した。 計画路線周辺には塩出平山遺跡が周知されているが、この遺跡は計画路線にかからないことを昨年 度の踏査により確認している。調査の結果、踏査により水田部分で土師器片を表採したが、試掘によ る遺物出土、遺構検出は無く、遺物包含層も確認できなかったことから、表採した遺物を旧耕地整理 時の地区外からの混入と判断した。

Nα	遺跡名	所 在 地	時 代	現況	遺構・遺物	備考
1		羽後町字元西		水田	なし	
2	塩出平山遺跡	羽後町西馬音内堀廻字塩出平山	古代	畑地		周知の遺跡



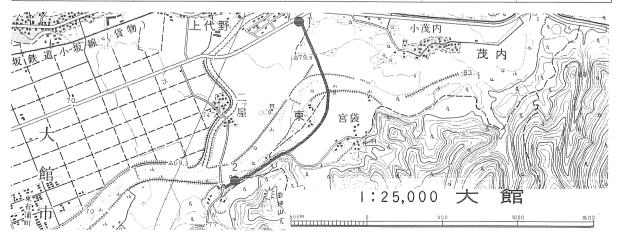
第59回 県営山村基幹農道整備事業 北沢 4 期地区 遺跡分布調査位置図

(64) 県営ふるさと農道整備事業 茂内地区

大館市茂内地区に計画された農道で延長 1.575km、幅員 10.25 mの計画路線の内、平成 13・14 年度 事業予定地について踏査した。

調査の結果、事業予定地に周知の遺跡2箇所を確認した。塚ノ下遺跡については、以前のほ場整備 事業時に盛土による保護措置をとり対応を終えている。岩神遺跡については、遺物散布範囲が事業予 定地に隣接し20m程上の台地になることから、工事施工の対応について、慎重工事とした。

1	.Vo.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備 考
	1	塚ノ下遺跡	大館市茂内字塚下	縄文	畑地		周知の遺跡
	2	岩神遺跡	大館市東字岩神	縄文	道路・山林		周知の遺跡



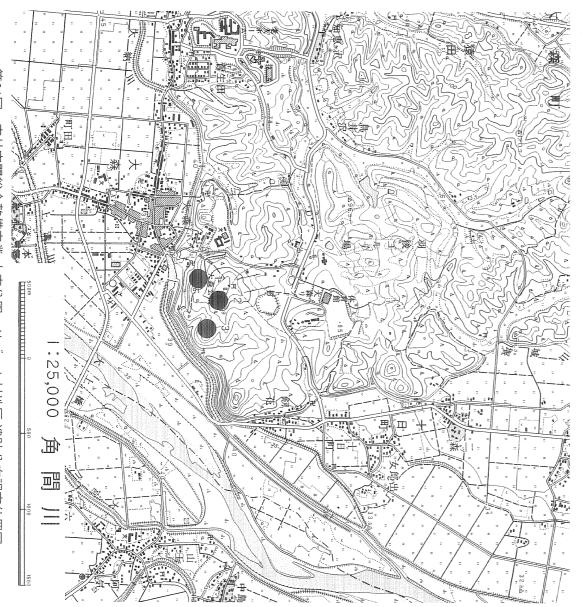
第60図 県営ふるさと農道整備事業 茂内地区 遺跡分布調査位置図

(65) 森林空間総合整備事業 大森公園・リゾート村地区

森城跡に係るため試掘した。 森林空間総合整備事業で予定されている駐車場造成・林道建設・ 東屋建築が、 周知の遺跡で H

対応に |\rightarrow | \rightarrow | \ 検討し施工に 林道建設予定地であ 一検出し 地点1は駐車場建設予定地 4 16 ついては工事立 堀切· 1:0 工事施工の対応については、 ついて協議する必要がある。 語 響: 土橋が確認でき 会会 現況地形は斜面であ した。 d 地点3 現況地形から帯郭が確認で 0 調査の結果、平坦面で溝跡を検出した。 工事計画が盛土造成であ 東屋建設予定地であり、 000 調査の結果、 DH 遺構· N 0 N 調査の結果、 現況地形から尾根の先端部と独 遺物は検出でき ため工事立会と 柱穴 今後、 なかっ 溝跡· 工事計画を 地点2は 施工

周知の遺跡	堀·土橋	三李	# #	大森町字湯ノ沢	大森城跡	ω
周知の遺跡	なし	<u></u> 二	古世	大森町字湯ノ沢	大森城跡	2
周知の遺跡	柱穴·溝跡、石器片	公園	縄文・中世	大森町字高口下水戸堤	大森城跡	}
備	遺構・遺物	現 況	時代	所在地	遺跡名	Νo



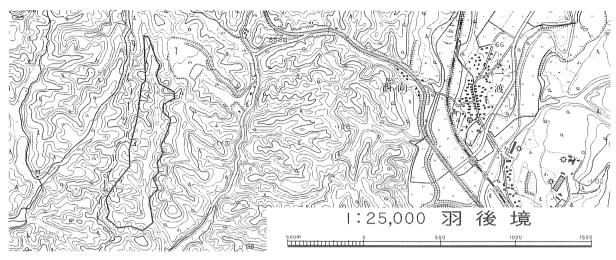
第61図 森林空間総合整備事業 大森公園・リゾ 卜村地区 遺跡分布調査位置図

(66) 秋田県環境保全センターD区処分場造成事業

協和町の秋田県環境保全センター地内D区処分場造成予定地について、現地を踏査した。

調査の結果、沢部の湿地が狭く、また山林は傾斜の勾配がきつく、遺跡の存在する地形状況が予定 地内にないことがわかり、工事施工の対応は終了した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備考
1		協和町上淀川字雨池沢		山林・湿地	なし	



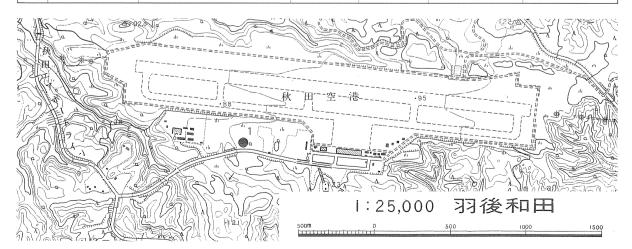
第62図 秋田県環境保全センターD区処分場造成事業 遺跡分布調査位置図

(67) 秋田県中央地区備蓄倉庫建築工事

雄和町の秋田県中央地区備蓄倉庫建設工事ついて、消防防災航空隊の設置されている秋田空港敷地 内格納庫脇の建設予定地を踏査した。

調査の結果、予定地は空港敷地を造成した際地山を深く掘削したのちに厚く盛土された部分であることがわかり、遺跡が残存する可能性はないものと判断し、工事施工の対応は工事立会を行い終了した。

No.	遺跡名	所 在 地	時 代	現 況	遺構・遺物	備	考
1		雄和町椿川字山反		空港敷地	なし		



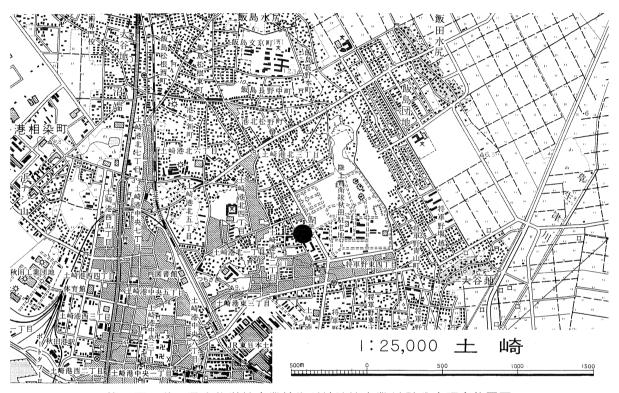
第63図 秋田県中央地区備蓄倉庫建築工事 遺跡分布調査位置図

(68) 秋田県立聾学校産業技術科棟建築事業

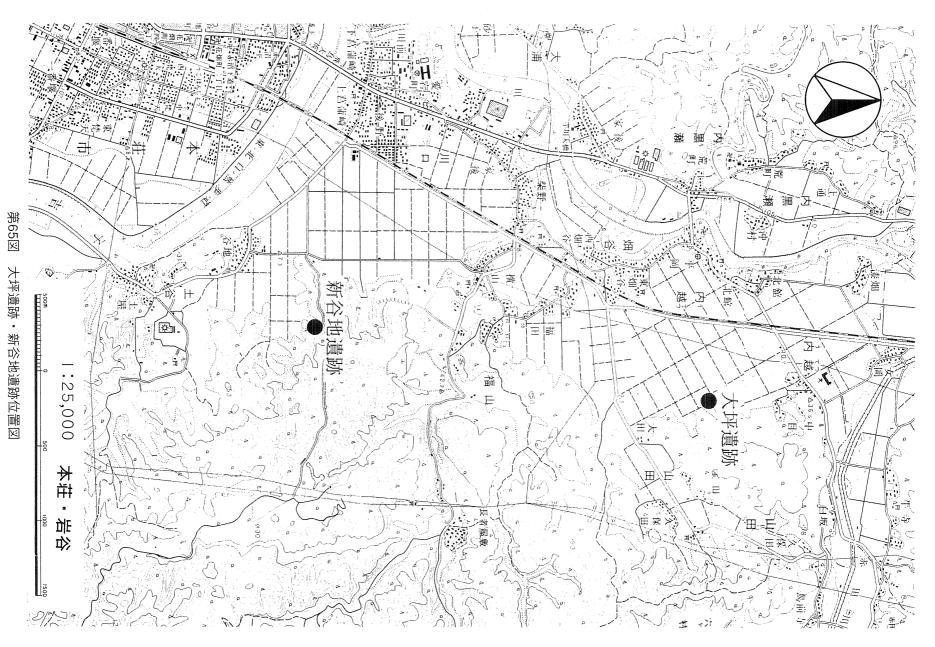
学校敷地すべてが、周知の遺跡である県立聾学校遺跡であることから、予定地及び敷地内を踏査した。

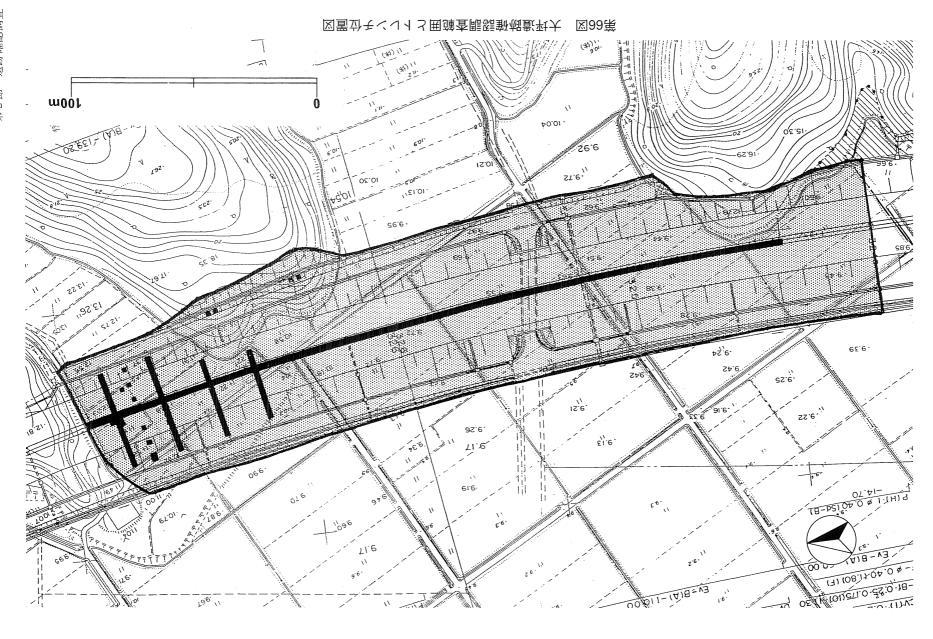
調査の結果、敷地内で遺物は確認されなかったが、今後事業の進行状況に合わせ試掘調査が必要である。

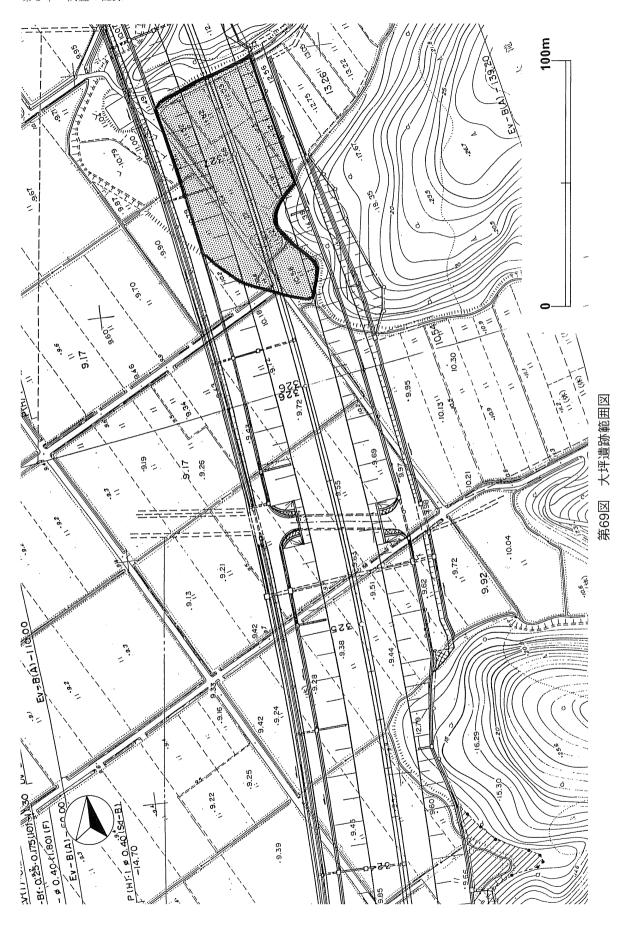
No.	遺跡名	所 在 地	時代	現 況	遺構・遺物	備考
1	県立聾学校遺跡	秋田市土崎港北	縄文	学校敷地		周知の遺跡



第64図 秋田県立聾学校産業技術科棟建築事業 遺跡分布調査位置図









大坪遺跡 遠景(西から)



大坪遺跡 溝跡検出状況(北西から)



大坪遺跡 遺物出土状況(西から)

②新谷地遺跡

1 遺跡所在地 本莊市土谷字新谷地 90 外

2 確認調査期間 平成13年7月23日~7月31日

3 確認調査対象面積 10,100 m²

4 工事区域内遺跡面積 1,200 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

新谷地遺跡は本荘市東部の土谷地区に所在し、JR羽越本線羽後本荘駅の東北東2.0kmに位置する。 対象区西側約60mには秋田県立大学本荘校がある。

本遺跡の西方を子吉川が北および北西方向に流れており、本遺跡は地形区分上の子吉川低地(本荘 平野)縁辺部に位置し、北および東は中央丘陵地に接する。

本遺跡周辺の表層地質は、子吉川低地が未固結の泥がち堆積物、中央丘陵地がシルト岩および礫岩を伴う砂岩である。

b 現況

北側 $1,200 \, \text{m}^2$ は畑地、中央~南側の $8,900 \, \text{m}^2$ は水田である。畑地の標高は $8.8 \sim 11.0 \, \text{m}$ 、水田の標高は $7.7 \sim 8.8 \, \text{m}$ と、北がやや高く南が低い地形を呈している。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は1,100 m²で対象面積の10.9%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - ()内は層厚-

第1トレンチ (第4トレンチとの交点付近) の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 畑地耕作土 (25~30cm)

第Ⅱ層 褐灰色土(15~20cm)=遺物包含層

第Ⅲ層 地山土 (5~10cm)

耕作土は灰黄褐色土を呈し、粘性が強い。Ⅱ層は中位に層厚5mm以下の火山灰が薄層状に混じる粘質土で、下位からは微細な木炭が確認できる。地山は灰オリーブ色を呈し、上位は第二酸化鉄の沈着が著しい。地山上面が遺構確認面である。

水田は地山面まで2m前後の深さがあり、広い範囲で樹木を投げ込んで沈下の防止に努めた痕跡がある。

b 検出遺構と出土遺物

遺構は、畑地の第1・第2トレンチから溝状遺構3条を検出した。

水田からの遺構の検出はなかった。

遺物は、比較的まとまった量の土師器・須恵器が主に畑地から出土している。破片数で土師器 154点、須恵器 6 点を数える。坏類はロクロ成形で底径が小さいこと、ほとんど II 層下位の十和田 a 火山灰の下からの出土であることを併せ考慮すると、9 世紀から10世紀前半代を主時期とするものと判断

できる。また、鉄滓が調査区北端付近より破片で20点余り見つかっていることから、畑地北端もしくはその北に接する丘陵斜面に製鉄関連遺構が存在する可能性がある。

水田からの遺物出土は、表土中位から、唐津系陶器2点、須恵器片1点のみである。

なお、調査区付近の農道等の客土された箇所から、土師器85点、須恵器19点、縄文土器2点、石器剥片3片、元代の中国産青磁1点ほかを採集している。

8 所見

a 遺跡の種類

平安時代の遺物包含地であり、集落跡の可能性もある。

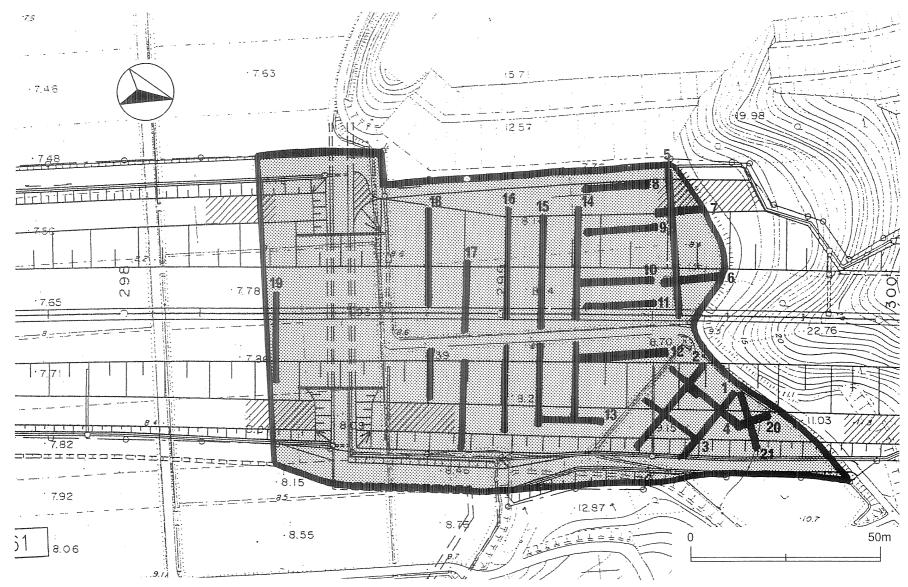
b 遺跡の範囲と工事区域

遺跡範囲は水田を除く畑地一帯に広がり、より北の南向き丘陵斜面にも広がるものと思われる。 工事区域内遺跡範囲は本確認調査対象区の畑地部分1,200 ㎡である。

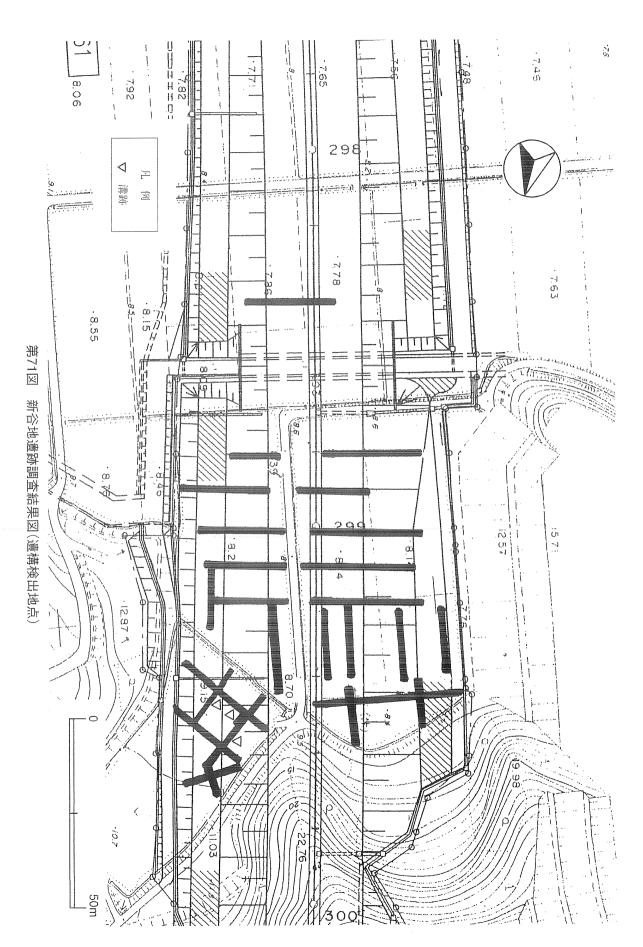
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、平安時代の溝跡および住居跡や建物跡が少数検出されるものと予想する。北端では生産に 係わる遺構も存在する可能性がある。

遺物は、遺構内および包含層中から、土師器・須恵器などの古代の土器および鉄滓など製鉄関連遺物がある程度まとまって出土するものと予想する。

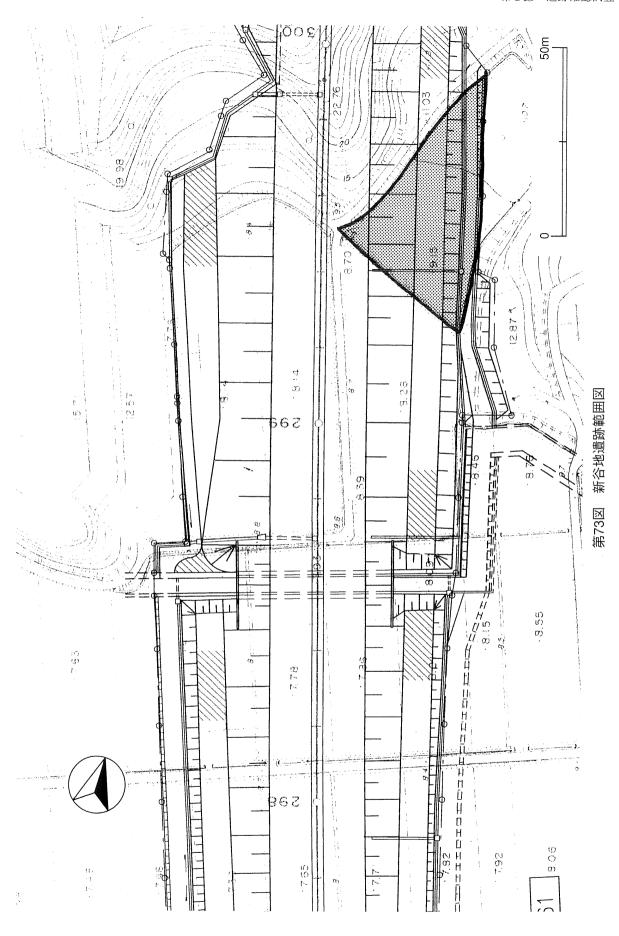


第70図 新谷地遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



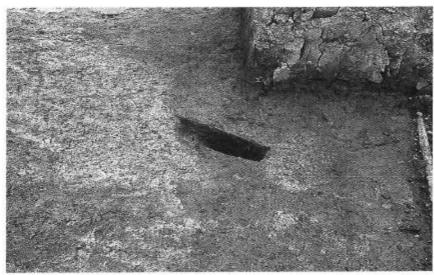
7.5

第72図 新谷地遺跡調査結果図(遺物出土地点)

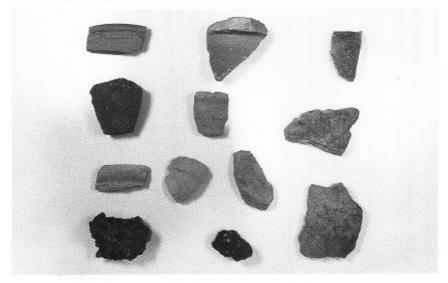




新谷地遺跡 第4トレンチ調査風景



新谷地遺跡 第2・第4トレンチ交点 溝跡検出状況(南から)



新谷地遺跡 出土遺物

(2) 一般国道7号大館西道路建設事業

①ニッ森Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地 大館市釈迦内字二ツ森 14 - 1 外

2 確認調査期間 平成13年5月21日~6月20日

3 確認調査対象面積 7,900 m²

4 工事区域内遺跡面積 2,200 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

ニッ森Ⅱ遺跡は、大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北北東約4.8km、現国道7号の西側に 近接して所在する。

本遺跡西方を米代川水系下内川が白神山地より南流しており、本遺跡は下内川支流乱川の右岸に立地する。標高は77~78 mであり、更新世形成の第3段丘上に立地する。調査対象区の南西および南東には沢が入っている。

なお、国道7号を挟んで狼穴Ⅳ遺跡に近接し、同遺跡とは同一段丘上に立地する。

b 現況

畑地および荒蕪地となっており、荒蕪地にはニセアカシアが比較的密に自生している。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は1,420 m²で対象面積の18.0%に相当する。

7 確認調查結果

a **層序** - () 内は層厚-

第11トレンチ沢部の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (10~30cm)

第Ⅱ層 褐色土粒まじり黒褐色土 (40~50cm)

第Ⅲ層 黒色土 (5~10cm) =遺物包含層

第Ⅳ層 オリーブ褐色土 (10~15cm) 場所により小礫混じる

第 V層 地山土=遺構確認面

第 \blacksquare 層中の褐色土は大湯浮石の可能性が高く、場所により撹乱を受ける。また、弥生時代の土坑墓を検出した第 5 トレンチ・第 12 トレンチ交点付近では第 \blacksquare 層および第 \blacksquare 層が欠失している。第 \blacksquare 層 移層である。

b 検出遺構と出土遺物

調査の結果、対象区東端の台地縁辺部において弥生時代の土坑墓と思われる径1.2 mの円形土坑2 基、時期不明の柱穴数基、対象区中央部にて縄文時代の土坑1基、Tピット1基、時期不明の土坑1 基などを検出した。時期不明の土坑は底面が平坦で粘土が敷かれているが、覆土からは近代の陶磁器 が出土している。沢部では捨て場的利用の痕跡は確認できなかった。

第3章 調査の記録

遺物は、土坑墓に埋設されている弥生時代後期後葉の甕、他には、包含層から縄文時代前期前葉の 土器などが出土しているが、量的には僅少である。

8 所見

a 遺跡の種類

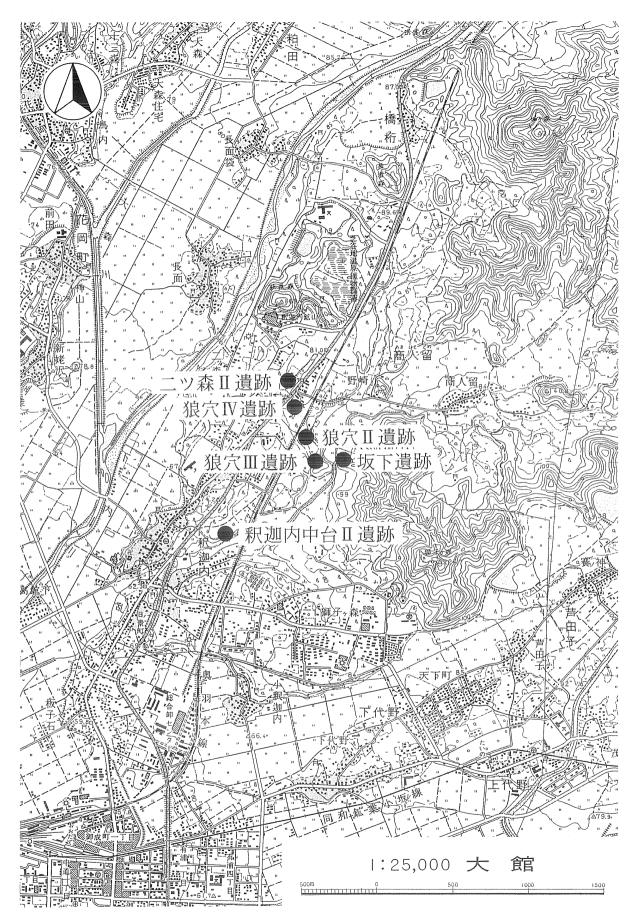
縄文時代の小規模な集落もしくは狩猟場、および弥生時代の墓域である。

b 遺跡の範囲と工事区域

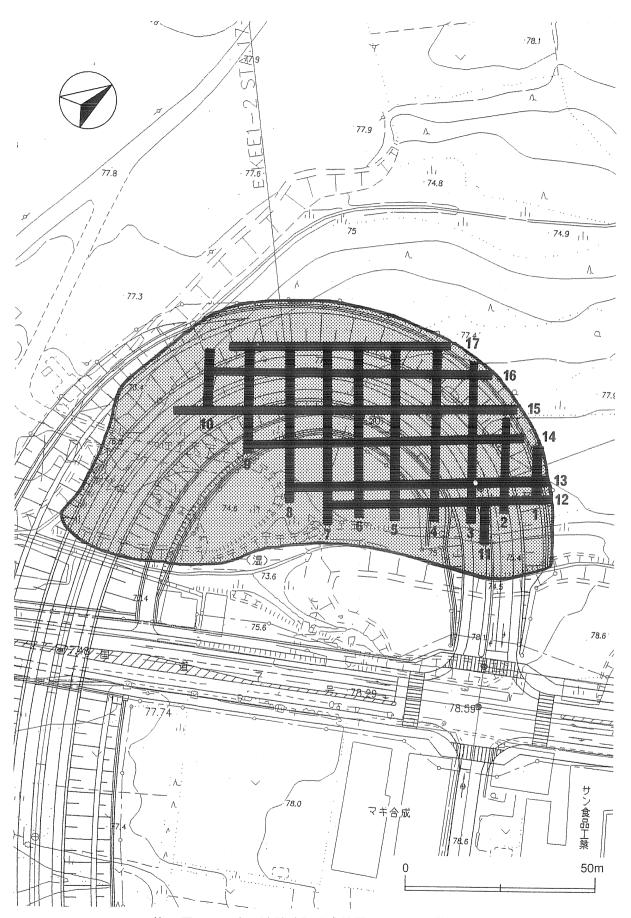
工事区域内の遺跡範囲は、対象区中央から東側にかけての2,200 m2である。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

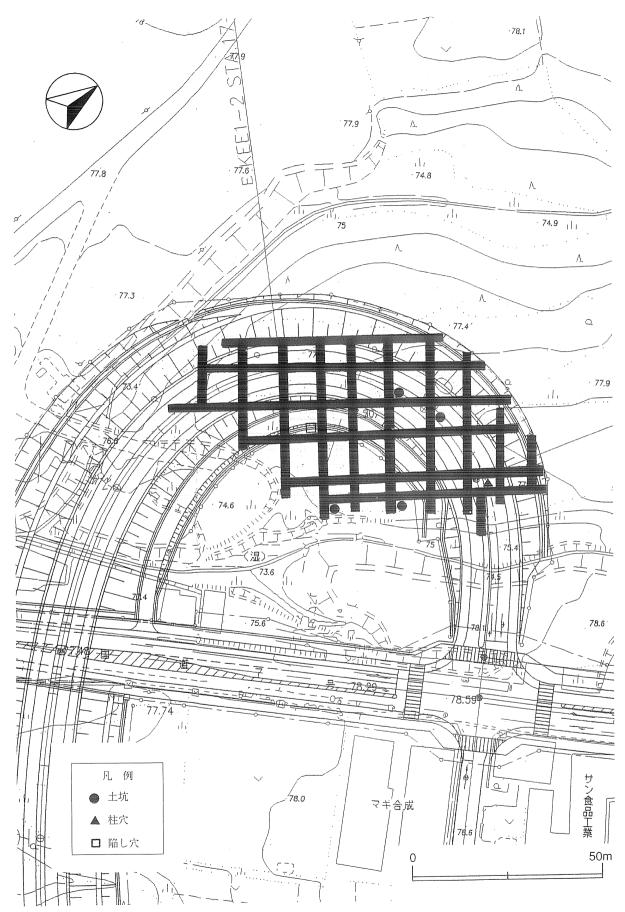
遺構は、縄文時代・弥生時代の土坑・土坑墓や陥し穴など20基程度(柱穴除く)の遺構が検出されるものと予想される。遺物では縄文土器・弥生土器が遺構内および包含層から少量出土するものと考えられる。



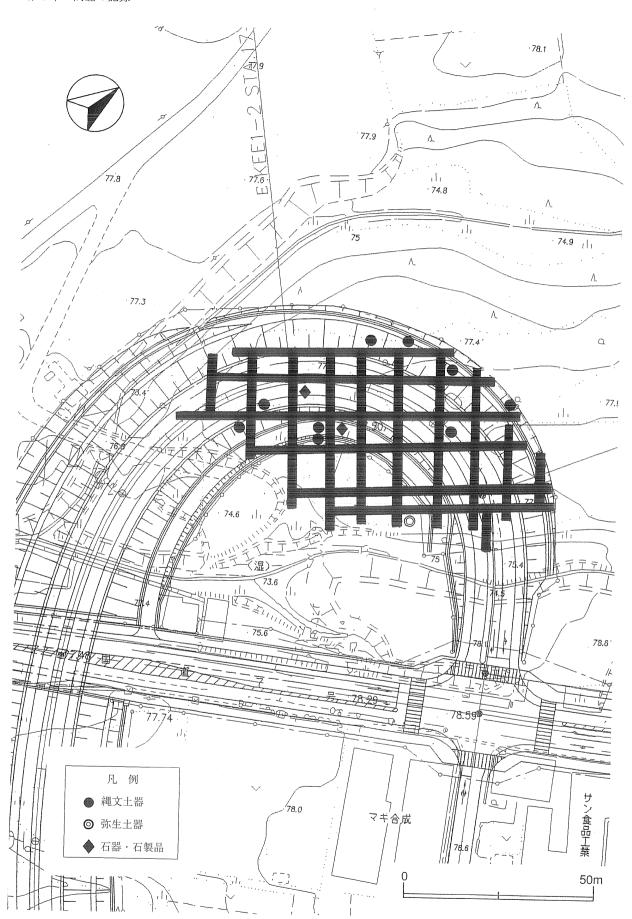
第74図 狼穴Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡、二ツ森Ⅱ遺跡、坂下遺跡、釈迦内中台Ⅱ遺跡位置図



第75図 二ツ森Ⅱ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第76図 二ツ森川遺跡調査結果図(遺構検出地点)



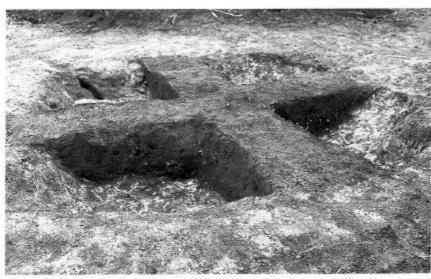
第77図 二ツ森Ⅱ遺跡調査結果図(遺物出土地点)



第78図 二ツ森Ⅱ遺跡範囲図



二ッ森Ⅱ遺跡 第5トレンチ 土坑検出状況(北から)



二ッ森Ⅱ遺跡 第5・第15トレンチ交点 土坑断面(西から)



二ッ森Ⅱ遺跡 第7トレンチ 陥し穴検出状況(北から)

② 狼 穴Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地

大館市釈迦内字狼穴18-2外

2 確認調査期間

平成13年5月21日~6月20日

3 確認調査対象面積

6,900 m²

4 工事区域内遺跡面積

3,800 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

狼穴Ⅱ遺跡は、大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北北東約4.5km、JR東日本奥羽本線の 南東側に近接して所在する。

本遺跡西方を米代川水系下内川が白神山地より南流しており、本遺跡は下内川支流乱川の右岸に立地する。遺跡は台地部分と低地より成り、台地は2段構造を呈する。標高は、台地の上段部分で77 m 前後、同下段部分で75 m前後、低地では69~70 mである。台地上段部分は、二ッ森Ⅱ遺跡や狼穴Ⅳ遺跡が立地する第3段丘に相当し、下段は段丘先端部と思われる。

b 現況

台地上段部分は宅地および畑地である。下段部分は旧宅地である。低地部分は水田および自然の沢である。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機または人力により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は970 m2で対象面積の14.1%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

台地上段の第5トレンチの層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (20cm)

第Ⅱ層 撹乱土 (10~15cm) 第Ⅲ層土に地山粒 (径5~30mm) 15%程度混入

第Ⅲ層 黒褐色土 (15~25cm)

第Ⅳ層 大湯浮石 (10~15cm)

第 V 層 黒色土 (60~70cm) = 遺物包含層

第VI層 黒色土~黒褐色土 (120~130cm)

第Ⅷ層 地山土=遺構確認面

遺構確認面は地山上面であるが、古代に属する遺構は第V層下位より掘り込まれている。遺構覆土もまたV層土に由来する。Ⅵ層土は埋没谷のみに堆積する。なお、台地上段から下段にかけての原地形はいくつかの小規模な沢により開削されており、下段は切土と盛土により構築された人為的な平坦面である。このような原地形の起伏と地形の改変は地表面の観察からだけではわかりにくい。なお、同じ台地上段の第1トレンチでは耕作土の下7㎝が地山面である。

いっぽう、低地部分の第18トレンチ中央の層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (15~30cm)

第Ⅱ層 黒褐色土(0~20cm) =遺物包含層

第Ⅲ層 暗褐色土 (70~80cm)

第Ⅳ層 灰褐色土 (10~15cm) =遺物包含層 (捨て場層)

第 V 層 黒色土 (5~20cm)

第VI層 砂利

なお、上記の第Ⅰ層~第Ⅳ層は、台地斜面における、捨て場的利用が確認された箇所の層序と共通する。

b 検出遺構と出土遺物

台地上段部分より縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑1基、陥し穴3基、古代(奈良~平安時代)の 竪穴住居跡3軒を検出した。古代住居跡は撹乱を受けていない大湯浮石層の下位より検出しており、火 山灰降下時より旧い時期に属すると考えられる。時代を問わず遺構の重複も認められる。

台地下段部分は、その中央部が宅地造成のため大きく削平され、撹乱を受けているが、縁辺部では 遺構の保存状態が良く、比較的大規模な縄文時代の土坑1基を確認している。

台地斜面部分では、東向き斜面において縄文時代前期の捨て場的利用の痕跡を確認しており、埋没谷の谷底には10~20cmの厚さで遺物が堆積する箇所がある。

低地部分においては、捨て場的利用の痕跡が調査区東端に近い沢の西縁に沿って確認できた。沖積 低地の西側から中央付近にかけては水田耕作による撹乱を受けており、遺物包含層は遺存していなかった。 また、沢および沢の東側も流水に切られていたため、遺物包含層は確認できなかった。

遺物は、捨て場や各遺構の近くより円筒下層a式土器・同b式土器、半円状扁平打製石器、尖頭器(押出型ポイント)、石匙、石箆、岩版、剥片など縄文時代前期中葉の遺物が多量に出土している。古代の遺物としては土師器、須恵器があるが、土師器のなかには内面に黒色処理を施したものがある。

8 所見

a 遺跡の種類

縄文時代および古代の集落跡である。

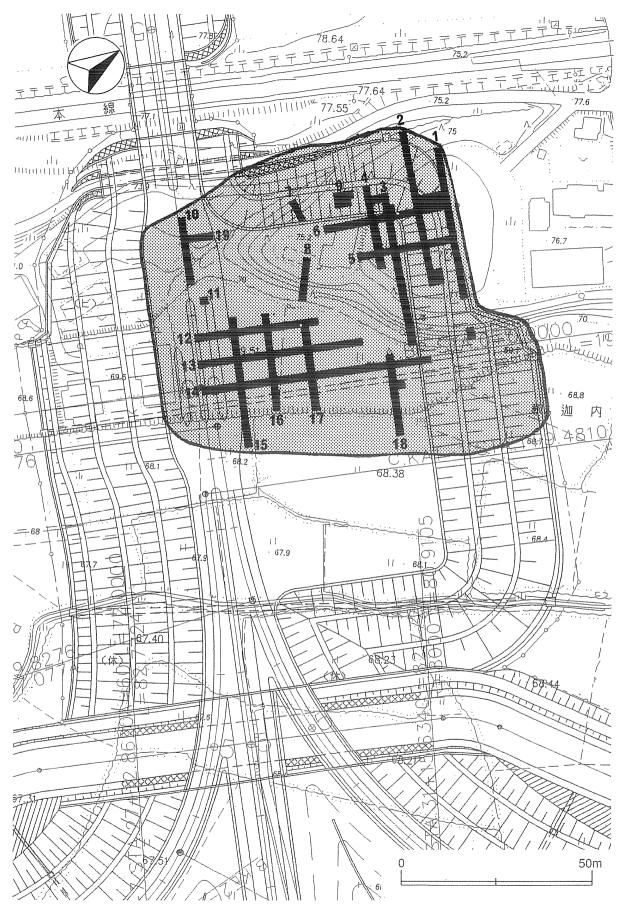
b 遺跡の範囲と工事区域

台地部分全域とその東側斜面、および低地部分のうちの沢の西側一帯である。工事区域内遺跡範囲の合計は3,800 m²となる。

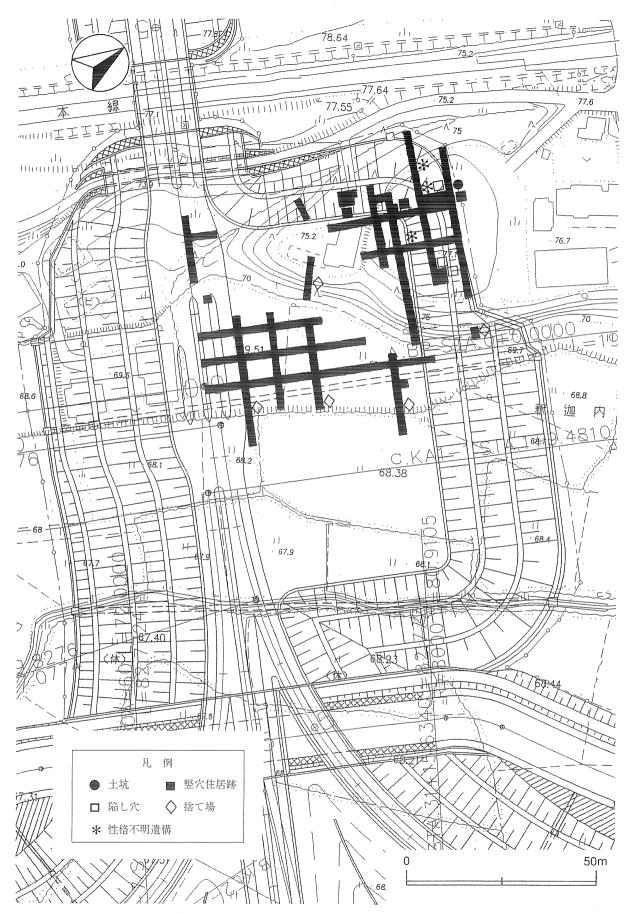
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、台地を中心に縄文時代前期の竪穴住居跡、土坑、陥し穴などの遺構と古代の竪穴住居跡等あわせて合計 20~30 基程度が検出されるものと予想する。また、斜面および低地では縄文時代前期の捨て場的利用の痕跡がかなり広範囲に及ぶものと考える。

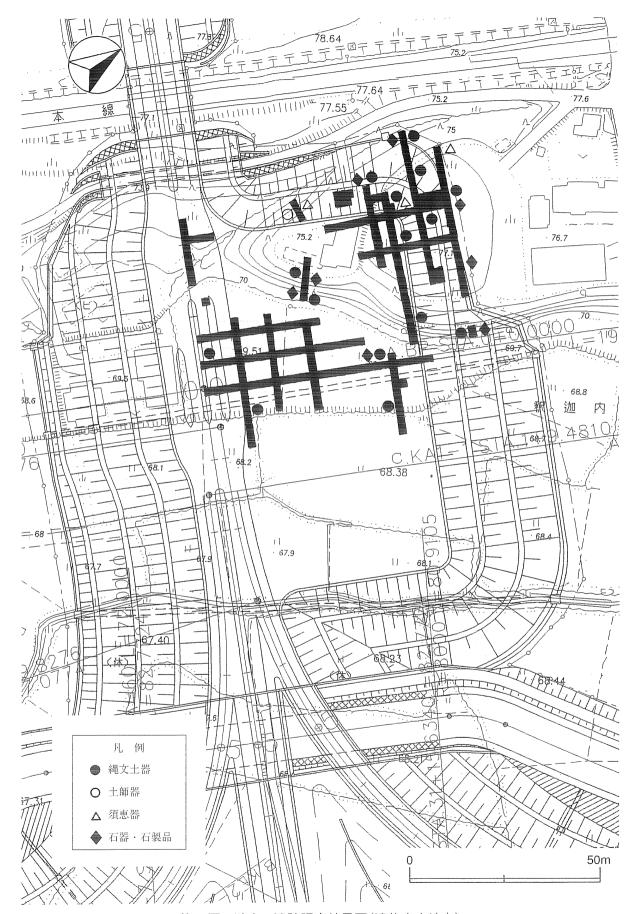
遺物は、縄文土器および石器・剥片等縄文時代の遺物が捨て場を中心に比較的多量に出土するものと考えられる。特に台地東斜面からの出土はかなり多量と予想する。低地部分では、土器の出土は多くはないが、木製品や植物遺存体など有機質の遺物が出土する可能性がある。古代土器については台地上の竪穴住居内からの出土が中心になるものと予想される。



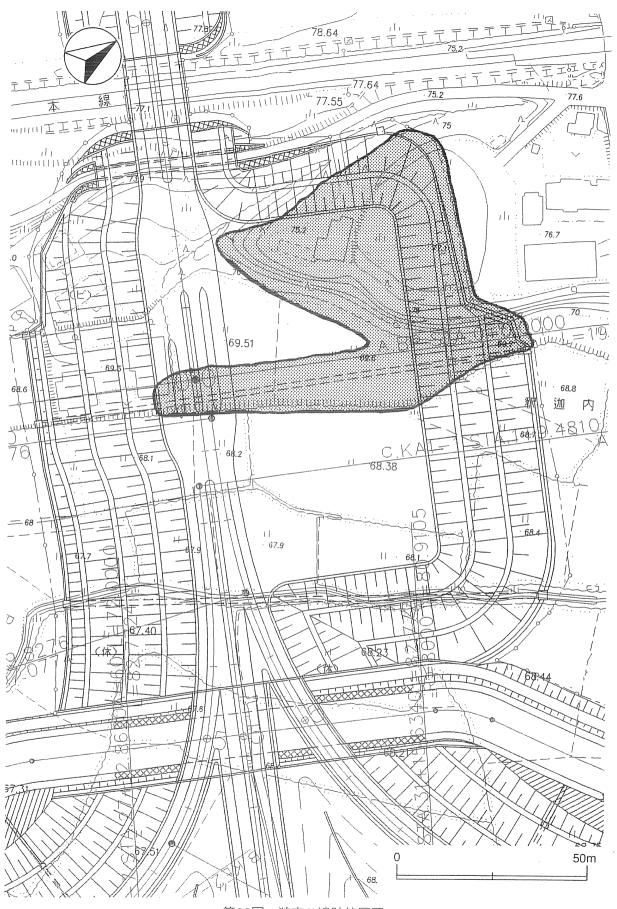
第79図 狼穴Ⅱ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



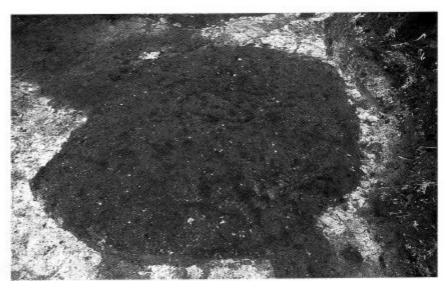
第80図 狼穴Ⅱ遺跡調査結果図(遺構検出地点)



第81図 狼穴Ⅱ遺跡調査結果図(遺物出土地点)



第82図 狼穴Ⅱ遺跡範囲図



狼穴Ⅱ遺跡 第4トレンチ 竪穴住居跡検出状況 (東から)



独穴Ⅱ遺跡 第1トレンチ斜面捨て場 遺物出土状況(東から)



独穴Ⅱ遺跡 第3・第6トレンチ交点 竪穴住居跡検出状況 (南東から)

第3章 調査の記録

③ 狼 穴Ⅲ遺跡

1 遺跡所在地 大館市釈迦内字狼穴 21 - 1 外

2 確認調査期間 平成13年5月21日~6月20日

3 確認調査対象面積 7,600 m²

4 工事区域内遺跡面積 1,600 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

狼穴Ⅲ遺跡は、大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北北東約4.3km、JR東日本奥羽本線の南東側に所在する。

本遺跡西方を米代川水系下内川が白神山地より南流しており、本遺跡は下内川支流乱川の右岸に立地する。

本遺跡は丘陵部分とその裾部の台地平坦部分よりなる。丘陵頂部の地表面標高は88.5 m、平坦部分の標高は76~77 mである。台地平坦部分は、タバコ畑を挟んでさらに2箇所に分かれるが、標高差がほとんどなく、いずれも更新世形成の河岸段丘面に相当するものと考えられる。

b 現況

丘陵部分はかつてはスギ林であったが、現在は伐採されている。灌木や草が繁茂しており、丘陵下の平坦部分はササを中心に背丈の長い下草が密生する。飛び地となる台地先端部は畑地である。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は610㎡で対象面積の8.0%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

丘陵裾部に設定した第3トレンチ中央、古代住居跡検出地点付近の層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (10~15cm)

第Ⅱ層 にぶい黄色土粒まじり暗褐色土 (20~25cm) =遺物包含層

第Ⅲ層 黒色土 (10~20cm)=遺構確認面

第 IV層 地山土まじり黒褐色土 (10 ~ 15cm)

第 V層 地山土 (明黄褐色土)

第Ⅲ層上面が遺構確認面であり、遺構覆土は確認面観察の結果、Ⅱ層土に由来する。したがって、遺構プランは黒色土中の暗褐色土の広がりとして確認できる。なお、Ⅱ層土に混入しているにぶい黄褐色土は径5mm程度で大湯浮石に由来すると思われ、Ⅲ層土には微細な火山灰粒および地山粒がごく微量混入している。Ⅳ層は漸移層である。

タバコ畑を挟んで飛び地状となる平坦部分では、耕作土直下が地山面であり、同時に遺構確認面となっている。

丘陵部分は10~15cmの表土の下がすぐに基盤岩となる箇所が多かった。

b 検出遺構と出土遺物

本遺跡は、丘陵とその麓の平坦部分およびタバコ畑を挟んで飛び地状をなす平坦部分との3箇所に 分けられるが、丘陵頂部および丘陵斜面からは遺構・遺物の確認がみられなかった。

丘陵裾部の平坦部分からは古代の竪穴住居跡 7 軒、ピット5 基、溝跡 1 条を確認した。

飛び地状をなす平坦部分からは、丘陵裾部の住居跡と同時代に属するであろう古代の竪穴住居跡 4 軒、土坑 4 基、不明遺構 2 基、ピット 14 基を確認した。

遺物は、土師器の坏・甕が中心で、須恵器も少量出土している。また、縄文土器もごく僅少ながら 出土している。

8 所見

a 遺跡の種類

竪穴住居を主とする古代集落である。

b 遺跡の範囲と工事区域

丘陵裾部の平坦部分(1,150 m²) およびタバコ畑を挟んだ旧畑地平坦部分(450 m²) である。

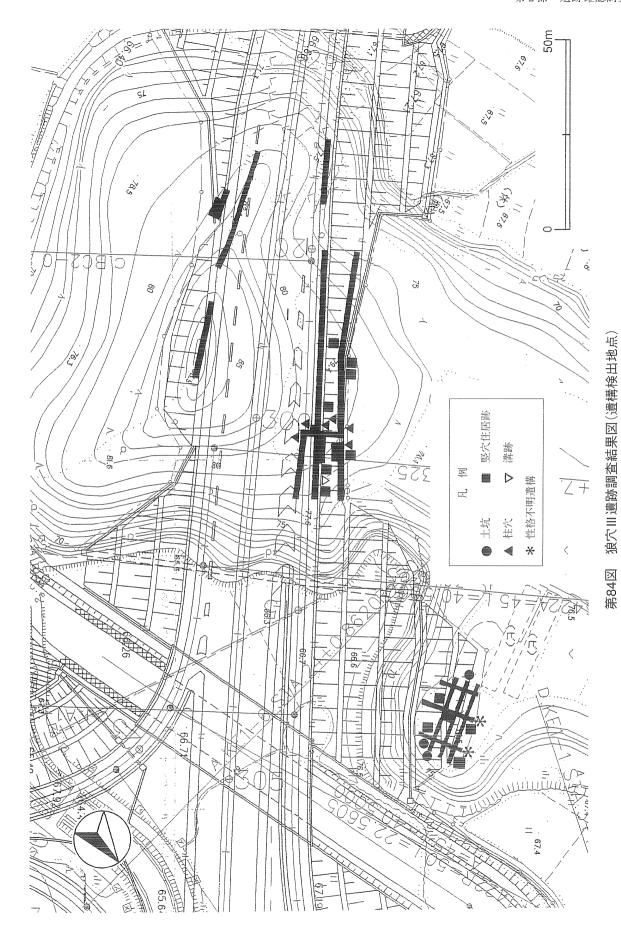
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

古代の竪穴住居跡が20軒以上検出される可能性が高く、溝跡や土坑ばかりではなく掘立柱建物跡も伴う可能性がある。遺物は、古代の土師器・須恵器が遺構内および包含層から出土するものと考えられる。

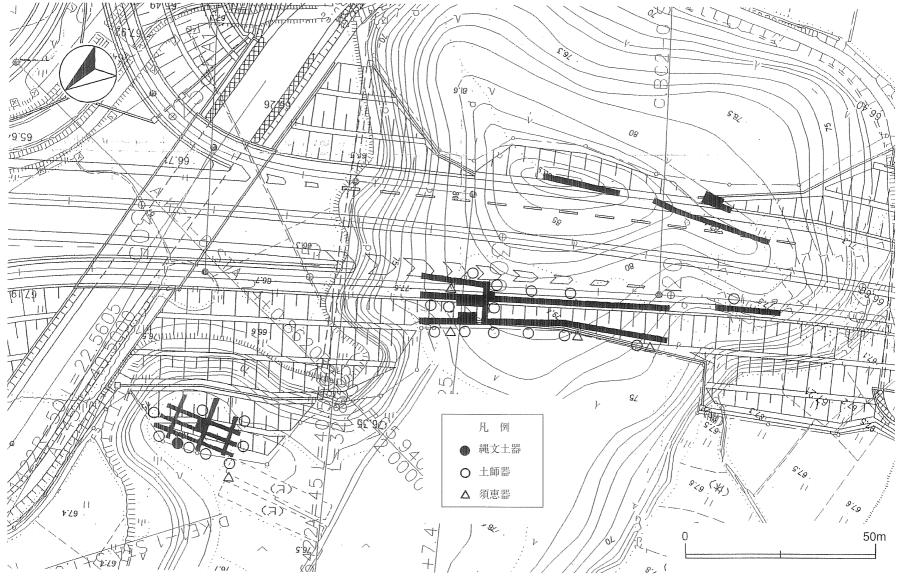
なお、表土除去を行う際は第Ⅱ層が遺物包含層であることに充分注意する必要がある。

85

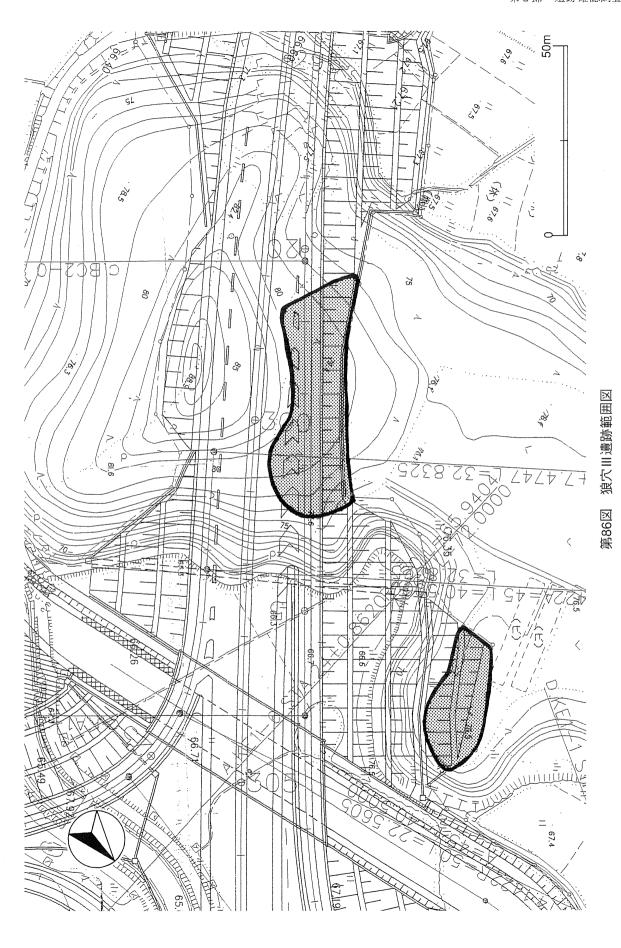
第83図 狼穴Ⅲ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



-86-



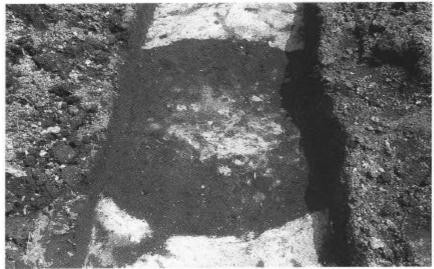
第85図 狼穴Ⅲ遺跡調査結果図(遺物出土地点)



-88 -



狼穴Ⅲ遺跡 山林部第3トレンチ 竪穴住居跡検出状況 (南から)



独穴Ⅲ遺跡 畑部第4トレンチ 土坑検出状況(北西から)



狼穴Ⅲ遺跡 畑部遺跡全景(北から)

④ 狼 穴Ⅳ遺跡

1 遺跡所在地 大館市釈迦内字狼穴 28 - 1 外

2 確認調査期間 平成13年5月21日~6月20日

3 確認調査対象面積 8,500 m²

4 工事区域内遺跡面積 5,400 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

狼穴Ⅳ遺跡は、大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北北東約4.7km、国道7号の南東側に接して所在し、JR奥羽本線が対象区南東端をかすめる。したがって、対象区のほとんどは国道7号と 奥羽本線に挟まれるかたちで立地するが、奥羽本線のさらに南東側も確認調査対象区となっている。

本遺跡周辺を米代川水系下内川が白神山地より南流しており、本遺跡は下内川支流乱川の右岸に立地する。

本遺跡は主に標高 76 ~ 78 mの緩やかに傾斜する台地よりなるが、対象区ほぼ中央を南北方向に横切るかたちで沢が開削する。台地平坦面は更進世形成の河岸段丘面である。

b 現況

国道7号寄りの対象区西側畑地と奥羽本線を挟む対象区東側スギ林とに大きく二分される。畑地には南北方向に沢が入る。沢は深さ約3m、幅14mほどで現状では流水はなく、南側は扇状に開削されている。調査区西端の国道7号に面した箇所はかつて宅地として利用されており、コンクリート基礎部分が一部調査区内に放置されている。なお、スギ林のうち、奥羽本線北西側にあたる大部分は、調査実施時点で未買収であったため、試掘トレンチを入れることができなかった。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は1,150 m²で、未買収箇所も含めた対象区全体の13.5%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

第7トレンチ・第8トレンチ交点付近の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (10 ~ 20cm)

第Ⅱ層 褐色土まじり黒褐色土 (15~20cm)

第Ⅲ層 黒褐色~暗褐色土 (5~10cm) =遺物包含層

第Ⅳ層 暗褐色土 (0~5 cm) =遺構確認面

第V層 地山土

第Ⅱ層中の褐色土は十和田 a 降下火山灰に由来すると思われる。第Ⅳ層は漸移層であるが、本層上面が遺構確認面である。対象区内の遺構覆土は確認面観察の結果、地山粒を含んだⅢ層土由来の黒褐色土と思われる。

b 検出遺構と出土遺物

対象区のうち買収の済んだ部分(畑地および旧宅地)は、沢を挟んで北西側と南東側に二分される

が、調査の結果、沢の南東側より6軒、北西側より1軒の古代の竪穴住居跡を検出した。さらに、対象区南東端の奥羽本線南東側スギ林より竪穴住居跡1軒を確認している。なお、他には平坦面畑地部分より溝跡5条、土坑2基、不明遺構3基などを確認している。

遺物はほとんど土師器で、甕が多い。1点のみ坏底部が出土した。底部切り離しは回転糸切り離しである。

8 所見

a 遺跡の種類

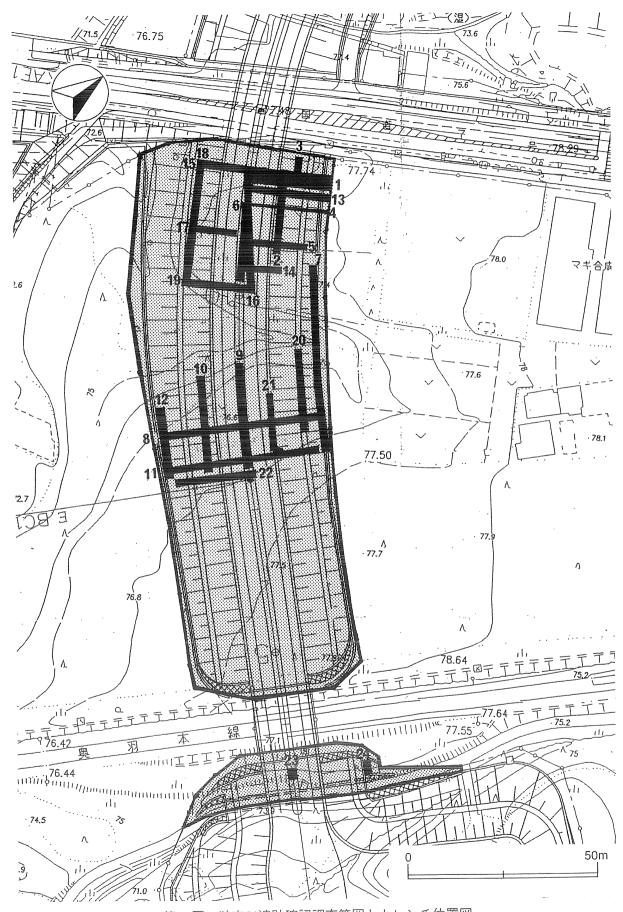
古代に属する集落である。

b 遺跡の範囲と工事区域

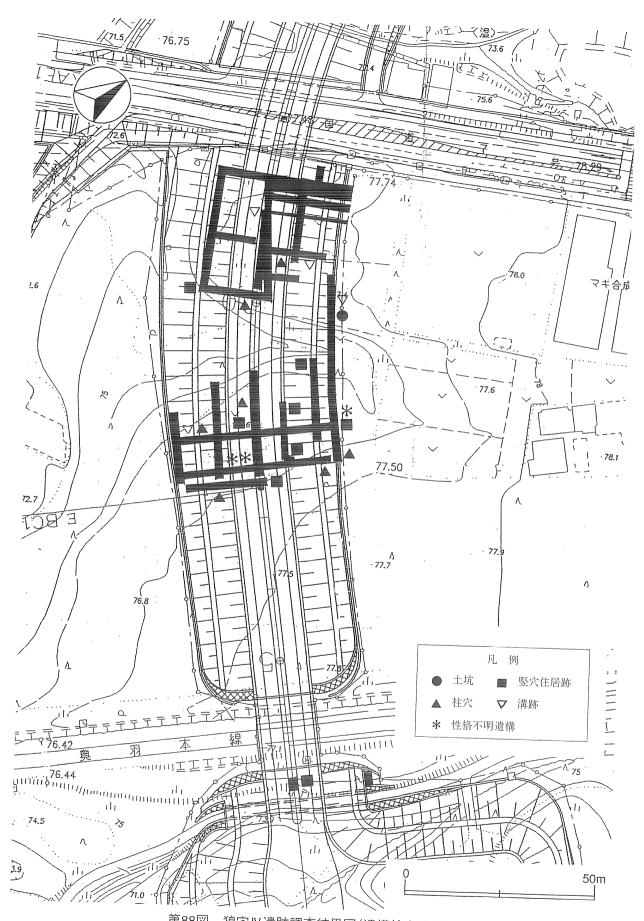
沢には遺構が見られず、遺物の出土もなかったため遺跡範囲外とした。未買収区については、畑地でも未買収区に近接した箇所での遺構密度が高く、線路を挟んだ対象区南東端スギ林でも住居跡が確認されており、なおかつ、当該箇所の地表面標高の起伏も少ないことから、その全域を遺跡範囲と判断した。以上の結果、工事区域内の遺跡範囲は5,400 ㎡となる。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

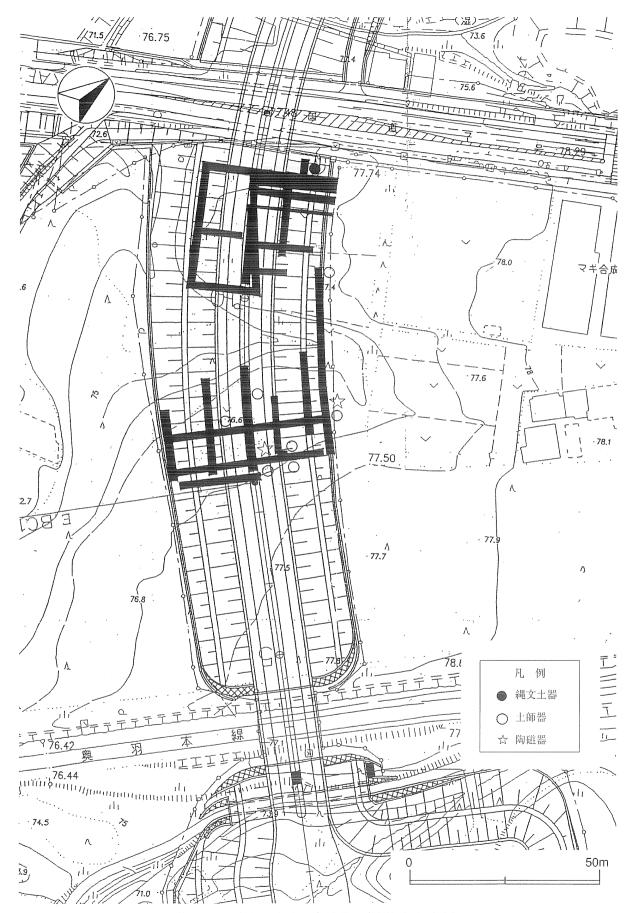
未買収区は、周囲の状況を考慮すると、試掘トレンチを入れた箇所以上に遺構密度が高い可能性がある。このことより遺跡全体では30軒以上の古代の竪穴住居跡の検出が予想される。遺物は、古代の土師器・須恵器が遺構内および包含層から出土するものと考えられる。



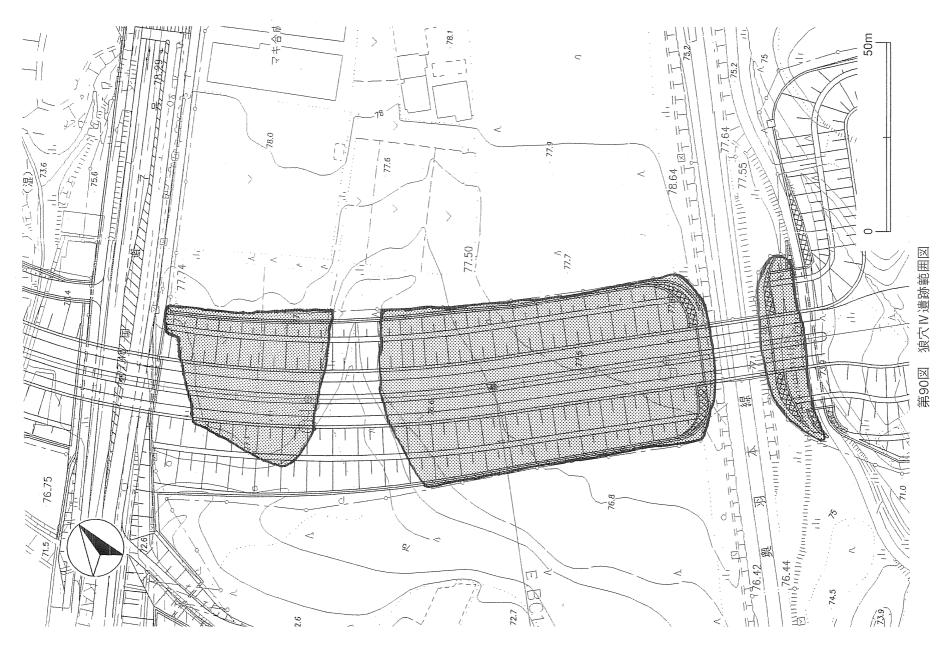
第87図 狼穴Ⅳ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第88図 狼穴Ⅳ遺跡調査結果図(遺構検出地点)



第89回 狼穴Ⅳ遺跡調査結果図(遺物出土地点)





狼穴Ⅳ遺跡 トレンチ調査風景 (北東から)



狼穴Ⅳ遺跡 第9トレンチ 竪穴住居跡検出状況 (北から)



狼穴Ⅳ遺跡 第7・第8トレンチ交点 遺物出土状況(東から)

⑤坂下遺跡

1 遺跡所在地

大館市商人留字坂下

2 確認調査期間

平成13年5月21日~6月20日

3 確認調査対象面積

 4.600 m^2

4 工事区域内遺跡面積

 0 m^2

5 遺跡の立地と現況

a 立地

坂下遺跡は、大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北北東約4.3kmに所在する。

本遺跡は、遺跡周辺を南西方向に流下する乱川左岸に立地し、出羽山系高森山地の残丘に由来する獅子ヶ森丘陵の西側緩斜面に相当する。標高値は71.3~83.6 mである。

b 現況

現況は、山林である。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は400 m²で対象面積の8.7%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

第 I 層 黒褐色土 (20~30cm) 小礫混入

第Ⅱ層 にぶい黄褐色土 (5~15cm)

第Ⅲ層 黄褐色土 (10~20cm) 中小礫混入

第Ⅳ層 黒色土 (110~120cm)

第 V層 地山土もしくは砂利

Ⅲ層は地山由来の再堆積層であり、Ⅳ層は撹乱を受けない十和田 a 降下火山灰を層状に含む箇所がある。地山面は一部礫がちであり、かつての流水の痕跡であることを示唆している。

b 検出遺構と出土遺物

掘削の結果、地形図上ではやや平坦と見なされた箇所も、原地形はかなり起伏がはげしく、多くの 沢が走っていることがわかった。地山は埋没谷では礫がちであり、そうでない箇所も倒木痕などの撹 乱や植林のための苗床があるだけで、遺構の検出・遺物の出土はともに皆無であった。

8 所見

遺構の検出および遺物の出土がなかったため、工事区域内での発掘調査の必要性はないものと判断 した。

図置かモベスイム囲弾査關隔郵棚遺不成 図19第 m02 ó 68.4 68.12 67.78 67.31 67.89 65.64 68 40 6 569.3111 71.3 77.8

李鵬點都遭 商2業

⑥釈迦内中台Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地

大館市釈迦内字中台74外

2 確認調查期間

平成13年5月28日~6月5日

3 確認調査対象面積

 -2.700 m^2

4 工事区域内遺跡面積

 0 m^2

5 遺跡の立地と現況

a 立地

大館市域のほぼ中央に位置し、大館市役所の北約3.7kmに所在する。乱川の右岸(標高73 m)に立地し、同一の台地上の北東方向にはJR奥羽本線を挟んで釈迦内中台I遺跡がある。

b 現況

台地上は畑地、斜面は山林、低地は原因者による厚さ10mの排土置場となっている。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、人力により表土を除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精 香して遺構・遺物の有無を確認した。当初は調査対象外だった東方低地も調査した。

確認調査における試掘面積は413㎡で、対象面積の15.3%に相当する。

7 確認調査の結果

a 層序

調査区西方の畑地の層序は以下の通りである。

第 I 層 黒色土。耕作土。層厚 20~50cm。

第Ⅱ層 黒色土。層厚15cm。

第Ⅲ層 黒色土。黄褐色地山粒子混入。層厚 10 ~ 15cm。

第Ⅳ層 黄褐色土。地山。

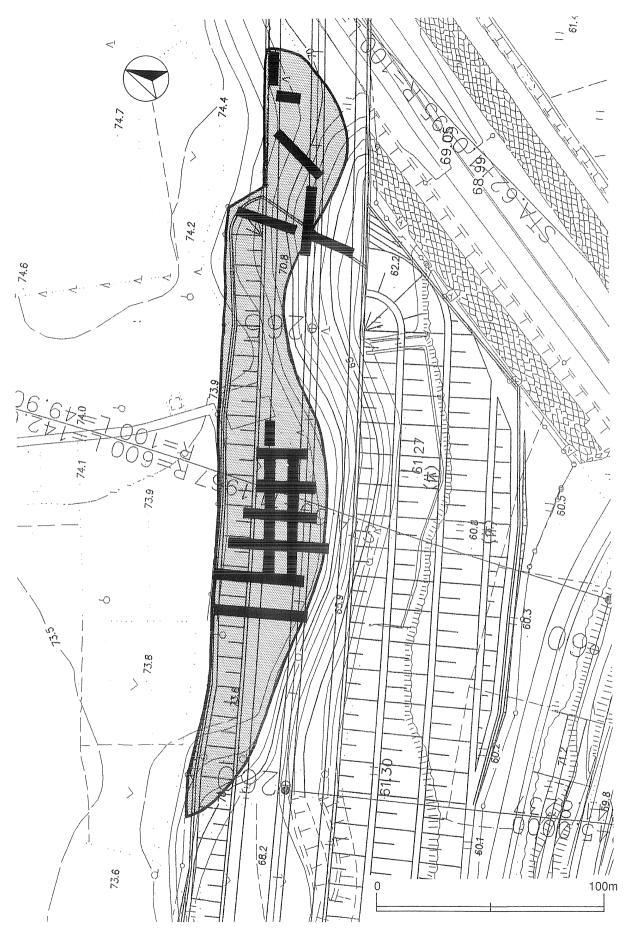
調査区東方の低地は、第 I 層が黒色土で層厚は80~115cm、その直下が地山面で灰黄褐色を呈している。

b 検出遺構と出土遺物

調査区西方の台地上の平場は、元土地所有者が耕作のために黒色土の除土を行っているので、地山 面がほぼ露出していた。遺構は、陥し穴、土坑各1基と小ピットを2基検出した。遺物は縄文土器と 土師器の小破片が数点出土した。平場に続く南東側の斜面上部からは遺物は全く出土しなかった。調 査区東方の山林、斜面および低地では遺構の検出はなく、土師器・須恵器の小破片が各1点出土した のみであった。

8 所見

平場には多くの遺構の存在を想定して密に発掘したが、地山は削土されていないにも関わらず、ごくわずかな遺構が検出されただけであり、それに続く斜面にも捨て場は全く存在しなかった。したがって、斜面下方の排土下には遺跡はないと考えることができる。全体に遺物の出土も極めて微量であり、工事区域内での発掘調査の必要性はないものと判断した。



第92図 釈迦内中台Ⅱ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図

調査の記録

第3章

釈迦内中台=遺跡調査結果図 第93図

(3) 一般国道7号琴斤能代道路建設事業

1 柏子 所 日遺跡

1 遺跡所在地

能代市字柏子所 33 外

2 確認調査期間

平成13年10月5日~10月19日

3 確認調査対象面積

17, 100 m²

4 工事区域内遺跡面積

 $2,650 \text{ m}^2$

5 遺跡の立地と現況

a 立地

能代市街地の南方に位置し、能代市役所の南南東 6.7km、JR東日本奥羽本線東能代駅の南南西 3.5kmに所在する。成合台地北端部の丘陵にあたり、全体に起伏に富む地形で、最高地は標高 40 mで ある。調査区の北端は北の低地に連なる斜面となっていて、低地の標高は 9 mである。低地には小野沢川水路が東西方向に流れている。

b 現況

丘陵はマツ・スギの林で、買収済み部分はすべて伐採されている。一部に残る未買収地はスギ林と ナラなどの林となっている。低地にはススキなどが繁茂している。

6 確認調査の方法

丘陵の南端にある最高地部分と、調査区北端にある斜面下部から低地にかけては重機の進入ができなかったので、人力のみでトレンチの掘り下げを行った。他は重機でトレンチの掘削を行った後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。なお、北端の低地は、周囲から流入した砂利層が厚く堆積していて、地山面まで掘り下げることはできなかった。

確認調査における試掘面積は1,140㎡で、調査対象面積の6.7%にあたる。

7 確認調査の結果

a 層序

丘陵上で古代の竪穴住居跡が検出された第19トレンチの層序は以下の通りである。

第 I 層 黒色土。表土。層厚 10cm。

第Ⅱ層 黒色土。層厚 10~15cm。

第Ⅲ層 黒色土。層厚。18~23cm。

第Ⅳ層 第Ⅲ層と第Ⅴ層の漸移層。層厚 15cm。

第V層 褐色土。地山。

低地に設定した第23トレンチ内の丘陵寄りの層序は以下の通りである。

第 I 層 黒褐色土。表土。礫 10%混入。層厚 20~25cm。

第Ⅱ層 暗オリーブ灰色土。礫20%混入。層厚30cm。

第Ⅲ層 黒色土。縄文後期遺物包含層。層厚 20cm~30cm。

第Ⅳ層 暗オリーブ灰色土。礫10%混入。わずかに遺物含む。

古代の竪穴住居跡を検出した第36トレンチの層序は以下の通りである。

第 I 層 暗褐色砂質土。層厚 10cm。

第Ⅱ層 暗褐色砂質土。層厚 10~15cm。

第Ⅲ層 第Ⅱ層と第Ⅳ層の漸移層。砂質土。

第Ⅳ層 黄褐色砂質土。地山。

b 検出遺構と出土遺物

丘陵上は起伏が多く、北部を除いて縄文時代や古代の遺構はなかったが、南部の斜面から炭窯が1 基検出された。炭窯は地表からその窪みと焼土が見られるので、ごく新しい時期のものである。付近に東西方向に走る道があり、この道を利用して生産した炭を搬出したものと推定される。確認できたものはこの1基のみであるが、付近に焼土が検出されている。

丘陵の北端部からは古代の竪穴住居跡2軒のほか、土坑1基、時代不明の柱穴様ピットを検出した。 丘陵北東部にある標高13mほどのテラス状張り出し部分からは、古代の竪穴住居跡2軒と土坑1基を 検出した。このうち住居跡1軒は地表からその窪みを見ることができる。

北端部の低地は丘陵斜面に挟まれた沢状の地形となっていて、周囲の斜面から水と砂利層が流入して堆積する状況にある。この沢筋下方の黒色土中から縄文時代後期の土器が比較的多く出土した。遺物包含層は厚さ20~30cmあり、低地一帯に広く連続して分布するものではなく、細かく途切れ、流入した砂利層がその上下に堆積し、斜面から崩落した黄褐色土が黒色土層を覆っている箇所もある。斜面には遺物包含層は見られないので、斜面から連続して存在するものではない。低地に遺構の検出はなかった。

8 所見

a 遺跡の種類

縄文時代後期の遺物包含層が低地に形成され、古代には竪穴住居から成る小規模な集落が丘陵の北端部に営まれた。丘陵上には近年の炭窯が構築されている。

b 遺跡の範囲と工事区域

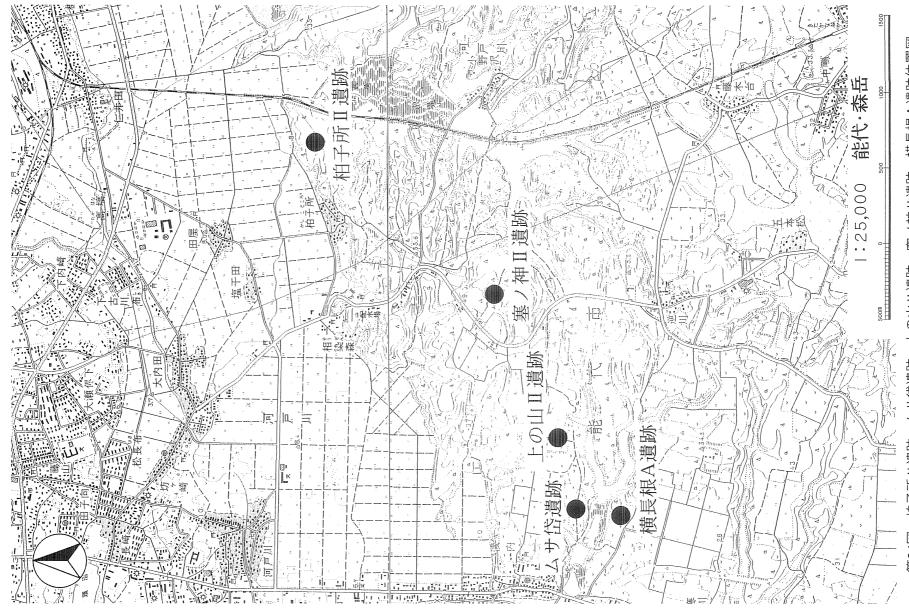
丘陵北端部と低地の計 2,650 m²が調査対象となる。丘陵上の炭窯は発掘調査の必要はない。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

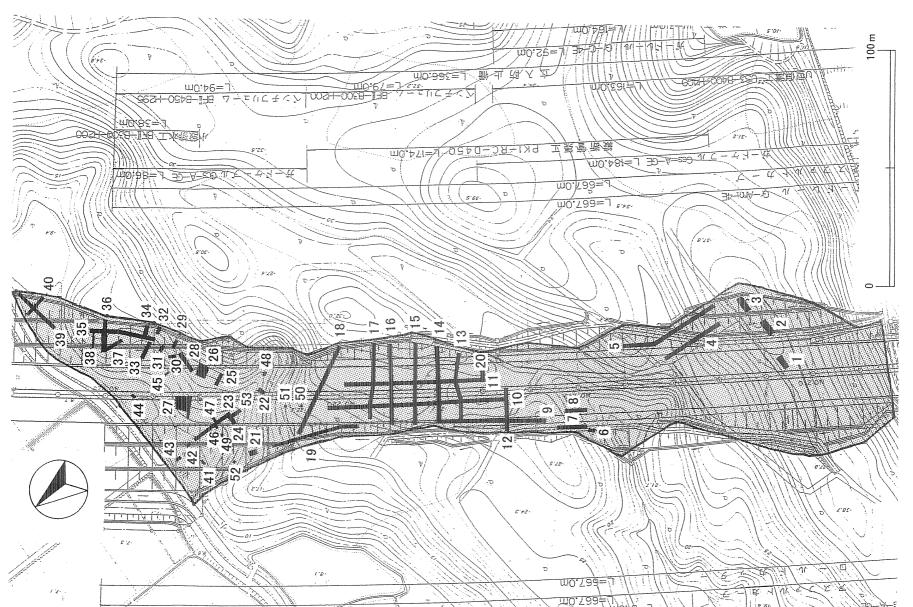
縄文時代後期の遺物は斜面下の低地からやや多く出土することが予想される。この時代の明確な遺構は検出されなかったが、低地の遺物包含層の形成に関わる遺構が丘陵状の北端部に存在するかもしれない。しかしその主体となる地域は西側工事範囲外にあると推定される。

低地は常に水流があり、周囲の斜面からの砂利層が流下して堆積する環境で、トチの実が出土したことから有機質の遺物の出土も予想される。水流を利用した何らかの遺構が存在するかもしれない。斜面からの遺物の出土はなかったが、西側の地域とのつながりを考慮して西斜面の一部も調査対象に含めた。

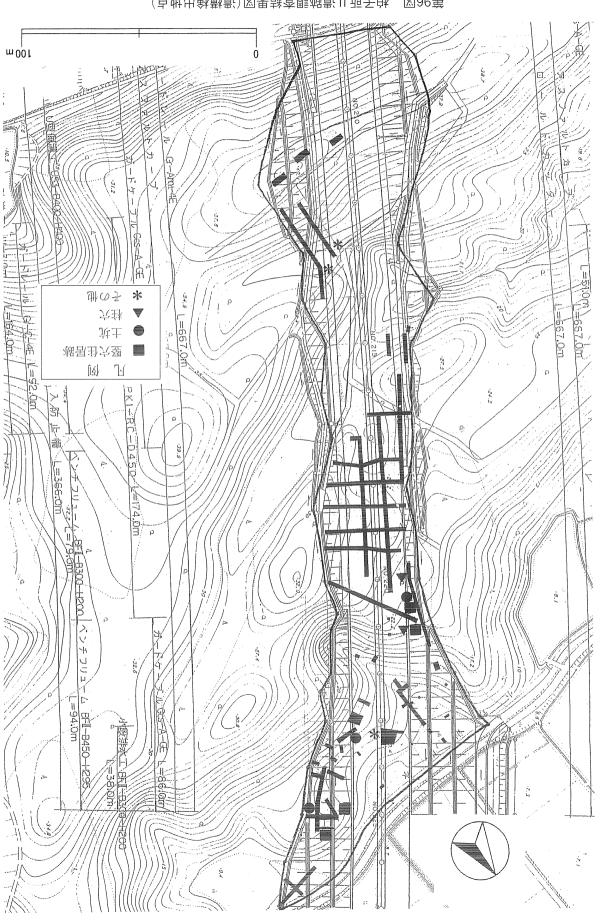
古代の遺構は丘陵上と北東部のテラス状張り出し部分に竪穴住居跡が計4~5軒存在し、これに伴う土坑も3~5基検出されると予想される。出土遺物は少ないと考えられる。



横長根A遺跡位置図 神川遺跡 栅 上の山川遺跡 ムサ岱遺跡 柏子所川遺跡 第94図



第95図 柏子所Ⅱ遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



(点此出斜構畫) 図果 諸査 鶥 樹豊 川 雨 千 帥 図 8 9 第

-107 -



第98図 柏子所 II 遺跡範囲図



柏子所Ⅱ遺跡 低地における作業状況 (南から)



柏子所Ⅱ遺跡 第19トレンチ 柱穴検出状況(南から)



柏子所Ⅱ遺跡 第36・第37トレンチ内 竪穴住居跡検出状況 (東から)

②ムサ岱遺跡

1 遺跡所在地 能代市浅内字ムサ岱38外

2 確認調査期間 平成13年8月22日~9月28日

3 確認調査対象面積 14,700 m²

4 工事区域内遺跡面積 14,700 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

ムサ岱遺跡は、米代川左岸の成合台地上に立地し、能代市役所の南約6.0km、JR奥羽本線東能代駅の南西約5.0kmに所在する。本遺跡の北東約30m地点に上の山Ⅱ遺跡、南西約120m地点に横長根A遺跡が立地する。成合台地は、地塁状を呈する砂礫第3段丘であり、段丘面は陸成堆積を呈する武蔵野面相当面である。

b 現況

中央を東西方向に走る市道によって北東側、南西側に2分され、さらに南西端には斜面となる一画がある。斜面を除くほとんど全域が水田である。水田部分の地表面標高は25~30 mで、両端の間の距離は約300 mである。南西端斜面部分は標高25 m以下で、樹林地として利用されている。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機または人力により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は1,230㎡で対象面積の8.4%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

第2トレンチと第4トレンチとの交点付近の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (40~50cm)

第Ⅱ層 黒褐色土 (15~30cm) 遺物包含層

第Ⅲ層 地山まじり黒褐色土 (15~25cm) 漸移層

第IV層 地山 遺構確認面

なお、第Ⅲ層は径2~10cmの地山粒のほか、炭が少量まじっている。

b 検出遺構と出土遺物

確認調査対象区全域より竪穴住居跡、焼土遺構、土坑、溝跡、柱穴などの遺構を検出している。竪穴住居跡は、10軒以上確認しており、焼土遺構としたもののなかに住居のカマドである可能性を有するものも含む。住居跡のなかには支脚が遺存したかたちでカマドを検出した例がある。土坑は径1.5m内外の円形土坑が特徴的にみられる。一部、試掘したところ擂鉢状の断面形状を呈し、底面付近より鉄滓が出土した。

竪穴住居跡2軒の覆土上位より白頭山火山灰を確認したため、10世紀前半と推定される火山灰降下時には住居が廃絶され、凹地となっていたものと思われる。このことより、住居跡の時期は主に9~10世紀前半と思われる。

遺物は、包含層および遺構覆土より古代土器が出土している。土師器が中コンテナで2箱、他に須

恵器、砥石などが調査対象区全域から出土している。

8 所見

a 遺跡の種類

平安時代の、竪穴住居を主とする集落跡である。

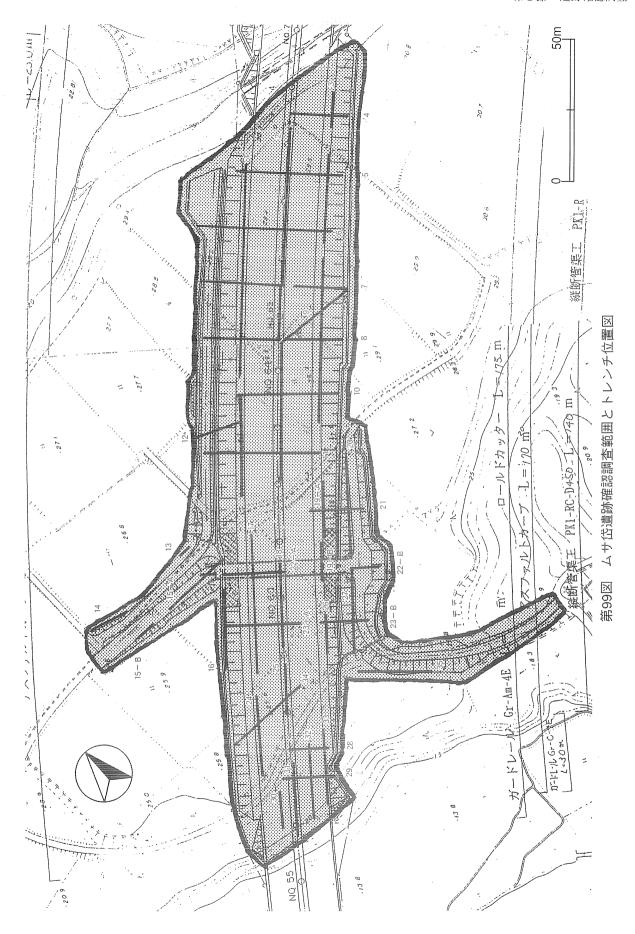
b 遺跡の範囲と工事区域

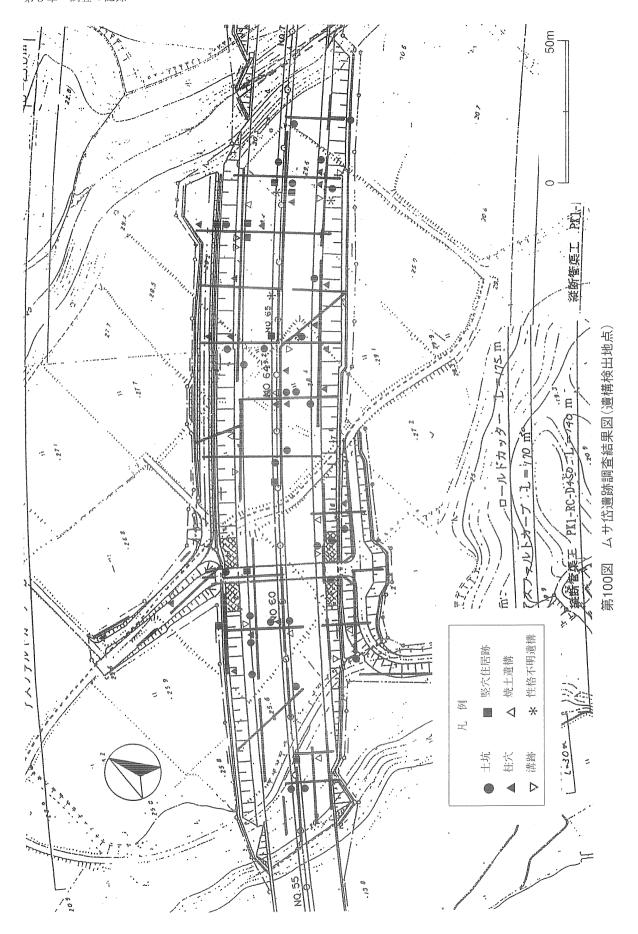
確認調査対象区全域の14,700 m²である。

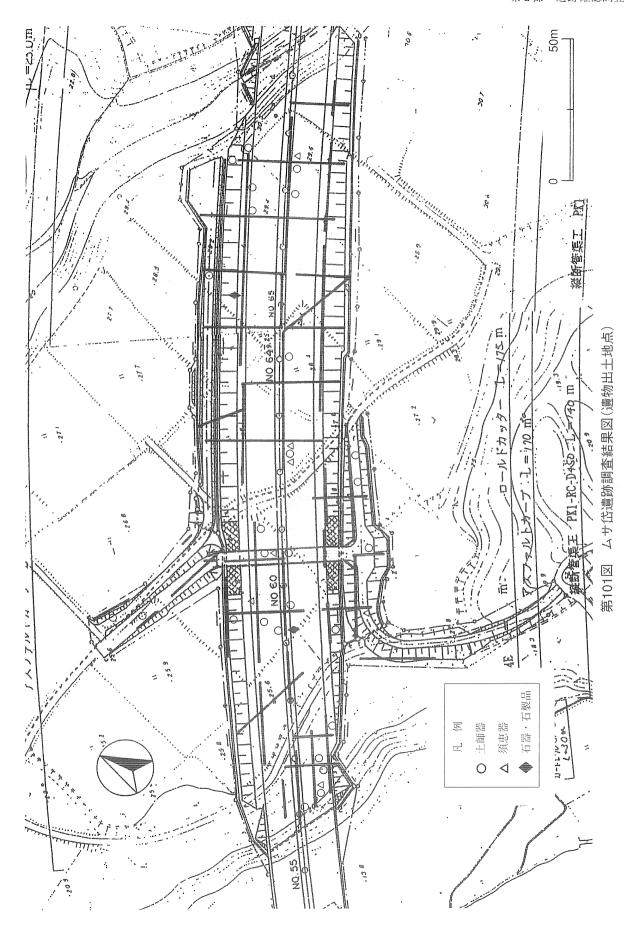
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

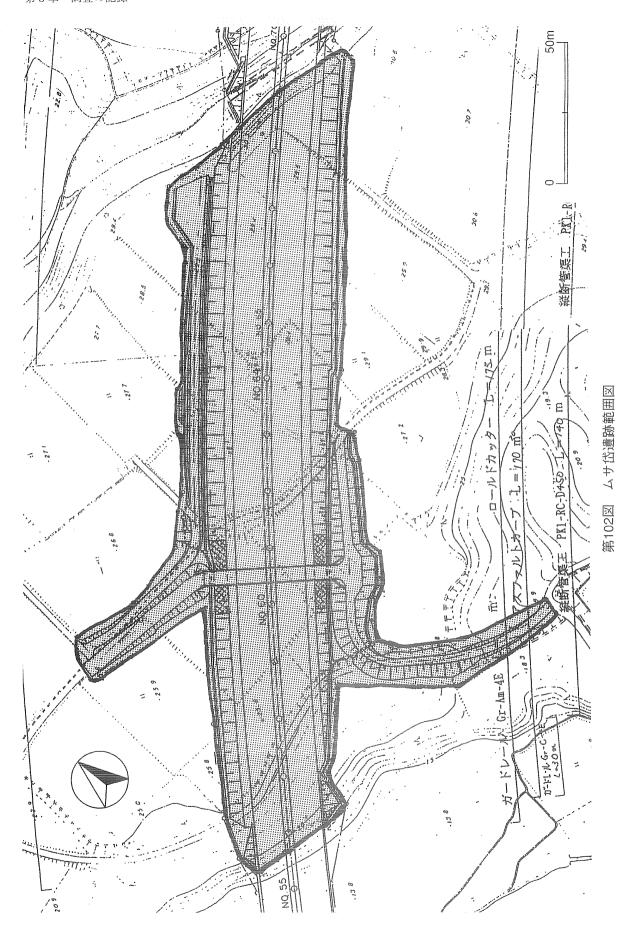
遺構は、竪穴住居跡が30~40軒程度検出されるものと思われる。他には掘立柱建物跡、土坑、溝跡などの遺構の検出が予想される。

遺物は、古代の土師器、須恵器が主に出土するものと思われるが、量的にはさほど多くないと考えられる。なお、『秋田県遺跡地図(中央版)』(1991) によれば、本遺跡よりの採集品として「土師器・須恵器・羽口・紡錘車・鉄滓」が掲げられている。









- 115 **-**



ムサ岱遺跡 第10トレンチ 遺構検出状況(北から)



ムサ岱遺跡 第6トレンチ 竪穴住居跡検出状況 (東から)



ムサ岱遺跡 第8トレンチ 土坑検出状況(南から)

③上の山川遺跡

1 遺跡所在地 能代市浅内字上ノ山70-3外

2 確認調査期間 平成13年8月22日~9月28日

3 確認調査対象面積 19,300 m²

4 工事区域内遺跡面積 15.500 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

上の山 II 遺跡は、米代川左岸の成合台地上に立地し、能代市役所の南約5.9km、JR 奥羽本線東能代駅の南西約4.6kmに所在する。能代市立浅内小学校の裏手にあり、ムサ岱遺跡との距離は約30 m、塞ノ神 II 遺跡との距離は約680 mである。成合台地は地塁状を呈する砂礫第3段丘であり、段丘面は陸成堆積よりなる武蔵野面相当面である。

なお、本遺跡では昭和58年度に2,645㎡、昭和60年度に4,270㎡、国営能代開拓建設事業に係る発掘調査が行われている。ともに今回の調査対象区の北西側に位置する。昭和58年度調査では竪穴住居跡19軒・掘立柱建物跡2棟など、60年度調査では竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡10棟などを検出しており、近江系とみられる緑釉陶器も出土している。

b 現況

対象区西側中央付近より北東端へ向けて市道がほぼ東西に走り、その北側が旧畑地、南側がグラウンド・樹林地および旧水田として利用されている。旧畑地は標高 $35 \sim 37 \,\mathrm{m}$ 、旧水田は標高 $29 \sim 33 \,\mathrm{m}$ で、グラウンドは未買収であったため、確認調査ができなかった。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は 2,060 m²で対象面積の 10.7% に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

第16トレンチ(第21トレンチ西側)の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 盛土 (60cm)

第Ⅱ層 黒褐色土 (15~20cm)

第Ⅲ層 黒色土(20cm) 遺物包含層

第Ⅳ層 黒色土 (5~10cm) 漸移層

第 V層 地山 遺構確認面

第 I 層は明褐色を呈する盛土で粘性が強い。遺構確認面は地山上面で、ここでの遺構覆土は黒褐色を呈する。

b 検出遺構と出土遺物

調査対象区北東の畑地は、遺物が散見されるものの遺構の検出は確認できなかった。

南西側旧水田は、水田造成による盛土の層厚が2mを越える箇所もあり、包含層の遺存状況はきわめて良好である。南西側より、竪穴住居跡11軒、土坑15基、柱穴27基、焼土遺構3基、溝跡2条な

どを確認している。うち1軒の竪穴住居跡の覆土上位で白頭山火山灰を確認しているので、10世紀前半以前が主時期となるものと判断できる。

遺物は、土師器が中コンテナで1箱、他に須恵器2点、中世陶器1点、土製品1点、縄文時代の石器1点などが出土している。

8 所見

a 遺跡の種類

竪穴住居と掘立柱建物より構成される平安時代の集落である。

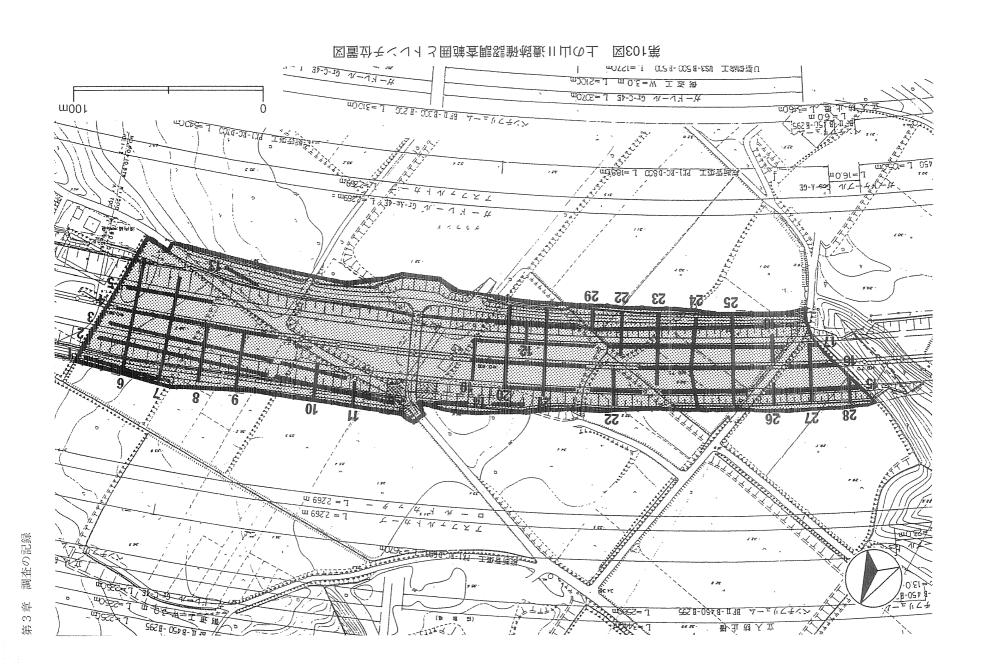
b 遺跡の範囲と工事区域

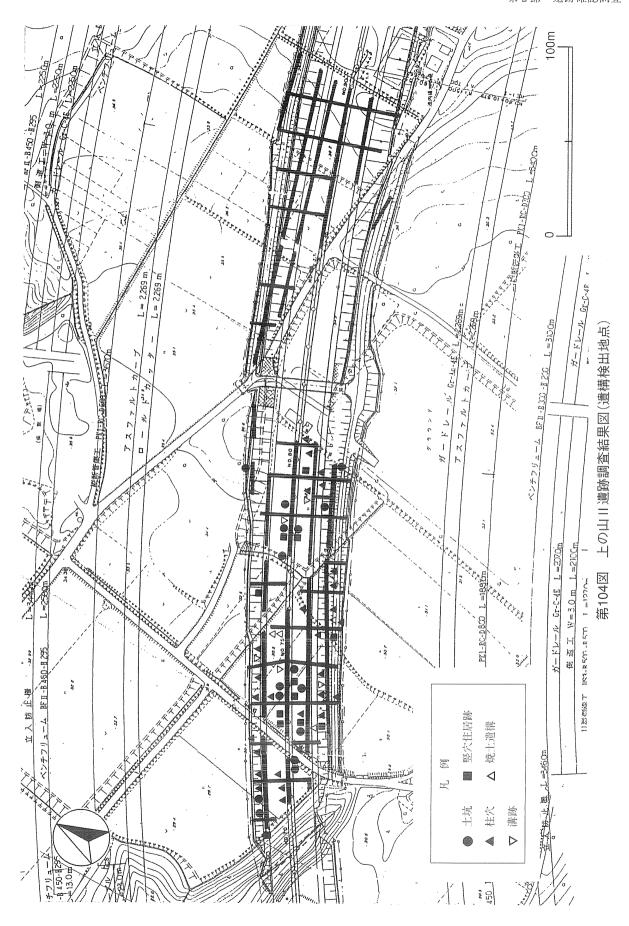
対象区南側の旧水田・グラウンド・樹林地 15,500 m²である。

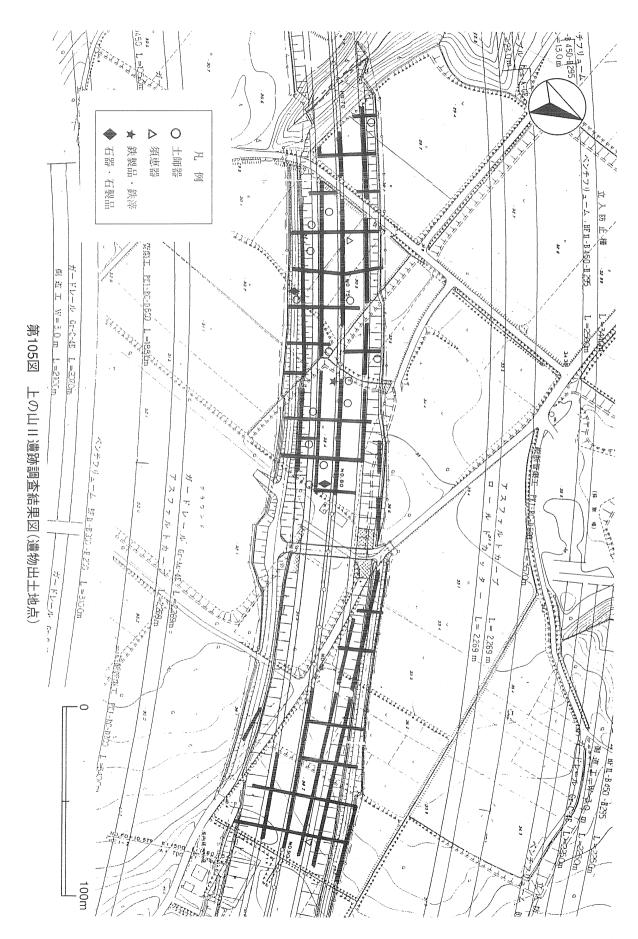
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

平安時代の竪穴住居跡が20軒以上、掘立柱建物跡が10棟以上、他に土坑や溝跡が検出されるものと思われる。

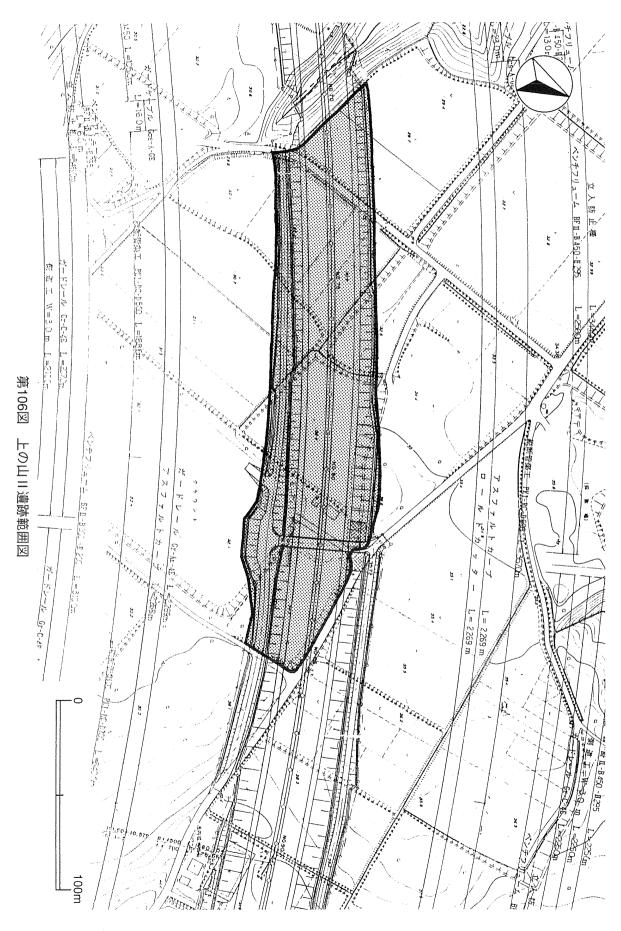
遺物は、土師器や須恵器などが、量的には多くはないが遺構内および包含層から出土するものと考えられる。







緑温の査鵬 章 8 歳



查鵬惩郵祵责 硝2萬



上の山Ⅱ遺跡 第16トレンチ 土坑・竪穴住居跡 検出状況(東から)



上の山Ⅱ遺跡 第15・第28トレンチ交点 土坑群検出状況 (南東から)



上の山Ⅱ遺跡 第2トレンチ 土坑検出状況(北から)

(4) 寒ノ神川遺跡

1 遺跡所在地 能代市字塞ノ神48外

2 確認調査期間 平成13年8月22日~10月5日

3 確認調査対象面積 26.400 m²

4 工事区域内遺跡面積 0 m²

5 遺跡の立地と現況

a 立地

塞ノ神Ⅱ遺跡は、米代川左岸の成合台地の北部に立地し、能代市役所の南南東約5.7km、JR奥羽本線東能代駅の南南西約3.7km、北金岡駅の北西約2.9km、相染森集落の南東約0.9kmの地点に所在する。成合台地は砂礫第3段丘であり、段丘面は武蔵野面相当面である。

遺跡の北約0.8kmには縄文時代後・晩期の柏子所貝塚、南西約0.7kmには平安時代の上の山Ⅱ遺跡、 東約0.05kmには塞ノ神遺跡が立地する。

b 現況

調査区全域が樹林地もしくは荒蕪地である。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は2,800 m²で、未買収箇所も含めた対象区全体の11.0%に相当する。

7 確認調查結果

a **層序** - ()内は層厚-

第31トレンチ・第34トレンチ交点付近の基本層序は以下のとおりである。

第 I 層 耕作土 (15cm)

第Ⅱ層 黒色土 (10~15cm)

第Ⅲ層 暗褐色土 (10~15cm)

第Ⅳ層 地山土

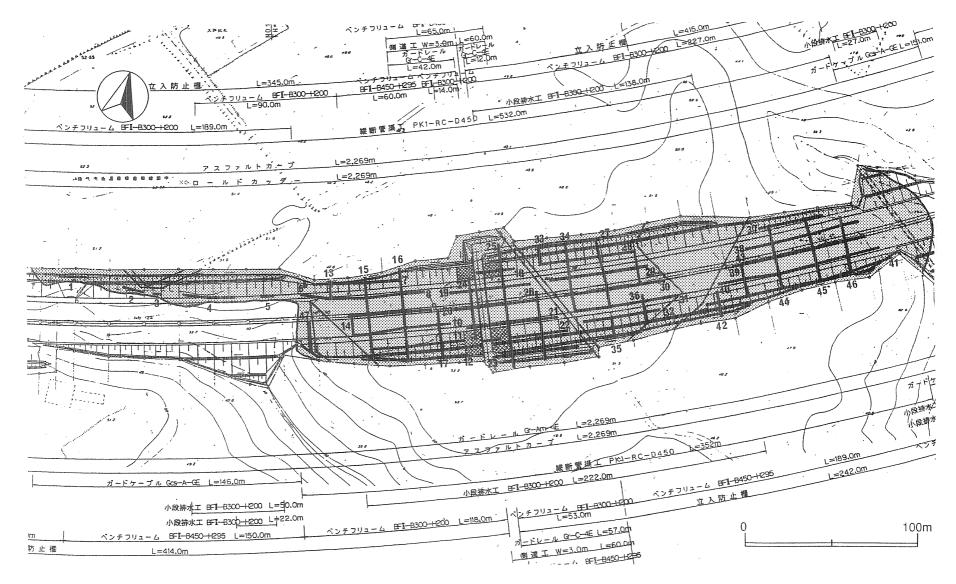
なお、Tピットの検出した第19トレンチでは表土(撹乱土)15cm下に地山土があり、遺構確認面となっている。

b 検出遺構と出土遺物

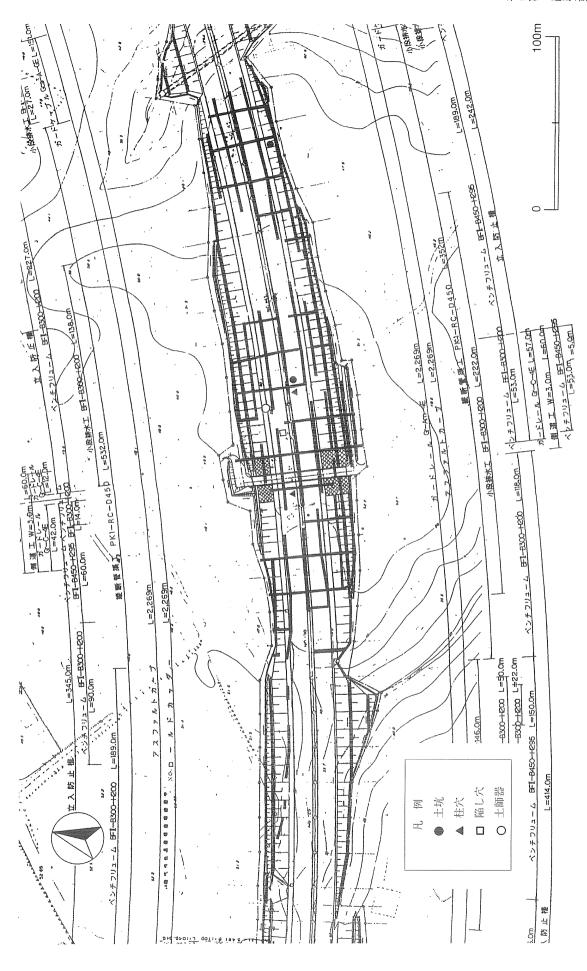
検出遺構はTピット1基のみである。周辺を拡幅したが、さらなる遺構の検出はなかった。 出土遺物は土師器小片1点のみである。

8 所見

検出したTピットについて掘り下げを行ったが、遺物の供伴はなかった。小規模な狩猟場である可能性があるので工事立ち会いは必要であるが、遺構の検出・遺物の出土はともにきわめて僅少であるため、工事区域内での発掘調査の必要性はないものと判断した。



第107図 塞ノ神川遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第108図 塞ノ神川遺跡調査結果図

⑤横長根A遺跡

1 遺跡所在地

能代市浅内字横長根23-1外

2 確認調査期間

平成13年8月22日~9月28日

3 確認調査対象面積

8,300 m²

4 工事区域内遺跡面積

 0 m^2

5 遺跡の立地と現況

a 立地

横長根A遺跡は、米代川左岸の成合台地上に立地し、能代市役所の南約6.3km、JR奥羽本線東能代駅の南西約5.2km、ムサ岱遺跡の南西約120m地点に所在する。成合台地は地塁状を呈する砂礫第3段丘であり、段丘面は陸成堆積よりなる武蔵野面相当面である。

b 現況

遺跡北側は標高31~34mの小規模で緩やかな微高地であり、南側は標高30.5m前後の平坦面である。微高地緩斜面は旧畑地で、現在、一部に樹木が繁茂する。南側平坦面は旧水田である。

6 確認調査の方法

地形を考慮してトレンチを設定し、重機により表土を掘削したのち、遺構確認面もしくは地山面を 精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は900 m²で対象面積の10.8%に相当する。

7 確認調査結果

a **層序** - () 内は層厚-

第 I 層 耕作土 (30cm)

第Ⅱ層 撹乱土 (60cm)

第Ⅲ層 地山土

Ⅱ層撹乱土は黒褐色土を主とし、地山由来の褐色土粒がまじる。地山土は褐色を呈する。

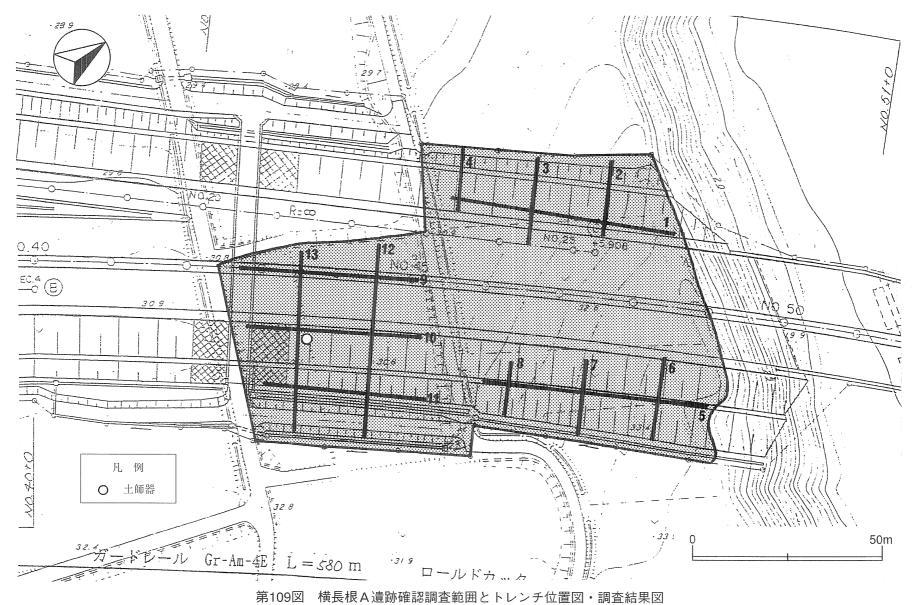
b 検出遺構と出土遺物

調査の結果、旧水田は大規模な地形改変を受けていることが判明した。対象区全域を通して遺構は 全く確認できなかった。

遺物は、土師器小片1点のみである。

8 所見

遺構の検出がなく、遺物の出土もごく僅少であったため、工事区域内での発掘調査の必要性はないものと判断した。



(4) 国道 105 号国道道路改築工事事業

①長野 | 遺跡

遺跡所在地 北秋田郡森吉町米内沢字長野 131 外 1

平成13年11月5日~11月9日 2 確認調查期間

3 確認調查対象面積 16.500 m^2

工事区域内遺跡面積 0 m^2 4

遺跡の立地と現況

a 立地

遺跡は、秋田内陸縦貫鉄道米内沢駅から北東に約1.0km、阿仁川右岸の大野台台地の南東部に位置 する。標高は50~65mで、沢を隔てた南側に本年度発掘調査した長野岱Ⅲ遺跡が存在する。

ь 現況

遺跡は畑地・山林で一部宅地が含まれている。町道が調査区中央部を東西に走っており、それに並 行するように深さ約2mの水路が通っている。山林の杉は全て伐採されている。調査区北側の畑地に は以前ビニールハウスで使用していた水道パイプが残っている。

6 確認調査の方法

町道より南側は、地形と計画路線の形状に応じて幅1mのトレンチと、それに直交する東西方向に 10 m毎にトレンチを設定した。北側は、南北方向に幅2 mのトレンチを設定し、直交する東西方向に は幅1mのトレンチを10m毎に設定した。

試掘面積は1.500 m²で、調査対象面積の9.1%である。

7 確認調査の結果

層序

調査区南部第9トレンチの層序は以下のとおりである。

第 I 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。 表土 (耕作土)。 層厚 15 ~ 20cm。

第 II 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。一部十和田 a 火山灰を含む。層厚 50 ~ 55cm。

第Ⅲ層 黒褐色土 (10 Y R 2 / 2)。漸移層。層厚 20 ~ 25cm。

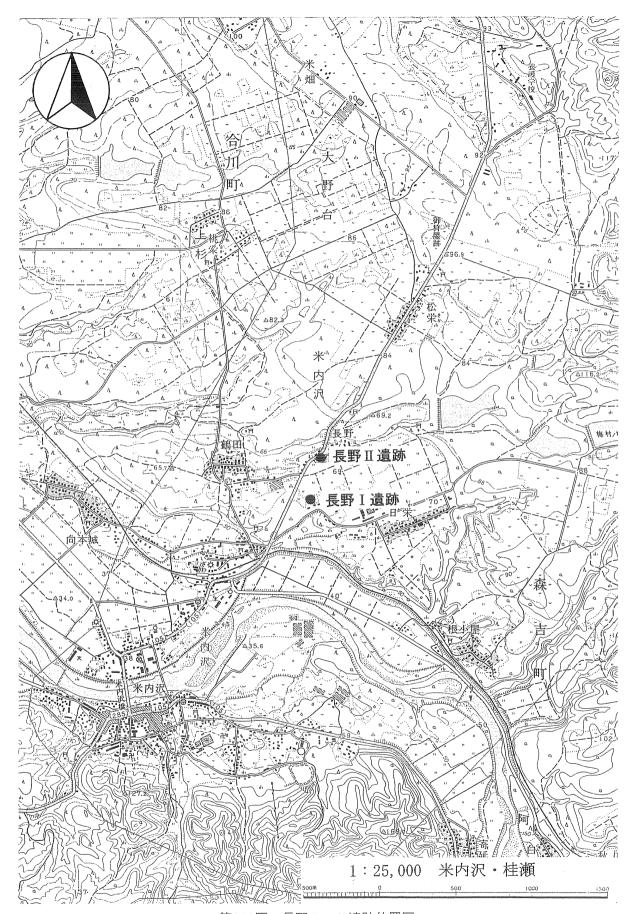
第Ⅳ層 褐色土 (10 Y R 4 / 6)。地山。

検出遺構と出土遺物

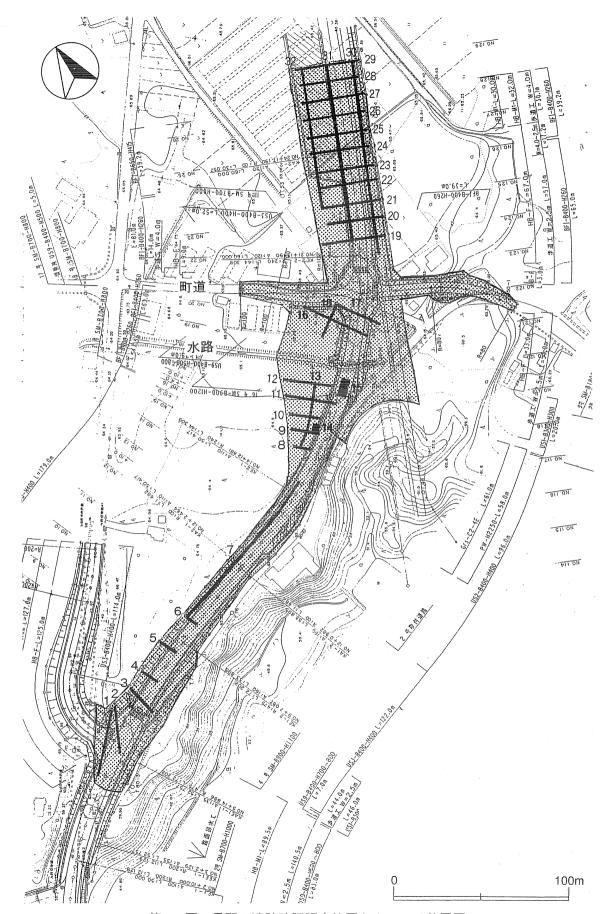
遺構は町道南側でフラスコ状土坑1基を検出し、覆土の上層から土師器片、覆土下層から縄文時代 後期の土器片が出土した。遺構外では遺物の出土が極めて少なく、第2トレンチから縄文土器片1点 と第15トレンチから凹石1点が出土しただけである。

8 所見

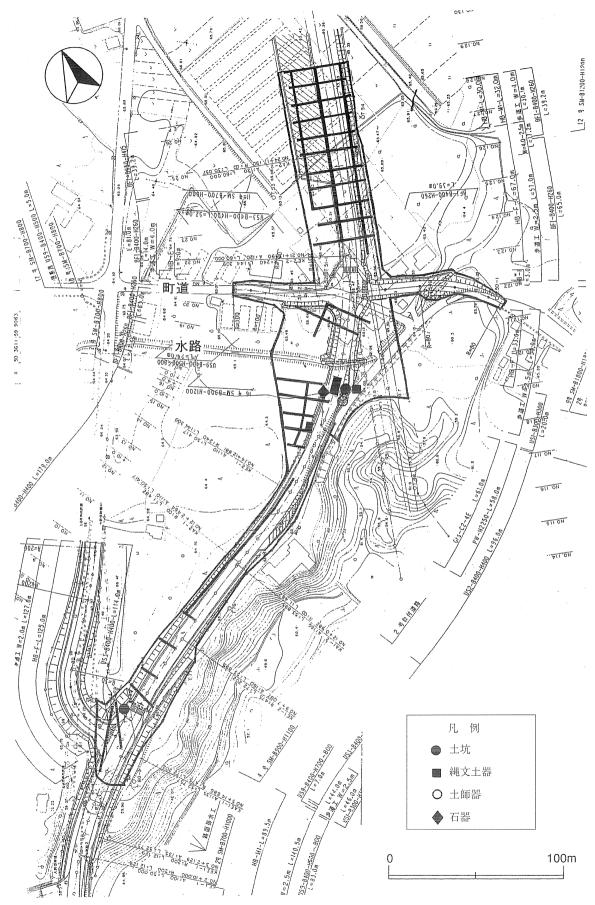
遺構の検出、遺物の出土ともに極めて少なかったことから、本工事区域内の発掘調査の必要性はな いと判断した。



第110回 長野Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図



第111図 長野 | 遺跡確認調査範囲とトレンチ位置図



第112図 長野 | 遺跡調査結果図

②長野Ⅱ遺跡

1 遺跡所在地

北秋田郡森吉町米内沢字長野91-3外

2 確認調查期間

平成13年11月12日~11月16日

3 確認調查対象面積

 5.000 m^2

4 工事区域内遺跡面積

1,830 m²

5 遺跡の立地と現況

a 万地

遺跡は、長野 I 遺跡から北北東に約 $100 \, \text{m}$ 、標高 $60 \sim 65 \, \text{m}$ の河岸段丘上に位置する。国道 $105 \, \text{号線}$ が調査区中央部を南北に縦断しており、国道を挟んで南側が一段低くなっている。

b 現況

遺跡は水田・畑地で一部宅地が含まれている。調査区北西側には建物解体時に出た産業廃棄物が多量に残っている。

6 確認調査の方法

調査区北東側及び北西側では国道に沿って幅1mのトレンチを10m毎に、それに直交して10m毎にトレンチを設定した。また分布調査で確認された竪穴住居跡の広がりを確認するため一部トレンチを拡張している。調査区南東側では計画路線の南北方向に幅1mのトレンチを10m毎に、それに直交する東西方向のトレンチを10m毎に設定した。

試掘面積は460 m²で、調査対象面積の9.2%である。

7 確認調査結果

a 層序

調査区北西側第16トレンチの層序は以下の通りである。

第 I 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。表土 (耕作土)。層厚 5 ~ 10cm。

第Ⅱ層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。層厚 15 ~ 20cm。

第Ⅲ層 黒褐色土 (10 Y R 2 / 2)。漸移層。層厚 15 ~ 25cm。

第IV層 明黄褐色土 (10 Y R 6 / 6)。地山

調査区南東側第7トレンチの層序は以下の通りである。

第 I 層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。表土 (耕作土)。層厚 15 ~ 20cm。

第Ⅱ層 黒色土 (10 Y R 2 / 1)。層厚 15 ~ 35cm。

第Ⅲ層 暗褐色土(10 Y R 3 / 3)。漸移層。

第IV層 黄褐色土 (10 Y R 5 / 6)。地山

遺物は、遺構外では出土しなかった。

b 検出遺構と出土遺物

遺構は調査区北西側で竪穴住居跡2軒、土坑2基を検出した。竪穴住居跡はいずれも方形を呈しており、重複している。また確認面から土師器片数点と鉄製品1点が出土した。土坑2基ともに遺物は出土しなかった。調査区北東側では方形プランの柱穴跡を数基検出し、半截したが、遺物は出土しなかった。調査区南東側では時代不明の井戸跡1基を検出した。井戸跡は径2m、深さ2m以上である。

8 所見

a 遺跡の種類

竪穴住居跡からなる古代の集落跡と考えられる。

b 遺跡の範囲と工事区域

竪穴住居跡が検出された調査区北西側で1,800㎡、調査区南側で井戸跡を中心とした30㎡の2箇所、計1,830㎡が工事区域内の遺跡範囲である。

c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

調査区北西側で竪穴住居跡が2~3軒程度、土坑が数基検出されると予想される。遺物の出土は少ないと予想される。